

会 議 録

会議の名称		令和 4 年度第 3 回つくば市地域ケア会議 第 3 回つくば市生活支援体制整備推進会議		
開催日時		令和 4 年 10 月 20 日（木） 開会 午前 10 時 00 分 閉会 午後 12 時 10 分		
開催場所		つくば市役所 会議室 202、203		
事務局（担当課）		福祉部地域包括支援課		
出席者	委 員	下村哲志、山中克夫、小林路江、大橋功、佐藤文信、堀越健一、但野恭一、椎名清代、水谷浩子、前田亮一、佐々木湧人、根本けい子、白石通 （オンラインでの出席）成島淨、海老原良之、福井正人		
	その他	つくば市社会福祉協議会 大竹統括係長（谷西） つくば市社会福祉協議会 2 層 SC 小川（桜）、益子（荃崎）、小倉（大穂） 筑波地域包括支援センター 戸塚保健師 大穂豊里地域包括支援センター 井ノ口センター長 谷田部西地域包括支援センター 平林センター長 谷田部東地域包括支援センター 鬼久保センター長 桜地域包括支援センター 寺田センター長 （以下オンラインでの出席） 荃崎地域包括支援センター 大塚センター長		
	事務局	地域包括支援課：会田課長、松尾社会福祉士、佐藤保健師、金山主任 CM、宮主事 高齢福祉課：石川係長、川上主事		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				

様式第 1 号

議 題	ア報告・共有事項 （１）第２回会議での協議事項まとめ （２）本日の協議の進め方 イ地域課題に関する情報共有及び協議 ①ごみ出し支援 （１）環境衛生課からの情報提供、ごみに関する現状説明 及び質疑応答 （２）グループワークの進め方について ②移動支援 （１）福祉有償運送「友の会・たすけあい」 桜ニュータウン高齢者等送迎システム「さくら」 （２）グループワークの進め方について ウ協議 ①ごみ出し支援 （１）モデル地区の選定と取組内容 （２）グループワーク ②移動支援 （１）活動団体の課題について具体的な取組みの意見出し （２）立ち上げを支援、事例の横展開、アドバイス体制が 構築されるような具体的な取組みの意見出し エ発表 オ事務連絡 カまとめ
-----	---

<審議内容>

1 開会

課長：定刻になりましたので、ただいまより令和 4 年度第 3 回つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議を開催いたします。

私本日の司会を務めます、地域包括支援課の会田と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

また、今回も複数の委員の皆様が Zoom による参加となっております。

それぞれの画面に名前が出ていますのでご確認ください。

資料に入る前に資料の確認をさせていただきます。

そして当日資料として、ナンバー当日資料ナンバー 1 として、ごみ出し支援に関する資料があります。皆様資料の方は大丈夫でしょうか。

不足があれば挙手をいただければと思います。

それでは会議に移っていききたいと思います。

会議を開催要項第五条第 1 項、第六条第 2 項の規定により、議事進行を山中委員長にお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：皆さんおはようございます。

本来は 9 月末に行われる予定でしたが、私事ではございますが 8 月の後半に網膜剥離を起こしまして、入院その後自宅療養等がありまして、この会議の遅れる一番の原因になりました。本当に申し訳ございませんでした。

この会の打ち合わせで、1 層コーディネーターの地域包括の皆さんとも話をして、自分で思いましたことは、今まではこの協議体を立ち上げていく形を作るっていうところで、精一杯でしたが、打ち合わせ等は、1

層コーディネーターの方、それから社協の 2 層コーディネーターの方と、私の方で会議の前にも何回と研究室に来ていただいて、夜遅くまで。打ち合わせをしていたところあります。

ですけれども。自分もちょっと体悪くし、また委員の中にもお体を悪くされて、お休みされた方もいらっしゃる状況を考えると、この協議体の集まった委員の皆様全員に協力していただいて、これから専門的な意味で、この委員の方がふさわしいとか、これは市民委員に言ってもらった方がいいということで、役割に応じて、分担をしていくことが必要だと思います。

皆様のご意見が反映されていくのが一番のこの委員会だと思いますので、よろしくお願いいたします。

この後、グループワークが中心になっており、広い会場を用意していただきましたが、皆様のグループワークで出た意見、これが元になって今後、この生活支援体制整備、地域ケアの方向性が具体化されてきますのでよろしくお願いします。

今日の議題ですが、最初にグループワークに入る前に、第 2 回会議での協議事項のまとめと、今日の協議の進め方について、1 層コーディネーターの松尾さん、説明をお願いいたします。

事務局：資料 No. 1 をもとに説明

委員長：説明がございましたが、前回の要約と今日グループに分かれて話し合う事項が最後にございましたが、ご質問等がありましたらお願いします。

今日の時間を有効に利用するということで、この後早速、グループに分かれて話し合い、最初に説明を受けてですが、よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございます。今日は同時並行して、こちらは環境衛生課さんからの話でこちらは佐藤さんと但野さんからのお話と進めていこうと思いますので、少しだけ仕切りを作らせていただいて、話が混じらないようにして、そこからグループワークに進めていこうと思います。

グループワークが終わりましたら仕切りを外して、全体で共有します。

よろしくお願いいたします。

イ地域課題に関する情報共有及び協議

①ごみ出し支援

- (1) 環境衛生課からの情報提供、ごみに関する現状説明及び質疑応答
- (2) グループワークの進め方について

②移動支援

- (1) 福祉有償運送「友の会・たすけあい」
桜ニュータウン高齢者等送迎システム「さくら」
- (2) グループワークの進め方について

ウ協議

①ごみ出し支援

- (1) モデル地区の選定と取組内容
- (2) グループワーク

②移動支援

- (1) 活動団体の課題について具体的な取組みの意見出し
 - (2) 立ち上げを支援、事例の横展開、アドバイス体制が構築される
ような具体的な取組みの意見出し
- 以上についてグループに分かれて協議を行った。

委員長：皆さんお疲れ様でした。

様式第 1 号

時間が限られておりますので、最初にごみ出しの問題、それから移動支援、それぞれご発表をお願いします。「ごみ出し」は、環境衛生の方に来ていただいて説明したり、「移動」の方は、佐藤さん、但野さん発表があったと思いますし、全体的なところでどんなことが話し合われたかそれぞれコーディネーターの佐藤さんと松尾さんでお話しいただいた後に、各班で話し合われたことについてご発表いただきたいと思います。

事務局：ごみ出し支援チームにつきましては、前回の会議のまとめにもございましたように、事業のモデル化はどうか、といったところに向けて、つくば市内の各地区における特徴や実態を、まずは把握することについて、二段階のワークを進めて参りました。

一つ目が、地区を見る作業をいたしました。地図に要介護の高齢者のプロットやごみ出しの情報をプロットし、すでにごみ出し支援の体制ができているところ色づけして、地図で見える化して、そこを皆さんで眺めてもらいました。

ここら辺が、支援が足りていないとか、もう少し実態を把握したほうがいいとか、今ある情報だけでは、核心的な課題はまだ見えてこないのではないかという意見もありました。

二つ目が、その実態を、本当に核心に迫って把握していくためにはどのような作業が必要になっていくか、6W1Hを用いて、具体的に活動に向けて、協議をして、の活動の内容について協議を深めていただきました。

委員長：各班の皆さんでどんな意見が上がったかということについてお話いただきたいです。

全体の資料としては、資料2のつくば市内のごみ出し支援状況と、ごみ出し支援データを集約した地図とごみ出し支援のワークシートあたり

です。移動支援の方々も見て共有していただければ。A チームの方お願いいたします。

グループ A（ごみ出し支援）の発表

委 員：A チームでごみ出し支援問題について、発表させていただきます。

今回、突然具体的な部分にぽんと渡されまして、その内容を把握するのが大変でしたが、納得した上で、今までのアンケートから集約した地図という部分、この地図の中から何が読み取れるのかということでした。まず一番、目についたのが実質的にごみ出し支援を検討している地域として、それから地域としてやっているという網掛けがされてないのですけれども、対象者がたくさんいる地域、そういう地域がたくさんございます。そういう地域はそれだけの問題がありながら、放置されている状況なのかどうかということで、私も民生委員をやっておりますので、自分の地域の意見を出させていただきました。区長とか民生委員とかで、ご近所の人をまとめてその場その場、一つずつある程度解決しているので、制度として、地域でこういうふうに、きちんとやっていこうよねというところまで至っていない。しかし、問題的には、きちんと地域で解決している地域も十分に予想されると思います。

ただ、これはきちんと実態を把握しないとわからないという形になりました。

そういう地域をどのようにきちんと把握できるか、そういうことを実質的にタスクフォースでやっていきましょうということになっている以上、そういう地域をどのようにして設定して、きちんとした実態を調査するためには、聞く項目、アンケート項目をタスクフォースとして練って、現場に出なきゃ駄目ですよ。

それから、一つの区会だけではなく、ある程度のまとまった地域として、アンケートを取りたいです。

そういう取れる地域って具体的に本当にあるのかなというような話になりました。

また今年度中にある程度結果を出すためには、まず第 1 回目を 12 月ぐらいまでに実施せざるを得ないとなると、果たしてそういう受けられる地域はあるのかという、問題になりました。

現在、つくば市のスマートシティ戦略課で実証実験をやっております。それを受けているのが、荃崎と、それから筑波地区の小田地区という形になっております。

なぜつくば市が、そういう場所で実証実験をやるのかというと、その地域に持っていけば、ある程度の地域の面積、人口、住民の形態、そういうものがきちんと取れる地域というのが 2 ヶ所あって、我々もそういう地域をお願いをして地域に入らせていただく。

次に、地域の相手をどうするかということですが、今まではこういうアンケートは、区長さん単独とか、民生委員さん単独とかの形が多かったように思われます。

そうではなく地域の実情を知るためには、区長、民生委員、地域包括の方、実質的にそこで活動しているケアマネに一堂に集まっていたいて、そこで地域の問題、ごみの問題についてどんな問題があるのか、きちんと調査したいというような形になりました。

今言われたような形で、小田地区と荃崎地区がここに挙がっております。それから、いつまでという形で、これはあくまでも第 1 回目は実証実験的に地域に入って、そこでやった結果、アンケート項目とか、いろいろなものをきちんと見直して、他の地域にまた入っていくという形にしたいということで、第 1 回目は 12 月までに行いたいと思う。地域に実際に入って、その地域の中の方たちから実際に話を聞くという結論が出ました

委員長：ありがとうございました。いろんなことが話し合ったことがわかりました。B グループの方お願いいたします。

グループ B（ごみ出し支援）の発表

委員：B グループでは、ごみ出し支援に関するデータを集約した地図を見ながら、地区ごとのごみ出し支援の実態、特徴等について、話し合いを行いました。

話し合いの中で出た意見としては、駅周辺の学園都市のあたりは、高齢者の数、独居高齢者の数が多いのにもかかわらず、その民生委員による調査において、ごみ出し支援が必要と回答した人が少ないという特徴があることがわかり、学園都市あたりはまだ実態の把握が行われていないのではないかという意見が出ました。

一方で、つくば市の南の方の荃崎地区などは、高齢者の数に対してごみ出し支援が必要としている方の把握等も行われていて、さらにコミュニティによるごみ出し支援が実際に検討されていたり、行われていたりする地区が多いため、荃崎地区はコミュニティ支援型が中心に行われているのではないかという意見が出ました。

次に、ごみ出し支援の問題の実態を把握するためには、まず学園都市あたりが、そもそも、実態把握が行われていないのではないかという意見が出たことで、学園地区等を対象に、実際どのようなニーズごみ出し支援のニーズがあるのかというところ。把握することが必要だという意見が出ました。

ごみ出し支援に関して、学園地区をまず対象として、その調査に関しては、いつまでにするかというところまではまだ話し合いが行えずに終わってしまったのですが、対象としては、地区の住民すべてを対象にすることで、実際に戸建住宅の方と集合住宅の方で多分ごみ出し支援のニーズ等また異なると思うので、その辺の把握やごみ出し支援を手伝いたい

様式第 1 号

という若い人の掘り起こしにも繋がるという意見が出たので、対象としては、地区の住民すべてを対象とすると考えました。

方法としては、ごみ出し支援のアンケート調査を行うということで、そのアンケートの内容としては、まず高齢者の方に対しては、ケアマネさんを利用しているか、今はごみ出し支援を必要と聞くという意見が出ました。一方で若い人に対しては、ごみ出し支援に対して関心があるか、手伝えることに興味はあるかを聞くことで、ごみ出し支援の実態がより把握できると意見が出ました。以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。

A チームと B チーフで分かれて、補いながら、視点が違っていいなと思いました。ありがとうございます。

そしたら、移動支援について全体的なところを松尾さんの方で、そのあと、C と D、それぞれご発表いただきます。

事務局：こちらの移動支援の方のグループは、委員さんの中に、佐藤さんと但野さん、それぞれ福祉有償運送と、許可を要しない形態の移動システムをやっているお2人がいらっしゃったので、今日はその2人から実際のところの流れですとか、歴史、今の方法、課題になることなどを最初に情報提供をいただきました。

その上でワークに移りまして、ワークは二つ用意しておりまして、現在活動している団体の課題として、大きく出てくるのが人材確保の困難についてですが、それについての具体的な取り組みについて意見出しを行うこと、二つ目としては、今後立ち上げをしたいと考えているところもある中で、佐藤さん但野さんのような好事例が横展開していくように、またアドバイス体制が構築されるような具体的な取り組みについて意見出しを行う、この二つについてお話を進めていただきました。

委員長：それでは C チームお願いいたします

グループ C（移動支援）の発表

委員：C グループでは、桜ニュータウンの方で一番の人員確保の困難についての話と、2 番の横展開についての話をしました。

桜ニュータウンでは、人員募集のチラシを常に出している状態ですけれどもなかなか集まらない状態で団地の中のみで配っています。

ただし、団地の中に配っているっていうのは、顔見知りのメリット、桜ニュータウン内のドライバーさんであれば、安心感があるということで今はそういう形で出しています。

出た意見としては、人員確保に関しては、協力者の確保は国の政策で 100 年働く方向の時代なので、確保はちょっと厳しいのではないかという意見がありました。

移動距離が長いのが問題ということで、短くしてオンライン診療や移動販売を利用したらどうかという意見もありました。

他にも時間が自由になる学生さんの協力や主婦層の協力もお願いしてはどうかという話もありました。

通院乗降介助や移動サービス専門集団に相談してハブ効果を得たらどうかという話もありました。

2 番としては、横展開していくには、デイサービスで朝晩ドライバーさんが空いているので利用してはどうか、つくタク、つくバスの住み分けと、ウーバーでマッチングしてはどうかという話もありました。

移動支援のところで七つの団体があるので、そのところで相談して、情報共有してはどうかという話もありました。

市の広報、ボランティアに載せるという意見もありました。一般会社の方でもボランティア休暇があるのでそれを利用してはどうかという意見、最後に移動支援だと事故を考えてしまうので、思い切ってそこは違う方向性でやってみてはどうかという話も出ました。

以上です。ありがとうございました。

委員長：いろんなことが意見として挙がっていると思いました。

それでは D チームの方、ご発表お願いいたします。

グループ D（移動支援）の発表

委 員：まず移動支援の人材確保の困難の具体的な取り組みについてというところですが、昔からの地域は新旧の交流が少なく、日中独居の方の支援も難しいとか、1 キロの範囲内のお買い物にタクシーも利用できず、困っているというようなこともあります。人材の確保について、まず実際に子供会やシルバー会等で共同のイベント等を行っているということは今までにもあり、コロナ禍でなかなか活動自体もできないのですが、イベントを一つの機会にすることでもいいのではないかとこのころは上がっておりました。

6W1H のところまでのまとめというところまでいきませんでした。

「誰に」というところでは、高齢者同士、そして実際に支援できるかと思われる若者やそれから子育てが終わった世代の女性の方々にも、声をかけていきたいというところがありました。

「誰が」というところで、実際に支援をしてくださっている側の生の声、事故があつたらどうしようという不安も、実際にやっている方々の生の声をお届けしたら、支援しようかなというような関心を持っていらっしゃる方々にも、その生の声が届けられるのではないかとこのころがあります。実際のところを伝えてみるということが上がりました。

「なぜ」というところになりますと、支援は非常に必要なものですが、担い手がいないと続けられないからというところが理由に挙げられるかと思います。

「どうやって」というところですが、地域の世話役の皆様、例えば区長

様であったり、民生委員の方々であったりというところで、勉強会やフォーラム等で情報提供してはどうかという意見が上がりました。

2 番の立ち上げ支援のための横展開ですが、「どこで」というところになりますと、市の方で、こういった方々を集めての説明会のようなものが、まだ開かれていないのではないかとということで、実際困っている方々がおり、実際にこの 8 団体のような活動をされている方がいるということの PR のために、市が説明会を開いてはどうかという意見が上がりました。

「どこで」ということは市でもあり、そして地域単位でも可能ではないかと思われます。

「何を」というところで、やはり一番の方にも上がりました、支援側と利用者側の生の声を集めるということが上がっております。以上です。

委員長：ありがとうございました。こちらも C チームと D チームで補うような感じでご意見が出て、すごくよかったなと思います。

今全体で意見を共有させていただいたのですが、二つのグループのお話伺って、私がちょっと感じたことなのですが、区長さんを通じて調査を行い、また民生委員の方々通じて、かなり大規模な調査をやっていたんですが。ご本人の行動がどういう方なのか、本当にごみ出し支援が必要な方がどれぐらいいるのか、地域の支援とか活動の状況っていうのが、今ひとつ見えないようなところがあって、地域限定でタスクフォースを作って、限定的に調査を試みよう、そういうことをしないと。先ほどの環境衛生の方にも来ていただきましたが、戸別収集をするにも本当ニーズがあるのかとか、そういうこともわからないので、やってみましょうということになったわけです。

ご本人様にまず訪問をして、身体状況、サービス使っているのか、介護保険使っているのか、地域との繋がりどうなっているのか、地縁の状況

とか、地縁だけではなくて、仕組みができてればそのごみ出しの支援の状況の資料 2 であるような、仕組みというか、自治会で、ごみ出し支援、利用者 1 回いくらとかでやっているところもありますし。そうでない場合にどんな状況なのか調べる必要があるのかなというふうに思いました。

タスクフォースやっていただけないですかと事前に案内があつて、手を挙げていただいたと伺ってありがたいです。ぜひそういう方、それからそれ以外の方でも興味を持っていただいて、ご本人様の体の状況とか、フレイルがあるのかとか、この中のメンバーの方なんかに見ていただければすごく話が進むかもしれませんし。

地縁の状況とか、そういうことについてこの地域はこういう特徴があるのかなとか把握するのに明るい方なんかが入っていただけると、なおいいのかなと思いました。

移動支援の方ですが、佐藤さんの方と、そういうものが関係しない形で進めている但野さんの桜ニュータウンでの取り組みのお話がありましたが、移動支援については一つ人員確保の問題もあるようなこともお話がありましたけども、講習会をまずやってみて、やってみないと始まらないしわかりませんので。

そういうことをできるだけ早くやっていただくためにも、お 2 人中心にタスクフォースを作っていただいて、進めて準備していただくっていうのと、それ以外の移動手段の確保の方向性も、今いろいろお話に挙がっていたと思います。

これはまだタスクフォースっていう形ではないですけども、明るい委員の方が結構いらっしゃると思ったので。例えば介護サービスの機関で空いている車両利用ということであつたら、ドライバーに余裕がある場合でしょうけども、実際、以前くきの里の施設長が委員された時に、試験

的にされたことがあったと思いますが、そういうことを他の機関でも利用可能か委員の中で、介護機関に所属している委員の方には可能性を検討していただく、こういう条件だったらできるかもしれないとか、現実的に無理だとか、そういうことでお願いできればというふうに思います。つくタク利用についてもお話がありましたが、前回までの話なんかも、集中する時間体があるみたいな話がありましたが、病院の診療時間とかドクターの成島委員にも意見を伺いたいと思いますが、診療時間の始まりをずらすとか、例えば夜間診療とか休日診療とかにかかった場合、料金が割り増しになって難しいのかとか、そういったようなことをご意見とか検討いただきたいと思いますし。

それからいろいろ新しい移動の形態っていうのが出てきたので、そういうことに当たる委員の方に、どういうふうに高齢の方に使っていただいたらいいのかとか、明るい方には委員の中で意見を出されている方には探っていただいたり、いろいろとあると思います。

つくタクの話に戻りますが、優先順位とか制限とか、あるいは使いやすさという点でも、その新しい形での形態と照らし合わせて何かできないかとか、そのような方向で今後進められるのではないかと感じました。あと今日は議題に上がってなかったのですが、移動については以前から上がっております、移動するだけではなくて、移動販売とか宅配とか、そういったようなものをもっと上手く活用できないか、カスミの堀越委員に少し入っていただいて、次までに検討していただくとか、アイデアがないか、そんなようなことも考えました。

今までのところで私なりにまとめさせていただきましたが、全体通じまして、委員の皆さんからまたコメント、意見がありましたら、今 12 時ちょっと過ぎたところなんですけども、お願いします。

そうしましたら、ごみ出しの方で、実際にその特定の地域で一層のコー

ディネーターの皆さんの方でも、この地区であるだろうかということも事前に考えていただいたところですが、今日のご意見で、上がってきたところなんかも加える可能性も含めて、また調査する内容とかを揉んで実際に調査していただく、そういうタスクフォースに入っていただく方は一層コーディネーターの方からお声掛けさせていただきます。専門性から、自分もということで入っていただけるとありがたいので、一層コーディネーターにぜひご連絡いただきたいというふうに思います。

それから移動支援の方については、ご発表いただいた佐藤さんと但野さんにタスクフォースを中心に作っていただいて、講習会を立ち上げていくことでやっていただきたいと思うのですけども、いかがでしょうか。

委員：今日の話でもありましたけど、いろんな事例を横展開していく上では、市が中心となった形で、この会議が中心となって説明会なり講習会をきちんと開いて行って、やりたい人はいるがどうやっていいか、なかなかわからない、あるいはやりたいけどハードル高そうなど思われている方も結構いらっしゃると思うので、こういう事例をもし報告して、意見交換をするようなそういう場をぜひ作っていったらいいと思います。できるだけ早く。タスクフォースということであれば協力させていただきます。

委員長：急に講習会を開くのではなく、準備していただいて、この委員の皆さんに意見を伺って、実際にそれをもとにまたやっていくような形になると思いますので、よろしくお願いいたします。

移動支援の方については、上がってきたアイデアや検討事項がありましたので、私の方から挙げさしていただいたことも踏まえて、専門性のある委員の方々にも、意見を言うていただくような機会を持ちたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

繰り返しになりますが例えば、介護サービスのその車両を利用すること

については、介護関係の委員の皆さんからご意見いただいたり、つくタク利用の上手い活用の仕方については、医療関係であったりとか、市の方でも関係の部局と考えも伺うようなことで、次回来ていただいたりとかセッティングもしていただきたいと思いますし、移動販売についてはそちらの方の委員の方々であったり、意見で上がっていた、新しい形態の移動のあり方について明るい方には、どういう移動支援のあり方がいいかということについて、意見をぜひちょうだいしたいと思います。次回まで少し思いをめぐらしたり調べたりとお願いしたいと思います。

委員：移動支援でつくタクの役割、これをいかに上手に使うかが非常に大事なポイントだと思っております。

これがなかなか地域住民の方々にうまく伝わっていない、あるいはもう少しこうやったらいいのではないかというアイディアを含めて、行政の方というか総合政策交通政策課ですかね。これから抜本的に何かそのつくタクの活用については、見直しをしていくということなのですが、私の方で数値的に調べてみたのですけれど、つくタクは現在、つくば市の中では 1 日あたり 20 台走っております。谷田部で 6 台、筑波地区で 4 台、大穂豊里で 4 台、桜で 3 台、荃崎地区で 3 台、この 20 台が毎日月曜日から金曜日 9 時から 4 時の間、走っています。ちなみにこれ 1 台当たり何人乗せているかというと、1 日 8.5 人です。少ないと見るか多いと見るか。8.5 人しか運んでいないのかと思っておりますけども、8.5 人、1 日あたり送って送迎しているそうです。往復で 4 人ですけどね。片道ですね、8.5 人ですよと。ここ 1 年、2 年コロナの問題もありましたけども大体 4 万人から 5 万人年間利用者がいて、月当たり、4,000 人利用されている。このうち 8 割が高齢者ですよと、それから障害者が 1 割です。一般の方、子供が大体 4 % ぐらい。6 % が中の一般の人の構成にな

っている。

そうするとつくタク自身の、私の理解としてほとんど福祉タクシーで、つまり高齢者障害者の 9 割の人たちをつくタクが役割を担っているんだと。であれば、この人たちをもう少しつくタクがうまく機能していけないのかな、今我々がここで議論している、地域住民、市民が中心になって問題解決していこうよという部分ともう一つの両輪である、その行政側のつくタクの機能、ここをきちんと充実させる必要があると思っています。

一方、年間に使うお金ですが、つくタクで 1 億 4,300 万円、少ない金額ではないですね。利用者さんから年間 1,000 万円いただいて、つまり 1 億 5,900 万で運営しています。この 1 億数千 5,000 万強のお金で、年間 4 万人。1 人当たりの原価は、平成 2 年度ですけども金額で 3,600 円かかっているということです。これも金額が高いと見て驚いたんですね。3,600 円で乗ったらどこまでいけるんでしょうか。ワン区画の中で十分行ってしまう。つまり、タクシーのひよっとしたら安いかもしれないという、仮にそうであれば、つくタクがなくても、うまくこの 1 億 5,000 万の補助を有効に活用することによって、業者さんが比較的安価な値段でタクシーで、そこの部分を補うことが可能になってくると、この数字を見て思いつきましたが、この辺りも含めて僕としては、市民住民が中心になって何とかそういうふうな補完的役割、そういう機能を充実させる一方で、それをいかにうまくこう組み合わせていくかということが、今後考えてくる課題だと思いましたので。1 人当たり 3,600 万もお金かけているなら、何かもっとやり方があるのではないか。あるいはそういうお金をもう少し有効に使って、地域住民が外出支援のところに、予算を保険に回して行って、住民の人を参加しやすくしていくという意見です。

様式第 1 号

委員長：貴重な意見ありがとうございました。

時間が過ぎておりますので、ぜひごみ出しのタスクフォースにお声掛け
さしていただいた方、ぜひ次回までですね、1 層コーディネーター、あ
るいは私と一緒に動いていただけたらと思います。

移動支援は、講習会については佐藤さんと但野さんお 2 人中心にという
ことでしたが、その他のことでタスクフォースのようなディープなかな
りカチッとしたものは作っていないですが、先ほど挙げさせていただい
たことについては、それぞれの委員の方に少しご意見いただくような形
でご連絡させていただきたいと思いますので、一層コーディネーターの
方から連絡があった方については、ぜひご協力お願いしたいと思いま
す。

今佐藤さんから伺ったこう話なんかも含めてですね、想定して思いをめ
ぐらしていただけたらと思います。委員の皆さんでご協力いただいて、
いい仕組みを作っていきたいと思っておりますので、よろしく願いい
たします。事務局の方にお戻ししたいと思います。ありがとうございました。

課 長：それでは以上をもちまして第 3 回つくば市地域ケア会議及びつくば市生
活支援体制整備推進会議の方を閉じたいと思います。

長時間にわたりましてご審議いただきありがとうございました。

令和 4 年度
第 3 回つくば市地域ケア会議
第 3 回つくば市生活支援体制整備推進会議 次第

日時：令和 4 年(2022 年)10 月 20 日（木）午前 10 時から 12 時
場所：つくば市役所 会議室 202 及び 203

1 開会【10:00～10:05 5 分】

2 議事【10:05～11:50（1 時間 50 分）】

時 間	議 事	内 容		資 料 番 号
10:05- 10:15 (10 分)	ア 報告事項 共有事項	(1) 第 2 回会議での協議事項まとめ (2) 本日の協議の進め方		共通 No. 1
10:15- 11:25 (70 分)	イ 地域課題 に関する情 報共有及び 協議	①ごみ出し支援 A・B	②移動支援 C・D	ごみ No. 2
		(1) 環境衛生課からの情報 提供 ごみに関する現状説明 及び質疑応答 (2) グループワーク の進め方について	(1) ①福祉有償運送「友の 会・たすけあい」 ②さくらニュータウン 高齢者等送迎システム 「さくら」 (2) グループワークの 進め方について	移動 No. 3 No. 4 共通 No. 5
	ウ 協 議 (グループワーク)	(1) モデル地区の選 定と取組内容 (2) グループワーク	(1) グループワーク 【課題 1】活動団体の課 題について具体的な取 組の意見出し 【課題 2】立ち上げを支 援、事例の横展開、ア ドバイス体制が構築さ れるような、具体的な 取組みの意見出し	移動 No. 6 No. 7
11:25- 11:45 (20 分)	エ 発 表	各グループでの協議内容を発表（3 分） 質疑応答		
11:45- 11:50 (5 分)	オ 事務連絡	次回会議に向けて		
11:50- 11:55 (5 分)	カ まとめ	(1) 今回の会議のまとめ (2) 次回会議までに行うことの確認		

3 その他【11:55～12:00（5 分）】

4 閉 会【12:00】

～委員の皆様へのお願い～

お世話になっております。

当日の会議につきまして、当日の資料説明は簡素化し、十分な協議時間を設け、課題解決のための方法検討に向けた協議を着実にやりたいと考えております。今回送付いたしました資料を事前にご確認いただき、本会議にご参加いただけますと幸いです。

なお、次回進行内容のうち、以下の2つについてご検討の上、ご回答をお願いしたいと思います。

1 環境衛生課に対する御質問、御意見を募ります。

ごみ出し支援グループにおいて、環境衛生課から担当者が参加し、ごみに関する現状説明、質疑応答の時間を設ける予定でおります。当日は時間が限られていることから、事前に皆様からいただきました内容を含めてお話できればと考えております。

つきましては、ごみ出し支援に関しての御質問、御意見等がございましたら、事前にお聞かせください。

2 タスクフォースご参加のご意向について

以前の会議の際に話が出ましたが、より深く課題についての検討や作業が必要になった場合、タスクフォース（小グループ）を作成し、全体の会議と会議の間に協議を行う場合があります。

タスクフォースについては、有志での会議となるため、参加頻度や協力範囲は、皆様のできる範囲となりますが、Zoom等を利用して夜間の開催も想定されます。また、申し訳ございませんが、謝金はありません。

タスクフォースを作成する場合に、ご参加のご意向があるか確認したいと思います。

以上の2点に関しまして、次ページの回答票に記入していただき、ご返答いただければと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

生活支援体制整備事業担当 松尾、佐藤
地域ケア会議担当 金山

ご回答は、下記のいずれかでお願いいたします

☐FAX 029-868-7638

つくば市地域包括支援課 松尾宛て

☐メール wef060@city.tsukuba.lg.jp

令和4年度第3回つくば市地域ケア会議及び
生活支援体制整備推進会議における事前調査

回答票

お名前 _____

1 環境衛生課との協議における、ごみ出し支援に関するご質問、ご意見

--

2 タスクフォースへのご参加の意向（いずれかにチェック）

☐タスクフォースに参加してもよい

☐タスクフォースには参加できない

☐その他

--

令和４年度第２回つくば市地域ケア会議及び第２回つくば市生活支援体制整備推進会議 議事要旨

会議の名称		令和４年度第２回つくば市地域ケア会議及び第２回つくば市生活支援体制整備推進会議
開催日時		令和４年７月１５日（木）開会 午前１０時００分 閉会 午後１２時１０分
開催場所		つくば市役所 防災会議室２・３
事務局（担当課）		福祉部地域包括支援課
出席者 (35名)	委員 (17名)	下村哲志、山中克夫、北島正義、石塚一夫、小林路江、今高哲生、大橋功、佐藤文信、堀越健一、椎名清代、水谷浩子、前田亮一、佐々木湧人、根本けい子、白石通 (オンラインでの出席) 海老原良行、但野恭一 (欠席) 成島淨、飯田哲雄
	その他 (13名)	つくば市社会福祉協議会 大竹統括係長（谷西） つくば市社会福祉協議会 ２層 SC 倉持（豊里）、荻生（谷東）、小川（桜）、猪瀬（筑波）、益子（荃崎）、小倉（大穂） 筑波地域包括支援センター 戸塚保健師 大穂豊里地域包括支援センター 井ノ口センター長 荃崎地域包括支援センター 大塚センター長 谷田部西地域包括支援センター 平林センター長 谷田部東地域包括支援センター 鬼久保センター長 (以下オンラインでの出席) 桜地域包括支援センター 寺田センター長
	事務局 (5名)	地域包括支援課：会田課長、飯島課長補佐、松尾係長、佐藤保健師 高齢福祉課：石川係長
	傍聴者	0名

～ 令和4年度第1回会議の審議事項 ～

検討・報告事項	協議事項、決定事項等
議題：令和4年度の地域課題協議の方向性	<議題について協議したこと> ① 委員（但野）から、これまでの検討で今回の2つの課題以外に様々な検討が必要な課題が挙げたが、今年度はごみ出し支援・移動支援に的を絞る形でよいかという質問が挙げた。委員（佐藤）から、機会も限られている中でテーマを絞り優先順位の高い順に検討していくことが現実的だし一番良いと思うと意見もあり、今年度はこの二つの地域課題について検討することとなった。 ② 委員（白石）から、ごみ出し支援の内容を一つに絞るということに対して、つくば市内には様々な地域があるため一つ施策をいうのは不安があると意見が挙げたが、個別に対応するとなかなかまとめ上げることが困難になるため、ある程度類型を絞り推進できるものから推進していくこととなった。 ③ 委員（石塚）から、ごみ出し支援に関するアンケート実施したが約600ある自治体の中で回答したのは400ほどだったためこれで現状把握できたといっているのかと意見が挙げた。各自治体に関心を持つことが重要である。地域包括支援センターの周知も進んでいないので、皆の知恵が必要である。
議題：グループに分かれ、「ごみ出し支援」「移動支援」の2つの地域課題の協議	<議題に、ついて協議したこと> 【各グループからの協議内容の発表】 <u>ゴミ出し支援</u> <u>グループA</u> ① 地域コミュニティ型がよいのではないか。地域の人や転入者への丁寧な説明や、若者にも問題意識を持ってもらうことが必要。支援を受ける側の心的負担も考慮し補助金などがあるとよい。 ② コミュニティから外れてしまう方、またごみの分別作業部分のプライバシーに関わる部分は地域住民が入ることが難しいため、直接支援型が必要である。

- ③ 一つに絞るのは難しいが、中には暗黙の了解のもと住民で協力体制ができている地域もあるため、その部分を強化し、見える化・ルール化し、補助金もつけるなどして、若い世代を巻き込みながら 5 年後、10 年後と継続的にやっていくことがよい。このようなことからタイプⅢコミュニティ支援型がよいのではないかと結論に至った。

グループ B

- ① つくば市は広く、地域の実情も様々であり一つに絞ることは難しいが、その中でできることを検討した。
- ② 区会アンケートだけでなく、実際の事例を集めることも必要。例えば介護サービスが入っている事例では、浜田市のように直接回収のタイプⅠ、Ⅱ（直接支援型）でいいし、地域での支えあいがあるところでは、インセンティブを入れてタイプⅢ（コミュニティ支援型）で行い、各地域の特性を活かすやり方がよい。
- ③ 地域コミュニティができておらず、実際にごみ出しに困っている人がどのくらいいるのかを把握できた地域からモデル的にできることをしてみるのはいかがでしょうか。直接支援を必要時入れながら、地区を絞ってモデル事業的にできることを行い、フィードバックしながら次に生かしていけたらよい。

移動支援

グループ C

- ① 中心部と過疎地域に分けて考え、具体的方策をつくば市の方策に落とし込むのが重要ではないか。
- ② 人材不足の面ではボランティアの活用が必要ではないか。
- ③ 既存のサービスの拡大については、つくタクの地域差の解消や運転手の技能研修も必要ではないか。
- ④ デイサービスの送迎者の活用もある。ネットの活用や I C T もあるがやはり高齢者にはハードルが高いのではないか。
- ⑤ 免許返納については、電動自転車購入のための助成金などもよい。

グループ D

- ① 車社会であるつくば市は以前から交通難民の課題があったので、免許の自主返納をすると生活が一変してし

	もう現状があるのが大きな課題。 ② 実際の移動難民が現在どのくらいいて、今後5年後、10年後でそのように推移していくかを考慮して支援を考える必要がある。 ③ NPOや住民主体の活動の拡大をどのようにするか、つくたくを増やさずに効率上げるにはどうするか、カスミの移動販売事業をどう広げるかの3点を考えていくのがよいのではないか。 ④ 地域によって実情は様々であるため、グラデーション的に考えていく必要がある。今の実情では、茎崎のシニアのサポートを受けたい人とする人のバランスが取れているのでこれを一つのモデルにし、横展開させていくのもよいのではないか。
会議のまとめ	① 各グループで深く話し合いができた。 ② 今日の会議で協議した内容を整理し、それを元に今後行っていく支援の具体的な方向性を決めていくこととする。

令和4年度第3回 つくば市地域ケア会議及び 生活支援体制整備推進会議 (令和4年(2022年)10月20日開催)

- (1) 第2回会議での協議事項まとめ
- (2) 本日の協議の進め方



(1) 第2回会議での協議事項まとめ



テーマ：つくば市内のゴミ出し支援を考える～協議内容

「①地域の助け合い」、「②困難者宅へのごみ回収」、「③ゴミ出し支援制度」の3点を解決できるような取組みを事例集を参考に、下記の3つのタイプからつくば市で実施可能な取組みについてシートに沿って検討し、ひとつ選定して、アイデアをだしてみよう。

タイプ	自治体	具体的内容
タイプⅠ・Ⅱ 【直接支援型】 (事例集 p 47)	事例12 島根県浜田市 廃棄物部局が、対象者を担当する居宅介護サービス事業所等と連携して実施	・ 65歳以上の要介護認定者、手帳所持者等の世帯を対象 ・ 居宅介護支援事業所と連携を取り実施。申請書受理後、戸別収集の可否を決定。 ・ 職員がごみの戸別収集を行う。
タイプⅢ 【コミュニティ支援型】 (事例集 p 106)	事例25 新潟県新潟市 ささえあい・たすけあいコミュニティの力で高齢者のごみ出し支援を実施	・ 自治会、NPOなど非営利の地域団体がごみ出しの支援を行った場合に、市が支援金を交付
タイプⅣ 【福祉サービスの一環型】 (事例集 p 122)	事例29 埼玉県入間市 ボランティア活動を活用し、行政がマッチング機能で後押し	・ 見守りボランティア事業の見守り活動の中に、安否確認とごみの集積所への運搬支援がある。 ・ 協力員が高齢者宅を訪問し、ゴミ出し支援を行う。協力員はポイントを得ることができる。



テーマ：つくば市内の**ゴミ出し支援**を考える～アイデア

グループ A

- ①**地域コミュニティ型**がよいのではないか。支援を受ける側の心的負担も考慮し**補助金**などがあるとよい。
- ②コミュニティから外れてしまう方、ごみの分別作業部分のプライバシーに関わる部分は**直接支援型**が必要。
- ③**住民同士の協力体制**ができている地域はその部分を強化し**見える化・ルール化**し、補助金もつける。
若い世代を巻き込みながら継続的に行っていける体制に。

【まとめ】

- ・タイプⅢコミュニティ支援型を進め、できている地域は見える化、ルール化し、補助金も考える。
- ・地域住民が入れない場合は、直接支援型も必要。



テーマ：つくば市内の**ゴミ出し支援**を考える～アイデア

グループB

- ①区会アンケートだけでなく、実際の事例を集める必要あり。
介護サービスが入っている事例では、**直接回収のタイプⅠ、Ⅱ（直接支援型）**、地域での支えあいがあるところでは、**インセンティブを入れてタイプⅢ（コミュニティ支援型）**で各地域の特性を活かすやり方がよい。
- ②実際にゴミ出しに困っている人を把握できた地域から**モデル事業的にできることをしてみる**。直接支援を必要時入れ、フィードバックしながら次に生かしていけたらよい。

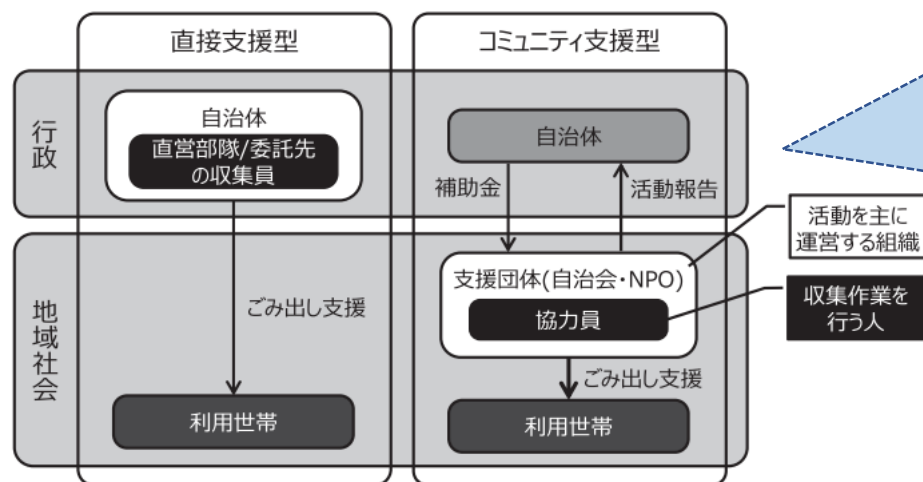
【まとめ】

- ・ 直接回収のタイプⅠ、Ⅱ（直接支援型）とタイプⅢ（コミュニティ支援型）を地域の特性を活かして入れる。
- ・ モデル事業的に地域を選定してやってみる。

テーマ：つくば市内の**ゴミ出し支援**を考える～まとめ

【まとめ】

- ① **タイプⅢ（コミュニティ支援型）をモデル事業化**
地域の協力体制が出来ている、もしくはニーズのある地域をモデルとして選定し、実施
- ② **タイプⅠ、Ⅱ（直接支援型）を検討**
タイプⅢでカバーできないところのニーズに対応する
- ③ **協力体制の見える化**



地域住民主体の
支援体制
+
行政の支援

が両輪となり、ごみ捨て支援システムを実現していけるよう、具体的な方策を検討していきましょう！



テーマ：つくば市内の移動支援を考える～協議内容

【A 既存のサービスに頼らない新規の 具体的方策の検討】

- ①道路運送法上の許可または登録を要しない運送形態の移動支援をモデル地区に広げる
- ②人材不足解消のために、研修会、講習会、説明会を進める
- ③事例、サポート体制等のデータベースを整える

【B 既存のサービスを拡大する具体的方策の検討】

- ④つくタク：利用を増やす、時間帯をずらす、台数を増やす、優先条件を付けるなど
- ⑤社会福祉法人の車両を利用したアイデアなどを整理して、他地域に広められる体制づくり
- ⑥移動販売を増やす
- ⑦福祉有償運送の補助金の対象を少し広げるよう検討



テーマ：つくば市内の移動支援を考える～協議内容

グループC

A既存のサービスに頼らない方法

- ①道路運送上の許可または登録を要しない運送形態等の事例を聞いて、活用できることを考える
- ②人材不足解消におけるボランティアの活用、免許返納後電動自転車購入のための助成金

B既存のサービスを拡大する方法

- ①つくタク：地域差の検討、運転手の技能研修
- ②移動販売の拡大、ネット販売などICT利用
- ③デイサービスの送迎車の活用

【まとめ】

- A 道路運送上許可または登録を要しない運送形態等の活用、人材不足解消、電動自転車購入助成金
- B つくタク、移動販売の拡大、法人車両の利用



テーマ：つくば市内の移動支援を考える～協議内容

グループD

A既存のサービスに頼らない方法

- ①NPOや住民主体活動を広げるため、現状の取組みが増えない理由を洗い出し、サポートについて検討。
- ②荃崎をモデルとして、横展開させる
- ③取組みしている団体の声を聴き、関心ある方へのアドバイス体制の構築

B既存のサービスを拡大する方法

- ①つくたくが増やせない中で、効率化していく必要性
- ②移動販売の利用率を高め、増やしていく。

【まとめ】

- A 移動支援団体の抱える課題やサポート体制について検討、関心ある方へのアドバイス体制の構築
- B つくたくの効率化と移動販売の拡大

テーマ：つくば市内の移動支援を考える～まとめ

【考えられる具体的な方策】

- ①A：道路運送上許可または登録を要しない運送形態等の活用、移動支援団体の抱える**課題**や**サポート体制**を検討、**モデル事業の横展開**と関心ある方へ**アドバイス体制**の構築
- ②B：つくタクの効率化、移動販売の拡大



支援団体の
地域差解消

運転ボラン
ティアの確保

移動支援問題
を周知

(2) 本日の協議の進め方



- 
- 1 ごみ出し支援、移動支援の地域課題ごとに発表を聞き、情報共有します。
 - 2 本日の協議内容についてご説明します
 - 3 グループに分かれて、テーマに沿って協議を行います。

つくば市内のごみ出し支援状況

調査内容：令和3年8月に実施した「ごみ出し支援アンケート」の中で「ごみ支援支援体制がある」と答えた区会へ聞き取り調査を実施。

【ピンク】自治会や団体を中心に、ごみ出し支援体制が形成されているところ 5カ所 【水色】近隣者等が支援しているところ 10カ所 【白】現時点では支援体制がない 4カ所 【黄色】本日のワーク

番号	区会	圏域	区会加入率 (何世帯)	どのような支援体制か	体制導入の経緯	問題点と課題	どんなことがあれば、もっとごみ捨て問題が解決されるか	この区会の支援体制の メリットと思われること (例：大きな区会向け、少人数向けなど)	この区会の支援体制の デメリットと思われること (例：区長の力が大きい、など)
				①どんな支援体制か ②支援している人とされている人の人数 ③かかる費用	①きっかけ ②中心人物 ③今後の展望	①問題点 ②課題	①現在の支援体制を継続するために、何か支援が必要か ②もしくは別の体制を作るため必要な支援		
1	H	荊崎	600世帯中 570世帯	①自助会があり、その会員がゴミ出し支援をはじめ、16項目の支援を行っている。 ②6名 ③自治会から年間10万円の支給がある。(携帯代や会議のお茶代等運営費に充当)※ボランティアなので費用はかからない。	①②7～8年前に買い物難民が増加したため	①・支援の需要はあるが、問題として挙がってこない。支援への遠慮と周知不足の問題点あり。 ・60代は就業しており、75歳以上が中心になっているため、後継者不足。 ②区内に若い世帯がないこと。	①②情報共有や健康管理、体調確認を兼ねた媒体としての携帯やスマートウォッチの導入が必要。また、交通手段としての無人走行車の導入などをの整備をしてほしい。		
2	M	荊崎		①③利用者は、ごみ出し支援者に1時間あたり700円(ごみ捨ては6回で1時間とみなす)を支払う。本人の負担金は100円で差額の600円は自治会負担。無料だと、結局個人でお礼などを考えてしまう。 ②1人	①H24から、高齢化支援事業を立ち上げ、支援者を公募した。また、左記①のとおり国立環境衛生研究所による実証実験で開始となった経緯がある。	①・役員の高齢化 ・ゴミを見られるのは恥ずかしいなど、実績は伸び悩んでいる。 ・150世帯が独居であり何かしらの支援が必要になってくる。 ・空き家問題(122件) ②支援者の高齢化や個人情報・プライバシー問題で支援がやりにくくなってきている。	今のところ自治会で継続可能		
3	Y	谷西		①・自治会ではなく、助け合いの会があり、その中でゴミ出し支援を実施。 ・毎月の定例会で住人の状態を確認し、必要があれば支援。 ②現在は親戚者が支援しているため実質ない。 ③300円/月(何回捨てても)無料にすると遠慮してサービスが受けづらいという声があり有料。	①11年前、家族と同居の高齢者が、日中の通院の手段がないから誰かに連れて行ってほしいという話が出たため。 ②助け合いの代表 ③今の体制を継続	①若手がおらず後継者(仲間)を得るのが難しい。 ・融通が効かない、個人情報の問題など面倒な点もある。 ②マンパワーの問題もあり、自治会でも関わってほしいが、役員が1交代なので難しい。	①・自治会、社協、行政などいろいろな所が関わってくれるといい(情報とマンパワー)が、独自で行うことの良さもある。		
4	A	谷東		①・自助グループの担当者に連絡し、近所に頼んで捨ててもらう。 ・手助けできる方のリストがあり、依頼者にも希望を聞いて、マッチングを行う。 ・動きが取れない人は自治会の役員会にかけて掃除当番を免除してもらう。 ・ゴミ捨ては前の日にやってもいいという決まりになっている。 ・知っている人は利用するし、回覧や掲示板で年1回掲示し周知している。 ②今はない。今後増えると思う。 ③1回50円(それ以上でもよい)。寄付として、捨ててくれた人に9割、手助けチームに1割入る。	①・2014年に自助グループができ、高齢者対策を提案した。 ・当初は毎日のごみ捨て支援のニーズはほとんどなく、粗大ごみをクリーンセンターまでもっていくことはあった。 ・病気になる方などがいると依頼が来るが、ゴミ捨てはお願いしにくい。 ②自助グループ ③住みやすい町内にしたい	①・高齢化があり、引き受けてくれる人が少なくなっている。 ・毎年自治会の役員が変わってしまう。 ②若い人をどうやって育てるか、地域の意識を高めるために、どうしていくかが課題。	①若い人の参入、地域の意識の向上 ②特になし		
5	U	荊崎		①・区会にアンケートを取り、支援してほしい方、支援できる方を募り、マッチングを行った。 11月から開始予定(週2回) ②・希望する方が1名、今後利用したい方が1名 ・ボランティアはしてもいい方は6～7名 ③1回につき50円	①3年前にゴミ出し支援を希望している高齢者がいたので、民生委員から地域の会長に話をした。最初は賛同が得られないかったが、会長が変わるなどして昨年から話が上った。 ②民生委員、地域の方		①団地で1つしか集積所がない。もう一つ作ろうかという話も出たので、あるといい。		

つくば市内のごみ出し支援状況

調査内容:令和3年8月に実施した「ごみ出し支援アンケート」の中で「ごみ支援支援体制がある」と答えた区会へ聞き取り調査を実施。

【ピンク】自治会や団体を中心に、ごみ出し支援体制が形成されているところ 5カ所 【水色】近隣者等が支援しているところ 10カ所 【白】現時点では支援体制がない 4カ所 【黄色】本日のワーク

番号	区会	圏域	区会加入率 (何世帯)	どのような支援体制か	体制導入の経緯	問題点と課題	どんなことがあれば、もっとごみ捨て問題が解決されるか	この区会の支援体制の メリットと思われること (例:大きな区会向け、少人数向けなど)	この区会の支援体制の デメリットと思われること (例:区長の力が大きい、など)
				①どんな支援体制か ②支援している人とされている人の人数 ③かかる費用	①きっかけ ②中心人物 ③今後の展望	①問題点 ②課題	①現在の支援体制を継続するために、何か支援が必要か ②もしくは別の体制を作るため必要な支援		
1	K	豊里	6世帯	①見守り隊(区長・副区長)や集会時に、困難者を把握し、近所の人に援助を依頼する。 ②0人 ③0円	①②以前からの流れで、区会の決まり事になっている。 ③継続	①ゴミ出しのルールを守らない人がいる。	①②特になし		
2	A	筑波	39世帯	①近隣者が実施 ②0人 ③0円	①②以前から ③継続	①②特になし	①特になし		
3	H	筑波	47世帯	①近所の親戚が代行 ②2人 ③0円	①②以前から ③継続	①②特になし	①②特になし		
4	T	谷西	42世帯	①親戚が代行 ②0人 ③0円	①②以前から ③継続	①ゴミ出しルールが乱れている	①②特になし		
5	O	谷西		①近隣者がボランティアで行う。 ②0人 ③0円	①②以前から ③継続	①・ゴミ出しルールが守られていない。 ・残置物の処理も困っている。 ②・他区のように厳しいルールを決めた方がいいのか。 ・買い物支援は、長期に渡ると負担が増す。 ・認知症問題	①②特になし		
6	T	豊里	64世帯	①近隣者が行う。 ②いると思うが、未把握 ③0円	①②以前から ③継続	①②特になし	①②特になし		
7	A	荃崎	39世帯	①体制はないが、近所で対応しているという話は聞く。 ②未把握 ③なし	①以前から ③特になし	①独居率が増加しているので、問題が生じてくる可能性はあるが、コロナ渦で話し合いができないので、進んでいない。	①②今のところはない		
8	N	豊里	28世帯	①体制はないが、親戚や近隣者が行っている。 ②未把握 ③0円	①以前から ③継続	①②特になし	①②特になし		
9	O	筑波	46世帯	①親戚や近隣者が行っている。高齢者のごみ当番は免除している。 ②把握していないが、問題のある人の報告はない。 ③0円	①以前から ③継続	①②地域の高齢化や災害避難対策など問題点は感じるが、地域性があり、事は簡単には進まない。地域のニーズと人々の考え方と両方考えていけないといけない。一律なサービスは個々の地域に根付かない可能性がある。	自分たちに必要な支援を自ら考えて運営していかないと、反対意見が多く進まない。		
10	S	谷東	30%	①ごみ出し支援が必要な人に、キャリアカートのレンタルができることが決まった。要望があれば購入予定。 ②0人 ③キャリアカートの購入金額	①2020年ゴミ出しが大変だという声が上がリ、対応を考えるようになった。 ②区長 ③ゴミ出し代行のボランティアの導入も考えている。	①自治会の高齢化(75歳定年制を取り入れている) ②ゴミ出しルールを守らない人の対応。他地区の人で警察にも通報したが、変化がない。	①②・以前独居高齢者のゴミ出し支援について、市に確認したところ、2世帯以上なら収集を検討する、とのことだった。他者が利用する可能性もあり、断念した。ドアの内側に置いて、高齢者専門のゴミ収集車が持って行ってくれるサービスがあればいい。 ・ボランティアを導入する場合、支援金などの援助が必要 ・高齢者向けに、ゴミ捨て場を増築すること。		
1	S	大穂		①支援体制はないが、分別がきちんとされていなかったため、4年前に区長がコンテナを購入し、看板を立てるなどをして分別できるようした。	①とくになし	①・何かあると費用は自分で出している。 ・区内の方は何かあると自分に言いに来る ・指定の袋で出さない人がいるが、回覧版で周知しても効果がない。	①②特になし		
2	N	谷西	5世帯	③このままで特に政策なし	③このままで特に政策なし	①②特になし	①②特になし		
3	K	筑波	86世帯	①特になし ②独居はあるが、困っているという話はないので、近所の助け合いでまかなっていると思う。	③継続	①特になし ②転居者が増えてきているため、区としての対応をどの程度したらいいか話し合っている。	①②特になし		
4	F	桜		①特に支援体制はない ②挙がってきていない	③問題が上がったら取り組む	①今のところない ②開発に伴う騒音	①②今のところはない		

福祉有償運送による移動支援

NPO法人 友の会たすけあい

有償ボランティアのマイカーで、
高齢者や障害者を、
いつでも、何処へでも、
ドア・ツー・ドアで外出をサポート。

通院や買い物でお困りの方の
出かけたい
を応援します！



NPO 法人 友の会たすけあい <http://npo-tomonokai.jimdo.com/>

NPO法人 友の会たすけあいの活動

● 設立の経緯

- ・1997年7月 高齢者や障害者の「移動の足」として、
- ・荃崎町(現在の市南部の荃崎地区)の住民10人が発起人となり立ち上げた。
- ・住民から大きな期待が集まり、マスコミからも注目を集めた。
- ・県内初の運転ボランティアによる、有償の移動支援活動。

● 活動内容

- ・協力会員(運転ボランティア)が、外出困難な高齢者や障害者を、マイカーを使って通院や買い物、銀行や郵便局などへ、ドア・ツー・ドアで送迎する。
また、必要に応じて病院内での付添いや、車いす介助も行います。
- ・ボランティアの仲間は、毎月1回、会合を開き、利用者の健康状態の変化や、送迎上の注意点等の情報共有。必要に応じて、ご家族の方やケアマネジャーに変化の状態を伝えます (とくに一人住まいの高齢者の対応)

● 現在

協力会員数(ボランティア)15人 利用会員数(利用者)約100人
年間の活動費は 約300万円強

● 主な利用者は、荃崎地区の住民と荃崎地区に隣接する谷田部地区の住民

● 利用者数の実績

昨年はコロナ禍で＝年間 延べ2,400人(月平均＝200人)と減少した。
(2019年は3,200人) ※過去24年間の利用者数は累計で約6万人。

立ち上げの経緯と動機

- 荃崎町（現在の荃崎地区）では、病院や買い物に行くことが困難な、高齢者が増加
地域住民の有志2名が、「何とかしなければ！」と地域住民に呼びかける
- 賛同した10人の地域住民が、発起人となり立ち上げ資金を出し合い、スタート
- 「地域のなかで、生きがいある生活が送れる。そんな住みよい街づくりを目指したい」それが、発足時の友の会たすけあいの理念
- 『困った時はお互いさま、住民同士で支え合う』が当時の合言葉
- 大阪・高槻市の有償ボランティアの送迎活動（無償では、利用者も気兼ねする、ボランティアの個人負担が大き過ぎるし、長く続かない）を参考に、任意団体として1997年に有償送迎でスタート（ワンコイン500円）。2005年にNPO化
- 2006年に（「道路運送法」の改正により、有償ボランティアで送迎できる「福祉有償運送」が制度化された（営利を目的としない料金、タクシー料金の半額程度）
- いつでも（毎日）、どこへでも（市外にも、県外にも）、電話1本で予約できる！
- 送迎は玄関から玄関（ドア・ツー・ドア）、利用者は移動困難な高齢者と障害者

今後の課題

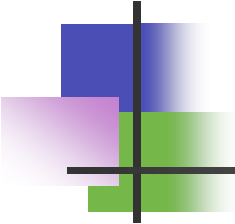
- 高齢化の急速な進行により、移動困難者（「移動難民」、「交通難民」）が増えています。（高齢化社会の大きな課題になってきた）
- 運転ボランティア自身の高齢化も進み、いつまで活動が継続できるか不安（免許証の返納、使命感だけでは続かない）
- そのためには、運転ボランティアの新たな人材の確保が急務となっています（どのようにして増やせるか）
- 「運転ボランティアが足りない！」これが私たちの最大の悩みなのです。
- しかし、運転ができ、時間に余裕のある、地域の住民有志数名いれば、いつでも、地域のための移動支援活動が作れます。難しくはありません。
- 関心のお有りの方は、問合せ NPO法人友の会たすけあい 事務局
電話：840-1125（荃崎老人福祉センター隣）

桜ニュータウン(NT)高齢者等 送迎システム「さくら」について



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」事務局

つくば市地域ケア会議&生活支援体制整備推進会議(2022/10/20)



本日お話しする内容

1. 立ち上げのきっかけと経緯
2. 高齢者等送迎システム「さくら」の内容
3. システムを持続させるための課題

立ち上げのきっかけと経緯

1. 桜NTは1979年に分譲開始された住宅団地で、
本年5/1現在、595世帯1255名が暮らし、住民によるコミュニティが形成され機能している。

→自治会とそれに関連した活動が活発である。

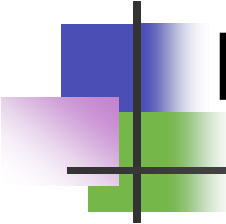


2. 少子高齢化が急速に進行している。

→5/1現在の高齢化率は51.6%(つくば市は19.3%)

→分譲と同時におおむね同じ世代の人々が移り住んだので、時間の経過とともに街全体が一挙に老いる。

3. 高齢者/免許返納者/障がい者が安心して住める街づくりが必要 一買物・通院・駅等への足の確保をどうするのか？→公共交通の見直し、共助によるサポート体制



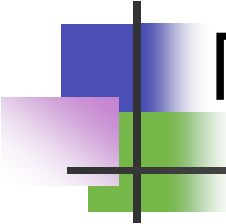
「桜NTのこれからを考える会」の活動(1)

1. 2017/6に「桜NTの素晴らしさをアピールする会」として発足
2. 2020/4に「**桜NTのこれからを考える会**」に名称変更

(目的) 少子高齢化を迎える桜NTが将来も元気で生活しやすい街であり続けるために、桜NTの抱える課題・問題点を整理し、将来計画を検討して、解決に向けた活動を行う。

(位置付け) 自治会のもとに、自治会本部、専門部、助成金団体と連携し、本部付きの検討会として具体的課題の解決に向けた検討、提案、活動を行う。

(世話人会) 2名の共同代表と世話人(現在14名)で構成し、必要に応じ自治会役員会の代表者も参加して、本会の運営を進める。
開催頻度は月1回(**コロナ禍でも継続**)。



「桜NTのこれからを考える会」の活動(2)

3. 2019年度までの主な活動内容：

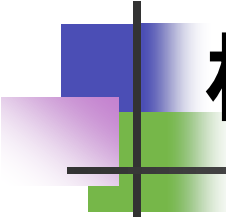
- ・空き家への入居促進のため、桜NTの素晴らしさをアピールする「桜NTに住んでみませんか」のパンフレットを作成、近隣の不動産業者の店頭に置いてもらう(2017/秋～)
- ・「家を上手に処分するには？」と題する講演会・相談会(2018/1)
- ・友の会たすけあい佐藤氏による「高齢者の足の確保は？」講演会(2018/4)
 - 福祉有償運送に関する理解と評価
- ・2016年以降の入居者に桜NT選択の要因についてアンケート調査(2018/3-6)
- ・リノベーション協議会と市建築指導課を講師に「永く快適に住むためのリノベーションの勧め」と題する講演会(2018/9)
- ・五十嵐市長を迎え「つくば市長と話す会」を自治会と共催(2018/10)
- ・全住民対象に高齢者等送迎システムに関する希望調査(2019/6)
- ・阿見町の送迎システム「ふれあい」代表による説明会と意見交換(2019/9)
 - 法的制約を受けない運送システムに関する理解と導入に向けた評価
- ・規約・実施要領を作成、会員懇談会を経て「さくら」の試行開始(2020/1/15)
 - 広報紙「ウィ ♥ 桜ニュータウン」の随時発行と全戸配布による情報提供

桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

1. 桜NTに居住する高齢者、免許返納者、障がい者の足の確保を目的に、病院や駅、買物などへの送迎を行うシステム



2. 桜NT自治会に所属する利用会員、協力会員（運転者）、賛助会員、事務局で構成される会員制の自主運営のボランティア組織
3. 「道路運送法における許可又は登録を要しない運送」の範囲内で2020年4月より運行中



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

4. 本システムへの入会と退会

入会に当たっては、別紙「**入会申込書**」に必要事項を記入し、事務局に提出。新たに利用会員になる場合は**入会金(500円)**を支払う。退会に当たっては「退会申込書」に必要事項を記入し、事務局に提出。

4.2 会員数の変化

(1) 利用会員	20名	(2020/4)	→	61名(2022/9)
(2) 協力会員	10名	(2020/4)	→	11名(2022/4)
(3) 賛助会員	55名	(2020/4)	→	70名(2022/4)

桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

5. 送迎の依頼方法

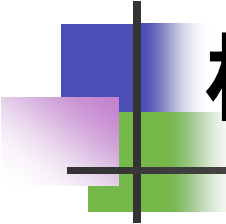
利用者から直接運転者に依頼することとし、依頼のタイミングは原則、数日前。但し、止むを得ない場合は当日でも可。

具体的な依頼方法は次の通り。

- ①事務局が運転者の翌月スケジュールを集約・作成し、**当月末までに翌月分のスケジュール表**を利用者と運転者に配布。
- ②利用者は月間スケジュール表を確認して、**送迎可能な運転者に直接連絡**し、日時・行き先について調整を行い双方で合意。
- ③利用者は、日時・行き先に変更（キャンセルを含む）が生じた場合は、速やかに運転者に連絡。

6. 利用時間

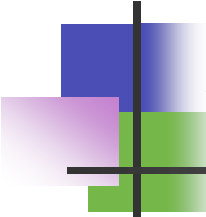
土日祝日を含む**毎日の朝8時から夕方6時**。12/29～1/3のみ休止。
毎水曜、**土浦イオン買物乗合車**を運行（予約不要、1回100円）



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

7. 利用代金と利用範囲

- ① 利用者は走行距離に応じた燃料代と、有料道路/有料駐車場を使用した場合は、その実費を事務局を通して運転者に支払う。
- ② 燃料代は20円/km × 往復分の走行距離(km)で算出。
※ 燃料代は、ガソリン代を150円/ℓ、燃費を7.5km/ℓとして算出し、走行距離は1km未満は切り捨て。
- ③ 利用範囲は利用者の自宅から概ね直線距離で15km以内とする。
- ④ 送迎はdoor-to-door

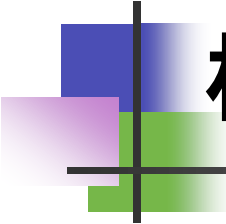


桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

8. 運行記録票の発行と利用代金の受け取り

利用者の利用状況と運転者の送迎実績等を把握・記録するため、**運行記録票**を発行し、以下の通り運用。

- ①利用者は予め事務局から、運行記録票をもらい受けておく。
- ②利用者は、送迎完了時に、**必要事項を記入した運行記録票を運転者に渡す**。乗車距離は運転手が記入する。
- ③運転者は当月の運行記録票をまとめて、事務局に提出。
- ④事務局は当月の各利用者の利用代金を集計、次月度始めに**利用代金の支払いを受ける**。
- ⑤事務局は当月の運転者ごとの送迎実績を集計し、次月度始めに送迎実績に対応する利用代金を運転者に支払う。



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

9. 全国社会福祉協議会保険への加入

運転者が利用者を送迎中、何らかの事故に遭遇する場合に備え、利用者及び運転者共に補償の万全を図るため以下の保険に加入。利用者及び運転者の保険代金は当システムの運営資金から充当。

①利用者の保険

「送迎サービス補償制度（全国社会福祉協議会）Aプラン」

②運転者の保険

「ボランティア活動保険（全国社会福祉協議会）基本タイプAプラン」



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

送迎サービス補償（傷害保険）Aプラン:

移送、送迎サービス中に交通事故などにより、利用者がケガをした場合

補償金額:（利用者特定方式）

死亡保険: 345.2万円（すでに後遺障害保険をお支払いしている場合はその差額）

後遺障害保険金: 障害の程度により、死亡・後遺障害保険金の4～100%

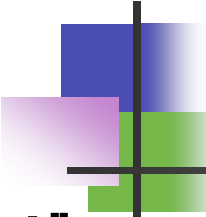
入院保険金日額: 3,400円

手術保険金: 入院中の手術34,000円、外来の手術17,000円

通院保険日額: 2,200円

保険料（1口あたり）: 利用者1名 利用日数1日20円（1申込につき最低保険料1,000円）

→ 現在は2口加入しており、補償は上記の2倍となる。



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

ボランティア活動保険

補償内容：ボランティアがボランティア活動中の急激かつ偶然な外来の事故によりケガをされた場合や、偶然な事故により他人にケガを負わせたり、他人の物をこわしたことにより法律上の損害賠償責任を負わされた場合に保険金が支払われる。

補償金額（保険金額） Aプランの場合 《ケガの補償》

死亡保険：1,040万円

後遺障害保険金：1,040万円（限度額）

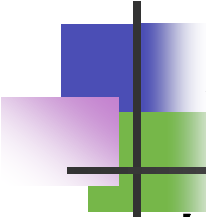
入院保険金日額：6,500円

手術保険金：入院中の手術65,000円、外来の手術32,500円

通院保険日額：4,000円

保険料（1名あたり）：《基本タイプ》 350円

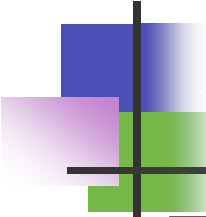
自動車による事故は、加入者自身のケガのみが対象となり、対人・対物事故などの賠償責任については対象とならない。（運転者の自動車保険でのお支払いとなる）



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

10. 事故時の補償の扱い

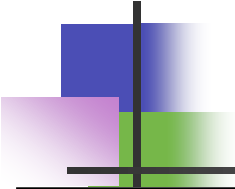
- ① 送迎中の自動車事故の利用者への補償は、当会に加入する際に加入した「送迎サービス補償制度(全国社会福祉協議会)Aプラン」の範囲内。
- ② 送迎中の自動車事故の運転者への補償は、当会に加入する際に加入した「ボランティア活動保険(全国社会福祉協議会)基本タイプAプラン」の範囲内。
- ③ 運転者の自動車の任意保険による対人・対物・搭乗者傷害等の補償は、その任意保険の契約内容に準拠。



桜NT高齢者等送迎システム「さくら」

11. 運営資金について

- ①利用者から任意で自発的な謝礼を受けることができ、これは運営資金に充当される。
- ②当システムの運用・維持のために、自治会会員に広く賛助会員への登録と寄付金等を募り、寄付金等を運営資金に充当する。
- ③加入保険の費用と事務経費（事務用品・印刷費・交通費等）は運営資金でまかなう。
- ④事務局は会員に対し、年度ごとに会員懇談会を開催し活動報告・会計報告を行う。



福祉有償運送との比較

	「友の会たすけあい」	「さくら」
事業モデル	許可・登録モデルA	許可登録不要モデルD
立ち上げ準備/維持	ハードルは高い	ハードルは低い
運送主体	NPO法人	住民によるボランティア団体
許可・登録	必要。運営協議体への定期報告も必要	不要
運転者	大臣認定講習が必要	講習受講は不要
対象者	障がい者、要介護者、要支援者、 基本チェックリスト該当者	高齢者、障がい者、免許返納者等
利用者から受取る対価	非営利と認められる実費の範囲内 (タクシー運賃の1/2)	ガソリン代のみ(20円/km)で低額
運転者への支払い	運転役務に対する報酬を支払う	ガソリン代と少額の謝礼(10kmまで 100円+10km以上は10円/km)
運営費用	送迎料金、市の補助金と繰越金等	賛助金・寄付金
専用の事務所	市の高齢者交流センターを無料間借り	なし
予約方法	利用者が事務局に電話し事務局が調整	利用者が運転者に直接電話して調整
買物乗合	—	土浦イオンに週1回

システムを持続させるための課題

- 元気なシニア/ボランティアの協力で活動をなんとか持続しているが、最近の利用者の増加に比べ協力会員（運転者）と事務局の増員が進んでいない。
- 後継者の育成・若者の参加を増やすための方策
少子高齢化が進む中、どのように後継者を育成し、若者の参加を増やしていくのがよいのでしょうか？
- 運営資金の安定確保のために公的な補助金制度
社協加入保険金と事務費相当分（年3万円程度）



2022/10/1~11/5

No.	地区	班	氏名
1	北	1	
2	北	2	
3	北	4	
4	北	5	
5	北	6	
6	北	6	
7	北	7	
8	北	8	
9	北	8	
10	北	9	
11	北	10	
12	北	10	
13	北	11	
14	中	1	
15	中	1	
16	中	2	
17	中	2	
18	中	3	
19	中	5	
20	中	5	
21	中	5	
22	中	5	
23	中	5	
24	中	6	
25	中	6	
26	中	6	
27	中	6	
28	中	6	
29	中	8	
30	中	11	
31	中	11	
32	中	11	
33	中	11	
34	中	13	
No.	地区	班	氏名
35	南	1	
36	南	1	
37	南	2	
38	南	2	
39	南	2	
40	南	2	
41	南	3	
42	南	3	
43	南	3	
44	南	4	
45	南	4	
46	南	6	
47	南	8	
48	南	8	
49	南	9	
50	南	9	
51	南	10	
52	南	10	
53	南	11	
54	南	11	
55	南	11	
56	南	12	
57	南	12	
58	南	12	
59	南	13	
60	南	14	
61	南	14	

運行記録票	運転者用	利用日	年 月 日 ()				運行記録票	利用者用	利用日	年 月 日 ()			
桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分	桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分
			迎	時 分～		時 分				迎	時 分～		時 分
利用者		送迎先	自宅	→			利用者		送迎先	自宅	→		
運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください	運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください
			迎							迎			

※利用者さまへ 事前に、左右の「利用日」「送迎先」「利用者」の欄（灰色着色部分）にご記入の上、運転者にお渡し下さい。降車時に右半分の控えを受け取って下さい。

運行記録票	運転者用	利用日	年 月 日 ()				運行記録票	利用者用	利用日	年 月 日 ()			
桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分	桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分
			迎	時 分～		時 分				迎	時 分～		時 分
利用者		送迎先	自宅	→			利用者		送迎先	自宅	→		
運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください	運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください
			迎							迎			

※利用者さまへ 事前に、左右の「利用日」「送迎先」「利用者」の欄（灰色着色部分）にご記入の上、運転者にお渡し下さい。降車時に右半分の控えを受け取って下さい。

運行記録票	運転者用	利用日	年 月 日 ()				運行記録票	利用者用	利用日	年 月 日 ()			
桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分	桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分
			迎	時 分～		時 分				迎	時 分～		時 分
利用者		送迎先	自宅	→			利用者		送迎先	自宅	→		
運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください	運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください
			迎							迎			

※利用者さまへ 事前に、左右の「利用日」「送迎先」「利用者」の欄（灰色着色部分）にご記入の上、運転者にお渡し下さい。降車時に右半分の控えを受け取って下さい。

運行記録票	運転者用	利用日	年 月 日 ()				運行記録票	利用者用	利用日	年 月 日 ()			
桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分	桜NT送迎システム 「さくら」		時間	送	時 分～		時 分
			迎	時 分～		時 分				迎	時 分～		時 分
利用者		送迎先	自宅	→			利用者		送迎先	自宅	→		
運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください	運転者		距離	送		km	片道分を2倍し少数点以下を切捨ててください
			迎							迎			

※利用者さまへ 事前に、左右の「利用日」「送迎先」「利用者」の欄（灰色着色部分）にご記入の上、運転者にお渡し下さい。降車時に右半分の控えを受け取って下さい。

運行記録票が必要な方は南8班

(090-) までご連絡ください。

グループワークについて

1 グループワークの意義

- (1) 20 人の参加者が、限られた時間内に協議し、ある程度の合意形成や結論付けをしていくためには、小グループでの検討が効率的である。
- (2) 意見の集約がしやすくなり、会議の論点がまとめやすくなる。

2 グループ構成について

- (1) 5 人×4 グループを作り、司会、書記、発表者を決めてください。
4 グループのうち、「ごみ問題」について取り組むグループと、「移動支援」について取り組むグループを事前に分けさせていただいております。
- (2) 生活支援コーディネーター7名と、委託地域包括支援センター職員6名は、各グループのオブザーバーとして参加します。
- (3) 委託地域包括支援センター職員の1名が、ファシリテーターとなり、進行の補助をします。

3 グループワークの進め方について

- (1) グループワークのルールについて、最初に確認をしてください。
(4 グループワークのルール 参照)
- (2) 司会者を中心として、シートをもとに話し合いを進めてください。委託地域包括支援センター職員が、進行の補助をします。
- (3) グループワーク終了後、各グループの発表者は、3分程度で検討内容を発表し、他者から意見をもらいます。

4 グループワークのルール

- (1) 参加者を否定するような発言をしない
- (2) お互いの自主性を尊重する
- (3) 全員が発言する
- (4) 全員で協力して進める
- (5) 意見が変わった場合、意見を変えてもよい

(日本能率協会総合研究所資料より抜粋)

つくば市内の移動支援に関する地域資源一覧(R4.2)

資料 No.6

	名称	設立の経緯、設立の年	支援の範囲	移動支援の内容 (組織構成、利用車両、利用料、支援者数と利用者数、保険の種類、 利用している補助金など)	課題となっていること
1	NPO法人友の会たすけあい	1997年、荃崎地区の住民が中心となっ て、地域の体が不自由で公共交通機関 の利用が困難な高齢者や障害者を、マイ カーで外出を支援する目的で設立。	ドア・ツー・ドアによるマイカーでの移 送、病院内・買い 物等での付添い・ 介助、送迎範囲は つくば市全域ほか 県内、県外も可能	NPO法人、運転ボランティア所有のマイカー（セダン）、タクシー料金の約半額、支援者 23人、利用者約100人（年間利用者数は延べ約2,500人）、保険は、福祉サービス総合 補償、送迎サービス補償、ボランティア保険と運転者所有車の任意保険、補助金は市 の福祉有償運送事業補助金	・運転ボランティアの高齢化と、運転ボラン ティア人材の不足（深刻です）
2	ふれあいネットワーク	高齢者のいる家が自治会で45%を占めるよ うになってきたので、高齢者を支援しようと、 2014年に「手助けチーム」を設立。	病院・買物の送迎、 草刈り、屋内外作業	自治会役員会の下部組織の「ふれあいネットワーク」の下部組織。利用車両は、個人の車。白タク 条例に違反しないために、ふれあいネットワークにガソリン代として300円／10Km、待ち時間 100円／時間を目安に寄付をして貰い、その90%を支援した人にお礼を支払う。支援者は4人、 利用者は8人。保険は、支援する人の車の保険。補助金はゼロ。	・個人でお金をもらって支援している人がおり、白タク 条例に違反しないようにしてほしいと伝えている が無視されていること ・支援者と支援される方との相性の問題
3	宝志会	2009年、団地内高齢者を対象に個人 数名のボランティアでマイカーによる 買い物支援を開始。2013年事務局 を設立し自治会の直轄組織とし、こ れを契機に協力隊員を募り、生活支 援一般に支援項目を拡大。現在隊 員23名で屋内支援、屋外支援、送迎 支援の全16項目の支援を実施。	定期送迎は買い 物主体で週2 回、不定期送迎 は病院・銀行・公 共施設等を主体 に予約制。送迎 範囲は半径5Km 以内でマスタ、スト ッカー、三井住友、常 陽、愛和等ほぼ 行き先固定。	組織：事務局5名、協力隊23名受付専用携帯電話あり。利用車両：マイカー。保 健：搭乗者保険、ボランティア保健、区会活動保険適用。利用料金：定期送迎100円 /1回、不定期送迎100円/片道。利用数：定期・不定期を合わせて40～50件/ 年。助成金：宝志会活動全般に対し自治会から10万円/年。	・駅前「たいらや」の開店及びカスミ移動 スーパーの出店により近年定期送迎は減 少傾向。・病院、公共施設への回数が大 幅に増加。・協力隊員の高齢化により送 迎支援以外の生活支援項目の削減を検 討。
4	桜ニュータウン高齢者等送 迎システム「さくら」	2017年6月、桜ニュータウンの有志 が立ち上げた「桜ニュータウンの素 晴らしさをアピールする会」のいくつ かの活動の柱の一つが、高齢者の 足の確保であり、「友の会たすけあ い」の佐藤代表をお呼びして講演会 をしたり(2018/4)、阿見町筑見の送 迎システム「ふれあい」の田邊事務 局長にお話を伺い、講演会も開催 (2019/9)する中で、「ふれあい」に似 たシステムとして、2020/1から試行、 2020/4より本運用。	桜ニュータウンに 住む高齢者、免許 返納者、障がい者 へのドア・ツー・ド アによるマイカー での移送、病院、 駅、買い物等での 送迎、範囲は片道 15km内。週1回土 浦イオンへ買物乗 合も運行(2021/6 ～)。	・組織構成：桜ニュータウン自治会に所属する利用会員、協力会員（運転者）、 賛助会員、事務局で構成される会員制の自主運営のボランティア組織。 ・利用車両：協力会員保有のマイカー ・利用料：「道路運送法における許可又は登録を要しない運送」の範囲内で、 利用会員から協力会員に支払う。ただし、賛助金などの中から別途協力会員 に謝礼を払う。 ・支援者数と利用者数：組織全体で100名。そのうち利用者は49名。 ・保険の種類：全国社協「送迎サービス補償制度」Aプランに利用会員全員2 口加入。協力会員はボランティア保険と、保有車の任意保険に加入。前2保 険は賛助金で支出。 ・利用している補助金：なし	当初利用会員は20名だったものが現在 49名と大幅に増えているが、協力会員は 当初の10名から全く増えていない。協力 会員の確保が課題。

5	谷田部グリーンハイツ助け合いの会	2010年 独り住まいの高齢者や日中独居の高齢者から「病院へ行きたくても行く手段がなくて行けない。行くとしても大変だ。」と追う声が多く聞かれるようになった。そこで、ボランティア活動に関する住民アンケート調査を実施した。その結果、22名の住民が興味や担い手を希望して、4名の高齢者が「助けてほしい」と声を上げた。お試し期間を設けて活動し、現在に至る。高齢者が気軽に参加し、身近なところで交流し互いに支え合える地域を目指しています。	市内・近隣市町村病院・駅・買い物等の支援	・メンバー7名 ・料金一律300円(往復600円) ・病院(往復待ち時間あり) ・協力会員所有車(軽あり) ・買い物(いT緒に買い物しサポートあり) ・車いす対応車両あり	・高齢者が増加し、利用者も増加しているが協力会員の登録が少ない。状況から見るとあと数名登録があると、余裕がる状態になる。
---	------------------	--	----------------------	--	--

※「支援の範囲」
対象者の居住地など。例：市内全域、荃崎圏域、団地内のみ、など

※「移動支援の内容」
組織構成：①地縁組織やボランティアグループ、②福祉有償運送団体、③その他

利用車両：①マイカー、②団体で所有している車、③レンタカーなど

「移動支援」について当日検討内容

資料No.7

第2回会議 協議結果

- A：道路運送上許可または登録を要しない運送形態等の活用、
移動支援団体の抱える課題やサポート体制を検討、
モデル事業の横展開と関心ある方へアドバイス体制の構築
B：つくタクの効率化、移動販売の拡大

既存の移動 支援の検討 結果

Bのつくタクの効率化：総合交通政策課では、来年度以降つくタクの抜本的見直しを図っている
移動販売の拡大：（株）カスミと協議し、11月末から3台目の運行を検討。高齢化率が高いところ、要望があったところ等を総合的に検討し、販売場所をこれまでののべ118か所から、のべ151か所に増設予定。

今回のグ ループワー クで検討す るテーマ

A：道路運送上許可または登録を要しない運送形態等の活用、移動支援団体の抱える課題やサポート体制を検討、**モデル事業の横展開**と関心ある方へアドバイス体制の構築のため、具体的に以下についての協議ができればと思います。次ページのこれまででたアイデアを参考に、事前に検討していただきたいと思います。

【課題1】現在活動している団体の課題である、協力者の高齢化、人材確保の困難について、具体的な取り組みについて意見出ししましょう

【課題2】立ち上げを支援するため好事例が横展開していくよう、またアドバイス体制が構築されるような、具体的取組について意見出ししましょう

移動支援についてこれまで出たアイデア

移動支援について、これまでの会議で出たアイデア

- 福祉有償運送の補助金の対象を少し広げるよう検討
- 人材不足解消のために、研修や講習を市や社協で進める
- 道路運送法上の許可または登録を要しない運送形態で、市内全域に移動支援を広げる
- 福祉有償運送の補助金の対象を少し広げるよう検討してもらいたい。
- 人材不足解消のために、研修や講習を市や社協に進めてもらいたい。
所属団体がない方でも受けられ、市周知にもなる。
- 桜ニュータウン高齢者等送迎システム「さくら」は、道路運送法における許可または登録を要しない 運送形態であり、市内全域に広げやすいシステムなのではないか
- 事務局等を含め、若い人に入ってもらうこと
- 立ち上げる際の課題と対策を整理し、ノウハウのガイドラインにする
- 地域と協力しあう形での移送も考える（病院の受診時間が集中しないよう協力体制を組むなど）
- 移送に関する補償、登録方法、事例、サポート体制などを周知するデータベースを整える
- タスクフォースで、研修会、講習会、説明会などを立ち上げられるといいのではないかな。
- 中心部と過疎地域に分けて考え、具体的方策をつくば市の方策に落とし込むのが重要ではないかな。
- 人材不足の面ではボランティアの活用が必要ではないかな。
- 免許返納については、電動自転車購入のための助成金などもよい。
- NPOや住民主体の活動の拡大をどのようにするか考えていく。
- 今の実情では、荃崎のシニアのサポートを受けたい人とする人のバランスが取れているのでこれを一つのモデルにし、横展開させていくのもよいのではないかな。

令和4年度 上半期
第2層生活支援コーディネーター事業報告
(令和4年9月末現在)

(1) 小地域における支えあい活動の立ち上げ、運営支援

令和4年9月末現在で、29の地域の取り組みの支援を行っている。

※「令和4年度上半期第2層生活支援コーディネーター活動事例報告」参照

(2) 事業の周知、広報

① 2層生活支援コーディネーター Instagram アカウントの開設

→フォロワー数 139

② 広報紙「ささえあいつくば」の発行(7圏域×2回) / R4.5/17・8/1

③ 令和4年度版 事業周知リーフレットの作成

④ 事業周知用パネル資料の作成

(3) 「地域支えあい会議」(第2層協議体)の開催

→計7回 開催(各圏域1回ずつ実施)

(4) 「つくちゃん地域支えあい助成事業」の実施

令和4年度より「つくちゃん地域支えあい助成金」として、新規事業を社協が実施。新規活動の立ち上げ支援(5万円)、既に行われている活動の継続支援(3万円)、ミニふれあいサロン開催支援(9千円)として、団体からの個別の相談に応じ申請のあった団体に対して助成を行った。

→計9団体の申請あり

(5) 活動団体間のネットワークづくり

令和4年9月に、食事支援に関わる団体を対象とした研修会・情報交換会を実施。今後も様々なテーマで、活動者・団体がつながるきっかけとなる場づくりを行う。

(6) コーディネーターのスキルの向上

① 地域福祉アドバイザーによる助言

令和4年度より、つくば市社会福祉協議会として和秀俊准教授（田園調布学園大学准教授兼地域交流センター長）に「地域福祉アドバイザー」を依頼。社協の地域福祉事業全般にわたる指導・助言を頂いている。本事業においても SC の地域活動や各種会議等への同行・活動支援、会議のファシリテーション・運営スキルなどの指導も頂いている。

② 各種研修への参加

- ・ 6/23 令和4年度「生活支援体制整備事業 基礎研修」1名参加
- ・ 7/7 令和4年度「生活支援体制整備事業 ブロック別研修会（意見交換会）」1名参加
- ・ 8/26 令和4年度「生活支援体制整備事業 生活支援コーディネーター連絡会議」（以上 茨城県社会福祉協議会主催。Zoom による会議）
2名参加
- ・ 9/2、3 いきがい・助け合いサミット in 東京（さわやか福祉財団主催。於グランドプリンスホテル新高輪）3名参加

③ 2層生活支援コーディネーターミーティングの開催

➡ 12回実施（月2回実施）

(7) 関係機関との連携強化

① 1・2層生活支援コーディネーター情報交換会

➡ 11回実施

② 圏域ケア会議への参加

➡ 13回参加

③ 周辺市街地振興課との情報交換会

④ 都市計画課との情報交換会

⑤ 実習生対応（地域活動への同行）

- ➡ 筑波大学ソーシャルワーク実習Ⅱ（見学） 18名
- ➡ 土浦看護専門学校実習 20名
- ➡ 社会福祉士ソーシャルワーク実習（筑波大学学生） 2名

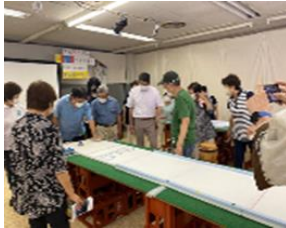
令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

①		②		③		④	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
大曽根(大穂)	通いの場	大穂圏域	その他	吉沼(大穂)	その他	大山(豊里)	生活支援
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・蓮沼地区のふれあいサロン代表の方から、地域食堂を立ち上げたいとの相談があった。 ・大曽根地区の方たちを対象に、月1回程度の開催をしてみたいとのこと。		・大穂圏域の今後の会議方針等をざっくりばらんに話し合うための場が必要と考えていた。 ・そこで大穂圏域で様々な役職に就かれている方をメンバーとして集めての話し合いを開催することとした。		・今までの会議で出された意見の中で、地域で行われている事業が地域に周知されていないとの意見があった。地域に知ってもらえるためのきっかけとして、社会資源集の作成を提案したところ、吉沼小学校区で作成したいとの意見があがったため、取り掛かることとした。 ・まずは吉沼小学校区で作成することで、作成のモデルケースとし、他の小学校区で作成するときの参考としていく。		ゴミ出し問題等の困りごとを抱えている一人暮らしや高齢者世帯に対し、地域住民による助け合い活動・見守り活動を中心に活動する組織を作りたい。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「地域食堂活動継続のための支援」 ・4月からの開催を目標としていた大曽根みんなの食堂が、無事4月から開催することができた。運営が軌道に乗るまでチラシの作成等の事務手続きを継続して支援していく。 ・広報誌等で活動紹介をすることで、地域に周知していき、誰でも利用できる居場所となるよう支援していく。		「大穂圏域コアメンバー会議の立ち上げ」 ・8/18に第1回コアメンバー会議を開催、これまでの会議で出された意見を共有し、各メンバーから意見を出してもらった。シルバークラブ等の既存の活動が継続していけるような支援を行っていくべきとの意見が出た。 ・コアメンバー会議で出た意見から今後の大穂圏域の取り組みの方針案を8/23の地域支えあい会議で提示した。9/16に第2回コアメンバー会議で大穂圏域地域支えあい会議の反省等を行った。 ・継続してコアメンバー会議を開催していきたい意思を伝え、引き続き協力をしてもらうことの下承を得た。		「吉沼小学校区社会資源集の取り組み」 ・吉沼小学校区単位での会議を行い、作成メンバーや内容を決定する。メンバーを中心に話し合いを重ね、データ収集等も進めていく。 ・地域で行われている様々な活動を収集するために、区長や地域交流センターの協力もお願いしていく。		「地域住民による組織体制の立ち上げ」 昨年からの地域リーダー数名と話し合いを続けてきた成果として助け合いグループが立ち上がった。地域力を活かして「ほのぼのクラブ」と称し高齢者のちょっとした困りごとに対応する体制づくりができた。日頃から住民の声(要望)を聞き、対応するための活動をしている。	
							

令和４年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑤		⑥		⑦		⑧	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
豊里圏域	話し合いの場	豊里圏域第2層協議体	話し合いの場	酒丸（豊里）	通いの場	緑ヶ丘（谷田部西）	生活支援活動
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
以前に豊里圏域第2層協議体において、地域課題の共有化や情報交換・資源マップづくりをした経緯があった。しかしながら、それらを活かす手法が見つからないまま今日に至っている。何か利活用する方法がないのだろうか。		豊里圏域でどのような方向性を持って取り組んでいくべきかを検討するコアメンバー会議を設けた。コアメンバー会議において話し合いをした結果、課題として地域の情報がわからないことが多いのではないかと意見となった。		住民同士の活動でスポーツや茶話会をしているグループがある。それをサロン活動として登録できないか。		・高齢者が多くなり、民生委員やふれあい相談員に生活支援に関しての相談が多くなった。（ゴミ捨てなどのちょっとした困りごと） ・民生委員とふれあい相談員・地域の方からの「地域で支え合う仕組み」を作りたいの声が出ている	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「豊里圏域コアメンバー会議の立ち上げ」 地域性を考えると地域課題の解決に向けた話し合いを継続していくだけでなく、情報共有を図るとともに、具体的に何ができるか・どのような方向性を持って進めていくかを考えた場合、地域の主要メンバー数名の協力を得て、コアメンバーを選定し、中立的な立場から豊里圏域で何ができるかを考える機会を設けた。		「豊里圏域社会資源集の取り組み」 豊里圏域コアメンバー会議において情報の見える化を図るためには、社会資源集を発行することにより、地域住民に広く情報を知ることが出来るのではないかと考えた。その素案を基に第2層協議体においても了承を得ることができた。今後は計画的な発行に向けて進めていく。		「サロン活動の支援継続」 今年度「酒丸ふれあいサロン」として立ち上げ・登録することになった。今後は継続的な支援をしていく。		「新たな取り組み（ゴミ出し支援）仕組みづくりに向けた基盤作り」 ・「まずこの地域で何が必要か？何をしたいか？」について、民生委員とふれあい相談員・地域住民の声を聞いた。その結果、まず区会全体で実施ではなく、シルバークラブやふれあいサロン参加者を対象にお試して生活支援活動を行う方向となる。シルバークラブ会員は、担い手として支援を行うことになり、住民にアンケート調査を行いニーズ把握を実施予定。	

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑨		⑩		⑪		⑫	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
富士見ヶ丘（谷田部西）	話し合いの場	グリーンハイツ（谷田部西）	通いの場	谷田部（谷田部西）	通いの場	みずほ団地（谷田部西）	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増えてきた。 ・水害が心配。 ・支援が必要な人がどこにいるかを地域で情報共有しておく必要があるとの区長からの声 ・高齢者が気軽に交流できることに取り組みたい。		・「地域にふらっと集まれる場所やコーヒーが飲めておしゃべりできる気軽な場所がほしいね」の地域住民の声 ・サロンなどに参加していない人と仲良くなりたいけど、きっかけがない。だからふらっと寄れる場所をつくりたいとの高齢者の声		・住民同士のつながりの希薄化 ・わわわやたべや町民会議「伊賀七庵」での居場所を作りたい代表者の声		・団地内も高齢者世帯やひとり暮らし高齢者が増加し、また若い世代の入居者も増加し、多世代で交流できる場所を作りたい。との声が上がりました。 ・「地域にふらっと集まれる場所やコーヒーが飲めておしゃべりできる気軽な場所がほしいね」の地域住民の声	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「マップへの落とし込み（可視化）から支援が必要な高齢者への生活支援サービス」 ・65歳以上のひとり暮らし高齢者 ・65歳以上の高齢者世帯・支援が必要な世帯 ・回覧以外の世帯（回覧板）を地図に落とし込みをした。SCとして支え合いマップの基本的作成方法を説明した。 ・支援者（区長・民生委員・ふれあい相談員・シルバークラブ・ふれあいサロン関係者・区会防災委員や衛生委員}との情報共有を行う。今後は、活用について検討していく。また、支援が必要な高齢者等を対象に見守りや交流事業を実施することになった。		「さろん・ド・カフェ」 ・地域住民の声を聞いて、SCとして他圏域の取り組みや助成金情報を提供しアドバイスを行った。 ・あまり無理をせずできることから始めようと、「さろん・ド・カフェ・グリーンハイツ」をOPENした。回数を重ねるごとに参加者が増加したことにより、開催日を増やすことの検討をしている。団地以外の参加者がいる。あまり地域での活動に参加していない高齢者もカフェに参加している。時間の拘束もないため参加しやすいという声も多くある。		「伊賀七庵」（居場所） ・住民と一緒に、地域の現状・地域でできることを考える。まずは、ここに地域の居場所があることを地域住民に周知することが重要との声を聞き、イベントを開催した。地域コミュニティの必要性や大切さに気付いていたと話してくれた方が多くみられたため、継続的に居場所やイベントを行っていく。また、多世代が集まる場所にもなっている。		「みずほカフェ」 ・「谷田部西圏域第2層協議体支えあい会議」において、他団地での活動報告を聞いて、民生委員が中心となり、まずは月1回ペースでのカフェの取り組みが始まった。 ・「みずほカフェ」として高齢者だけでなく、子育て中のお母さんとお子さんも参加し、多世代での交流ができた。 ・SCとして、他のカフェ等での活動の状況や資金面についてのアドバイスを行った。その結果、みんなが主体的に参加できるように「催し物は少なく自由におしゃべりができる時間を確保」という工夫を取り入れた。	
							

令和４年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑬		⑭		⑮		⑯	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
高須賀（谷田部西）	通いの場	みどりの（谷田部西）	生活支援	富士見ヶ丘（谷田部西）	生活支援	春日、東平塚(谷田部東)	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・移動スーパーを利用する高齢者が増加 （移動スーパーが来る1時間前から、高齢者が集まって話をしている） →研修センターを開けてサロンのような居場所ができないか？の提案 ・新型コロナの影響により地域活動が中止 ・多世代交流ができないか？の提案		・高齢者が増加 ・住民の集まる拠がない ・社協にみどりのに住んでいる方から、カフェや居場所がないか問い合わせが多い。 .気軽に参加できる「サロン」や地域のつながりを作るお手伝いをしたいと住民からお話がありました。 ・地域のつながりが必要		・高齢者が増加 ・地域支え合いマップを作成し、支援が必要な高齢者が見えてきた ・見守り・声掛けの強化 ・地域に食事作りに興味がある主婦がいる➡地域で何かできることはないか？ ・生活支援活動につなげる手法		・比較的高齢化率の低い春日地区だが、高齢者が増えてきた。また学生も多く居住している中で、住民の孤立が気になるとの民生委員の声。 ・地域には住民が集まれる会館のような場所がない。 ・「地域にある空き家や空き店舗を活用して、住民が気軽に集える場をつくりたい」との民生委員の声。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「移動スーパーの販売場所から始まった集いの場」（筑波大学生の協力と）JAやたべの支援） ・SCは立ち上げから関わり、活動の核となる民生委員・ふれあい相談員などが中心になり、毎回区会を通してチラシを全戸回覧し参加を呼びかけを行い、また民生委員や相談員から気になる高齢者へ声をかけていただき開催している。開催するごとに参加者が増加し、今まで地域活動に参加しない高齢者も活動するようになっている。25名の集いの広場は、地域の住民以外に筑波大学の学生が参加し、高齢者との交流を楽しんでいる。参加している学生に対して、JAやたべが、農家であまった野菜を学生に食べてもらうために、毎回支援している。学生と農協関係者との交流の機会となっている		新たな取り組み「地域のつながりづくり」と「顔の見える関係づくりをきっかけ居場所づくり」（みどりのバオバブ） ・みどりの地域も高齢者が増加してきた。サロンや居場所が住民が集まる場所を作りたいと住民から連絡が入った。しかし拠がないため場所探しから始めた。この取り組みの活動の中心として「みどりのバオバブNET」を立ち上げた」。担い手募集や参加者にPRをするためチラシの作成を学生に依頼。現在は、月2回マンションを会場として「ふれあいサロンバオバブ」を開設している。主に「体操＆お茶べり」参加者の状況を見てみどりの駅前にも拠点を探し居場所やカフェの開設を目指している。また、最終目標としては、地域の助け合い活動の仕組みを作ることである。		新たな取り組み「見守り・声掛けの強化」のための手作りお弁当の配達（富士見ヶ丘つながりNET） ・富士見ヶ丘地区は、区会が中心となって支え合いマップを作成した。そのため支援が必要な住民を把握している。そのため見守りや声掛けを強化することとして「何ができるかを住民が集まり作戦会議」を行った。その結果、手作り弁当を支援が必要な方に配布し、見守りのきっかけにすることになった。開始する前にコロナの状況もあるため「食品衛生講習会」を保健所を迎えて実施した。その際、つくば市内でこれから食事作りを考えている団体との情報交換会を行った。 10月から、見守り・声掛けを強化するためにお弁当配達を実施予定。		地域の憩いの場づくり支援「春日の森NET設立」と古民家改修プロジェクト ・住民の方のご厚意で、地域の中の空き店舗と古民家を、住民や活動団体が使えるような地域の拠点となるよう整備を行っている。この取り組みの活動主体として「春日の森NET」を設立。 ・SCは、拠点の整備にあたって利用できる制度等の情報提供、関係機関との連絡調整等のサポート、拠点の整備を関係する住民と一緒にやっている。 ・7月に古民家の裏庭を会場とした交流会を開催。11月には認知症声掛け訓練の実施に合わせ、再度交流の場づくりを実施する予定。	
				 			

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑰		⑱		⑲		⑳	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
研究学園(谷田部東)	話し合いの場	苅間(谷田部東)	話し合いの場	高野台(谷田部東)	生活支援	松代(谷田部東)	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・研究学園地区が形成されて約15年。地域のつながりをこれから作っていく状況にあるが、区会がない地域も多く、どのようにつながりをつくればいいのか悩んでいる状況があった。 ・この地区には、地域を基盤に活動している団体が多数存在している。個々の活動は活発に行われているが、団体間のつながりはまだない。 →団体同士がつながることで、活動が広がったり、一緒に地域のことを考えていけるのではないかな？		・TX開通後、新しいまち(学園南等)ができ、人口が増えたが「地域が分断されてしまっている」「以前のような地域のつながりがなくなってしまった」との声。 ・サロンとは別の切り口で、「高齢者だけではなく、様々な世代や役割の人がつながり地域のことについて考える場が必要だ」との地域支えあいサポーターの声。		・地区内に高齢者が増え、区会の役員等ができない高齢者が増えてきている。今後、ちょっとしたことに困る高齢者が増えてくるのではないかと声。 ・「ささえあい・つくば」の生活支援活動について特集する号を見たシルバークラブ会員から民生委員に、「こういう活動をやりたい」との相談があったことを、NW会議の場で共有。		・団地内の独居高齢者、特に男性のみの世帯が気になっているとのふれあい相談員からの声。 ・男性からも、「集まりの場には女の人が多くて男性だけでは行きづらい」との意見。 ・住民同士個々につながりはあるが、コロナ禍もあり、個人宅への行き来がしづらい状況がある。 ・この地区では、2年前にミニサロンを立ち上げようとしたが、コロナウイルスの影響で立ち消えになってしまった経緯があった。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「活動団体交流会の実施と地域交流イベント開催」 ・研究学園地区で活動している団体間がつながり、情報を共有したり、課題と一緒に解決していけるような話し合いの場づくりを、実際に地域で活動している団体のメンバーが中心となり開催した。 ・SCは準備会の実施に向けた調整を行い、実際の会の運営は参加者が主体になって行っている。6月19日(金)10:00～ 第2回交流会を開催。 ・この時に「研究学園でやりたいこと」のアイデアとして出た「地域交流イベント」の開催に向け、現在準備中。10/30(日)に「けんがくハロウィン」として開催予定。		地域の支えあいについて考え、取り組む場の支援 「葛城地区つなぐ会」 ・地域のつながりをつくること、孤立・孤独を防ぐことを目的に、R3年10月に「葛城地区つなぐ会」が設立された。 ・6月に「防災ウォークラリー」の開催、7月には新しく建設された交流館でサロンを開始した。7月には支えあいマップ、作成し「ご近所さん☆ささえ合い隊」の活動の立ち上げに向けて準備を進めている。 ・SCと一緒に活動に参加し、運営のサポートを行っている。R4年度第1回の地域支えあい会議で事例報告も行った。		「シルバークラブと考える生活支援活動」 (高野台シルバーレインボークラブ) ・地域の中で困りごとを抱えた高齢者で希望する方に対して、シルバークラブが実働部隊として生活支援活動を行うことになった。まずは週2回の燃えるゴミの日、集積所までゴミを運ぶお手伝いを4月から始めた。 ・現状では支援を希望する住民は少ないが、活動を通して「有害ごみが出しづらいようだ」「車がなくなったら移動をどうするか？」など、他の福祉課題について考えるきっかけにもなった。		「空き地を活用した『青空サロン』の開催」 ・ふれあい相談員、見守り支援員と一緒に、団地内の空き地を活用して「青空サロン」を開催し、周辺地域の人ならだれでも気軽に立ち寄れるような集いの場づくりを進めている。 ・SCは活動の立ち上げに向けたサポートとして、各種相談や備品の貸出やチラシなどの広報物の作成なども行っている。 ・つくちゃん地域支えあい助成金(ミニふれあいサロン)を活用し、10月に2回、11月に1回開催が決まっている。	
 		 		 			

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

②①		②②		②③		②④	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
二の宮（谷田部東）	通いの場	春風台（桜）	通いの場	竹園（桜）	通いの場	栗原・栄（桜）	その他
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・高齢者世帯が増えている地域であるが、SC自身が見守りの推進に難しさを感じている地域である。 ・小学校区別見守りネットワーク会議の中で関係者同士で話をする中で民生委員自身も、地域や高齢者にかかわりを持つことに難しさを感じていることがわかった。		・春風台の民生委員から近所の高齢者が集まってお茶飲みをするサロンを始めたいと相談があった。 ・活動するための場所がなく、なかなか開催することができなかったが、春風台にあるレストラン「バーキン」を貸してもらえることになり、令和4年5月から開催することになった。		・竹園まちづくりの会という名称で、竹園で地域活動を行っている方や住民が集まって、竹園をより良いまちにしていこうための話し合いを行っている。その話し合いの中で、だれでも気軽に立ち寄れる居場所づくりを行うことが決まった。 ・子どもたちが放課後立ち寄りおしゃべりや勉強をしたり、外国人や子育てをしている方の相談ができる場所などを目指していく。生活支援コーディネーターも相談員として参加してほしいとの要望がある。		・桜川と隣接する2小学校区において、防災について考えてもらい、日頃からできる地域住民との関りや助け合いのしくみづくりなどを進めていく。 ・防災についての関心は高く、何かをしないとけないという意識のある方も多い。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「集いの場を通した、見守りの仕組みづくり」		「サロン活動の支援」		「通いの場の活動支援」		「防災をきっかけとした助け合いや見守りのしくみづくりの支援」	
・サロンなどの場に高齢者に来てもらうことで、その場で地域の見守りができるようになるのではないかと考えた。そのためにまず誰でも気軽に来れるような集いの場（サロン）づくりをしようと、地域の民生委員、ふれあい相談員と準備を進めている。 ・SCは活動の立ち上げに向けて、話し合いの場の調整や開始に向けた準備と一緒に進めている。 ・交流センターの改修工事等の関係で、開始は年明け頃を予定している。現在は参加者への声かけや、運営に関わってくれる仲間集めをみんなでやっている。		・活動のための資金として、助成金申請の支援を行った。 ・毎月第2火曜日10：00～11：30に開催。 ・参加者は春風台やその周辺に住んでいる方約10名が参加している。 ・筑波大学生のグループ「かざぐるま」に協力してもらい、オリエンテーションやモルック等を行った。 ・軌道にのるまで引き続き支援していく。		・令和4年5月から開始。 ・竹園交流センター和室にて毎月第2木曜日14：00～17：00に開催。 ・社協のつくちゃん助成金を活動資金としている。 ・現在は和室を開放しながら、子どもの権利に関する勉強会を行ったり、チラシやホームページ作成について打ち合わせを行っている。		・5/30に2小学校区合同で防災勉強会を開催した。 ・栄地区区長と栗原地区区長に話し合いを行いたいことを説明した。 ・10月から地区ごとに話し合いを行っていく予定。	
 		 		 			

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

㉔		㉕		㉖		㉗	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
桜園域	話し合いの場	梅ヶ丘(荖崎)	生活支援	荖崎園域第2層協議体	話し合いの場	あしび野(荖崎)	見守り・声かけ
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・昨年度の桜園域地域支えあい会議で行ったアンケート調査結果をまとめたところ、5つの議題があげられていた。 ・地域見守りネットワーク会議において5つの議題について意見交換をしてもらった。「社会資源をリスト化する」という議題に対して、「社会資源をまとめたものがあると訪問の時に役立つ」、「団体同士の横の繋がりもできる」といった意見が出ていた。		・地域見守りネットワーク事業の会議の中で、梅ヶ丘団地のゴミ集積所は坂の上にあるため、坂下に住んでいる高齢者の中には、ゴミ集積所までゴミを出しに行くことが難しい方がいるという情報があった。 ・高齢者が多い地区のため、ゴミ出しが困難な方への助け合い活動への検討を始めた。		・過去に、2層協議体の会議で園域内の地域活動を社会資源マップとしてまとめたことがあり、荖崎には地域活動も多いことから、改めて荖崎版の社会資源集として冊子にまとめていく取り組みを行うことになった。 ・冊子にして活動を地域の方に情報提供することや園域内で不足している社会資源を把握し、そこを補っていく活動に繋げることを目的とする。		・見守り活動を担当しているふれあい相談員より、団地内の高齢化が進んでいるため、農園を通した見守り活動を始めたいと相談があった。 ・農園を憩いの場として交流を行ったり、農園で採れた野菜を閉じこもりがちな高齢者宅に届けることで、充実した見守り活動に繋げたい。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「桜園域版社会資源集の作成チームの結成と作成に向けた打ち合わせ」 ・8/24(水)に行った桜園域地域支えあい会議において、社会資源のリスト化について意見交換をもらった結果、社会資源集を作成することになった。 ・会議員の中で、作成に向けた打ち合わせに参加してくれる方を募ったところ、10名の方が参加してくれることになった。 ・9/12に第1回目の打ち合わせを行った。 ・引き続き打ち合わせを継続していく。		「地区内でのゴミ出し支援活動の取り組み」 ・「ゴミ出し支援のアンケート」を地区内の全戸配布で実施し、希望者の調査を行った。 ・アンケートの結果を会議で共有し、地区内でゴミ出しの支援体制を作ることになった。 ・その後、実際にゴミ出し支援を依頼したい方とボランティアを募集。 ・地域で助け合い活動を行っている宝陽台志会に、活動を紹介してもらい参考にさせて頂いた。 ・現在支援方法について打ち合わせを行っている。		「荖崎版社会資源集の作成」 ・支えあい会議(2層協議体会議)で、どのような活動を掲載するかということや情報を記載する様式(データカード)を検討を行った。 ・荖崎の社会資源となる地域活動(シルバークラブ、ふれあいサロン、体操クラブ、地域の支え合い活動等)の活動団体に活動の詳細を記載してもらうデータカードを送り提出してもらった。 ・区会で把握している地域活動については、区長宛てに、データカードの様式を送り作成を依頼。 ・提出頂いたデータカードをカテゴリーごとに分け冊子にまとめた。 ・区長、民生委員、ふれあい相談員等、地域関係者に配付を行う。		「あしび野ふれあい農園」 ・ふれあい相談員の呼びかけにより、あしび野住民の方たちに協力頂き、農園の整備や野菜の種まきを行った。 ・SCは、農園を運営する活動資金に充てる助成金の情報提供を行う。 ・花植えやいちごの収穫に、地域の子ども達にも協力してもらう。 ・採れた野菜を高齢者等にお配りしながらお話を伺うことで、見守り活動を行っている。	
							

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

②9	
活動地区	取組の種類
旧小田小学校区（筑波）	話し合いの場
【ニーズ・課題】	
・台風19号（2019年）において、一人暮らし高齢者が避難困難という課題が出てきた（民生委員） ・小田小交流プラザの開設によるまちづくり活性化の流れがある中で、「いくつになっても安心して生活し続けることができる地域」を目指し、生活支援体制整備事業を通じて見守りや防災活動について民生委員と話をする機会が増えていった。	
【実践・手法・成果】	【実践・手法・成果】
【小田地区いきいき全体会議（見守り部会）】 ・協働事務局と打合せを重ね、見守り活動の各区会の実践に向けた取り組み内容をまとめていった。全体会議は（6/29）開催。協議事項は下記のとおり。 1 小田地区いきいき会議とは（これまでの振り返り） 2 防災部会報告と今後の予定 3 見守りマップの更新と共有 4 小田地区いきいき会議の上半期予定 ・今回の全体会議には。地域福祉アドバイザーに出席いただき、「地域（区会）を超えた取り組みの大切さ」についてお話いただいた。地域福祉アドバイザーが第3者目線で関わってくれたことで、小田地区いきいき会議の重要性や取り組み内容の方向性が正しいことをメンバーで共有することができた。	【防災部会の立ち上げ】 ・防災部会の取り組み内容や方向性についても協働事務局と打合せを重ねていった。 ・第1回防災部会（5/30）では下記内容を実施。 1 防災勉強会①（講師：つくば市危機管理課） 2 防災部会のメンバー（区長、副区長、区会防災担当者等）と部会長の決定 →メンバーからは、「区長が1年交代のところも多いことから、すぐに防災マップづくりにとりかかるべき」という意見があがった。 ・地域防災マップに取り組むためのルールづくりを協働事務局で打ち合わせを重ね、「地域防災マップ（自主防災マップ）作成と活動の流れ」という手引きを作成した。 ・第2回防災部会（7/19）では下記内容を実施。 1 部会長あいさつ 2 地域防災マップづくりの手引きの説明と資料配付 →次回、第3回防災部会までに各区会取り組んでくることが決定した。 →第1回防災部会で見守りマップや防災マップに否定的であった地域も、第2回防災部会の前に全体会議で地域福祉アドバイザーの話を聞いたことや協働事務局の働きかけにより、取り組む方向性となった。



▲地域防災マップ掲載のアイコンシール

ごみ出し支援に関する資料

つくば市生活環境部環境衛生課

日時：令和4年10月20日（木）10時～

場所：つくば市役所202会議室

10/20/2022

つくば市のごみ出しに関する現状

○ いわゆるステーション方式によるごみ収集

(1) 戸建て住宅

既存集落においては、地域住民がごみ集積所を設置・管理。

開発団地では、開発事業者がごみ集積所を設置し、住民が管理。

(2) 集合住宅（アパート、マンション）

建築主がごみ集積所を設置、管理会社等が管理。

つくば市のごみ集積所の現状

◎基本的条件として...

- (1)ごみ集積所は、おおむね10軒に 1 か所程度の割合で設置をしている。
- (2)その他、市長が認める場合に設置を検討する場合もある。
- (3)ごみ集積所の設置は、道路の幅員や形状など、物理的な条件によって設置できない場所もある。

◎ごみ出し支援に関する現状...

高齢等を理由とした相談や問い合わせがほとんどない。このため、上記(2)で対応している。

ごみ出し支援の事例紹介①

○ 群馬県高崎市 （人口：約37万人 世帯：17万世帯 2020年～）

対象：70歳以上のみの高齢者世帯や障害者世帯等→1,255世帯

手続き：市役所窓口に書面、メール、FAX、電話も可

概要：週1回。専用の小型ダンプ車による。一度に3袋まで。声掛けによる安否確認も兼ねる。

○ 埼玉県久喜市・宮代町 （人口：約18万人 世帯：8万世帯 2002年～）

対象：65歳以上の一人暮らし世帯や障害者世帯等→245世帯

手続き：市役所窓口に書面。→後日、職員による現地確認。

概要：ごみカレンダーどおりの収集（通常ルートに組み込む）

ごみ出し支援の事例紹介②

○ 東京都稲城市 （人口：約9万人 世帯：4万世帯 2020年～）

対象：65歳以上のみの高齢者世帯や障害者世帯等→25件

手続き：ケアマネやヘルパーが市に申請。

概要：いつでも排出できる収納容器にケアマネ等が排出。通常のごみ収集ルートに合わせて、対象品目のみを収集。

○ 千葉県松戸市 （人口：約50万人 世帯：25万世帯 2013年～）

対象：要介護者世帯や障害者世帯等→289世帯

手続き：市役所窓口に申請。ケアマネ等による意見書要。

概要：週1回。市職員による直営。声掛けによる安否確認も兼ねる。

今後について

- 先駆的に実施している自治体への視察やヒアリングを行う予定。
近隣市町村だと、牛久市や竜ヶ崎市で実施の事例があるが、年々増加していく対象者に、財政負担と人員確保問題により、対応困難になってきているという現状があるようである。
- つくば市としては、先述した事例を参考し、慎重に検討をしていく予定。
現状としては、個別回収における課題の洗い出しや解決の可能性などについて模索している。
今後も福祉部門と連携して、時代やニーズに合った方法を検討していく。

会 議 録

会議の名称		令和 4 年度第 4 回つくば市地域ケア会議 第 4 回つくば市生活支援体制整備推進会議		
開催日時		令和 4 年 12 月 15 日（木） 開会 午前 10 時 00 分 閉会 午後 12 時 10 分		
開催場所		つくば市役所 防災会議室 2、3		
事務局（担当課）		福祉部地域包括支援課		
出席者	委 員	下村哲志、山中克夫、北島正義、石塚一夫、大橋功、佐藤文信、但野恭一、椎名清代、前田亮一、佐々木湧人、白石通（オンラインでの出席）成島淨、海老原良之、小林路江、今高哲生、福井正人		
	その他	つくば市社会福祉協議会 大竹統括係長（谷西） つくば市社会福祉協議会 2 層 SC 小川（桜）、猪瀬（筑波）、小倉（大穂） 筑波地域包括支援センター 戸塚保健師 大穂豊里地域包括支援センター 井ノ口センター長 谷田部西地域包括支援センター 平林センター長 谷田部東地域包括支援センター 鬼久保センター長 桜地域包括支援センター 寺田センター長 荃崎地域包括支援センター 大塚センター長		
	事務局	地域包括支援課：会田課長、飯島課長補佐、佐藤保健師、金山主任 CM、宮主事 高齢福祉課：石川係長、川上主事		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議 題		ア報告・共有事項		

様式第 1 号

	(1) 副委員長指名 (2) 2 層 SC の活動報告及び地域課題についての発表 (3) 地域ケア会議の今後の方向性 イ 報告事項 (1) タスクフォースでの協議内容についての報告 (2) グループワークの進め方について ウ 協議 ① ごみ出し支援 タスクフォースでの報告事項に沿って、質問項目を決める協議を行う ② 移動支援 タスクフォースでの報告事項に沿って、セミナーの開催内容等について具体的に協議を行う エ 発表 オ 事務連絡 カ まとめ
--	---

< 審議内容 >

1 開会

課 長：定刻になりましたので、只今より「令和 4 年度 第 4 回つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議」を開会いたします。

私、本日の進行を務めますつくば市地域包括支援課の会田と申します。よろしくお願いいたします。

また今回も、複数の委員の方が Z o o m による参加となっております。そ

様式第 1 号

それぞれの画面の所に名前が出ていると思いますので、ご確認ください。

では、議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

机上の方に当日資料としまして、ごみ問題タスクフォースの意見集約、2 層 SC からの各圏域地域課題。それと高齢福祉課から、情報冊子ツクバネ 2022 年度版。各ワークシートになっております。

過不足よろしいでしょうか。

ここで情報誌ツクバネにつきまして、高齢福祉課の石川係長の方から説明がありますので、よろしくお願いいたします。

事務局：情報雑誌ツクバネについて説明

課 長：それでは議事の方に入っていきたいと思います。

これからは開催要項第 5 条第 1 項、第 6 条第 2 項の規定によりまして、議事進行を、山中委員長の方をお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：よろしくお願いいたします。

オンラインで参加の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

議事の順番に沿ってさせていただきたいと思っています。

まず初めに副委員長指名ということですがこれ私も委員長をさせていただいてまして、ご存知の通り入院等もございましたので大変やはり 1 人では心細く思っていました。

それで開催要項を第 5 条第 3 項の規定に基づきまして、こちらに委員長の事故ある時に備えて委員長に代わる副委員長あらかじめ指名することができて、規程によりますと、委員長が指名することができると。それで時としてその副委員長がその職務を代行することができるというような

様式第 1 号

ことがございます。

それで熟慮させていただきました結果、私としましては但野委員に副委員長になっていただきたいと思います。

皆様方いかがでしょうか。

ありがとうございます。

それでは早速ではございますけれども、但野委員こちらに、きていただいて、一言お願いいたします。

副委員長：ただいまの副委員長指名をいただきました但野でございます。

前年までは平松さんが副委員長として役割を果たしていたんですが、山中委員長のサポート役として、この会議体の円滑な議事進行と具体的な成果に一つ一つ結びつけていけますよう、役割を果たしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：ありがとうございます。私も心強く思います。

それでは続きまして、第 2 層生活支援コーディネーターの活動報告及び地域課題についてまず最初に発表していただきます。よろしくお願いします。

各 2 層 SC：資料 1、資料 2、当日資料の各圏域の地域課題をもとに説明

委員長：ありがとうございます。それでは皆様方から質問とかコメントがございましたらどうぞよろしくお願いします。

もうちょっと予定の時間を超過してるんですけども、やっぱり大事な時間だと思いますので。

では副委員長お願いします。

副委員長：発表ありがとうございました。

ちょっと大事だと思うので、述べさせていただきたいんですけど、今話があったように大穂地区、豊里地区桜地区で社会資源集が作られています。ただ私も桜地区作ってはいるんですけど、作成するにあたっての予算の裏付けがないんですね。

何部作るか。あるいは何ページにするか、あるいはカラーのページを入れるかとか、写真を入れるかとか、そういうことをいろいろ考えるにしても、予算の裏付けが全くない状況なんです。

それで、会田課長ないし大竹さんにお尋ねしたいんですけど、すでに 1 層 2 層コーディネーター会議でも話題に出てるのかもしれませんが、少なくともその生活支援体制整備事業として、来年度早々でいいんですが少なくとも 100 万円ぐらいの予算をきちんとつけていただかないと、この社会資源集が作れないんですね。

その点をぜひお願いしたいと思いまして、今日、ちょっと質問なのかお願いなのかわかりませんがちょっとコメントいただければありがたいんですけ。

委員長：ありがとうございましたそれではどうでしょうか。

これは要望というかももう困ってるって言った方がいいと思うんですけど、どうにかしないと進められませんっていうことだと思いますね。

課 長：すみません、少し時間いただければと思いますので、先に進めてください。お願いします。

副委員長：社協はどうですか。

大 竹：社協の方ではやっぱり地域の方といろいろ活動していく中で、準備資金だったり、活動資金は必要だよってということで、ここ何年も地域の方の声を聞いておりました。

その中で、先ほど地域活動を立ち上げたりとか、地域活動を継続したりとか、そういうところを何か社協としてできないかなというところで、SC または組織としていろいろ考えまして、皆さんに前にお話したかと思うんですけれども、つくちゃん地域支え合い助成金というものを、令和 4 年度から立ち上げさせていただきました。

その中で例えば憩いの場だったりとか、生活支援のところですか、あと組織的に組織を立ち上げたというところでの支援ですとか、活動を実際に行っているけれども継続するためには、必要だというところでこの助成金の方を立ち上げてこれを地域の中で使っていただいております。

現在、当上半期の段階で 9 団体の申請がありまして、その団体の方たちには立ち上げ支援ということで 5 万円。また活動を継続したいというところから 3 万円。あと、ふれあいサロンの方でやったはいいけれど続くかどうか分からない、お試しでやりたいんだよっていう地域がありましたのであるので、そういうところに関しては、ミニふれあいサロンの助成金ということで、9,000 円助成をしております。

副委員長：地域支え合い助成金は分かるんですけど、これは社協に属しているコーディネーターが中心になって、社会資源集を今作ろうとしてるわけですよ。

そういう中で、助成金という形じゃなくて社協としても、こういうものを印刷するための予算というのを別立てで考えられないのかなというふうにもちょっと思うんですけど、いかがでしょう。

大 竹：社会資源集を作ると各圏域のところで挙がっているかと思うんですけども、それは住民主体の活動の中から、そういう活動をしようと上がってきているものなのかなと思います。そこについて何か社協の予算を付けるというのは、どうなのかなってちょっと思ってしまうところもあります。助成金等については様々な財団ですとかで募集をして活用して使っているというところもあるので、そういうものを活用いただければなどは思います。

委員長：それでは非常に大事な問題として上がってきましたのでこれ継続審議とさせていただきます。

はい、佐藤委員お願いします。

佐藤委員：はい。私もデータをいろいろと全国的に集めております。

どこが作るのか主体になっているのは、まずその行政、自治体の名前で、そういう資源集を作っていると。それから社会福祉協議社協の名前で出しているところも結構ございます。

二、三十事例を持っているんですけども、この住民主体と言いつつですね、実際にやっぱり住民なんかどうやって財源を確保するのかっていうのはやっぱり非常に重要な問題なんで、ここのところ少し行政の方でどんなふうに社協さんと少し調整をしながらとか何らかの資金予算の確保をぜひお願いしたいなと。

あとはいろいろスポンサーを進めるっていう、先ほどのつくばねさんの、これではないですけど、そういう地域に声をかけながら性予算確保ということもあり得るのだとは思いますが、選択肢は幾つもあると思います。ただ私がずっと集めている限りは、行政側の名前で出したり、それ

様式第1号

から社協の名前で出してるところが多いというふうなことでお伝えしておきたいと思います。

委員長：はい、では椎名委員お願いします。

椎名委員：はい。ボランティアセンターでボランティア団体として登録している団体のマップは作っています。ご覧になったことがありますか。だから、今ここに出てきた、活動している住民主体で活動している団体も、中にはボランティア登録しているところもあるかと思うんですけどもボランティア団体の登録マップはできています。その予算はボランティアセンターの予算の中で作っています。ちょっと今日持ってないんですけどそういうのもあります。

委員長：いろいろと情報提供ありがとうございました。

それではですね、すでにある関連する予算がどういうものがすでにあるとか、それから今後何かこう講ずることができるとか継続審議でやらせていただきたいと思います。

本来この会議でずっと地域のリソースというのをデータベース化するっていうことで、それは社協さんにある意味大きな目標としてやっていただいていることだと思いますので、それを住民の皆さんが細かく、資料にしたっていうところで、あとは印刷はどうするかとか、その辺の話になるのかなと思います。

今日ですね沢山やっていくことがありますので、本当に質問あるのかなと思いますけれども、非常によくまとめていただいて地域課題も非常にクリアになっておりますので、これをもう少し表などにして分けてわかりやすくしていくと、もっとわかりやすくなるんじゃないかなと思います。ぜ

ひ次回以降ですね、委員の皆様にはですねこうした地域課題についてどうしていったらいいとかそんなようなことを思いめぐらして少しご意見をいただくような場も作っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは次の事項に移らせていただきたいと思います。

それでは地域ケア会議の今後の方向性ということでこれは一層コーディネーターの金山さんじゃお願いいたします。

事務局：資料 3、参考資料 1、参考資料 2 をもとに説明

委員長：ありがとうございました。

今ごみ出し支援と、移動支援のことについてずっと揉んできていますけども、今日お示ししていただいたような四つの問題が今上がってきているということで、やっぱりできるだけ速やかに次の課題についてもみんなでも話し合えるような、そのために今上がっているものも、一つ仕組みとか形を作っていくといけないのかなというふうに思いました。

また地域包括支援センターの地域の支援事業とか他の部門もあると思いますし、それから他の部局なんかとも連携し合ってやっていかなきゃいけないようなところがありますし、今ずっと生活支援体制整備のリソースづくりとか体制づくりということがメインで行われてきましたけれども、相談機能っていうんですかね。そういう地域でのケアのケア力っていうのを高めていくようなそういうことが必要となってくるので、少し地域ケアサイドの問題っていうものをしっかり揉んでいく。地域包括支援センターの皆さんが抱えている問題とかを地域のみんなでどうやって解決していくかっていう、そのケア力の方を話し合っていく時期がもう来てるんじゃないかと思います。

今日お話いただきましたけども、これを皆様のご記憶に留めていただいて、どうしたらいいかというようなことを次回以降お話しいただくような機会を持たせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それではこの後、グループに分かれて話し合いということもありますので、そちらの方に移らせていただきたいと思います。

それではごみ出し移動支援についてタスクフォースを立ち上げるという話が出てきていましたが、そちらの協議事項についての報告、これは一層コーディネーターの方で、またお願いしたいと思います。

報告の前に、前回の会議でごみ問題と移動支援のタスクフォースっていうものを立ち上げることになっていましたが、メンバーを募らせていただきましたところですね、そのご報告が遅れていました。申し訳ございません。

ごみ問題のタスクフォースのメンバーとしまして、白石委員、下村委員、椎名委員、水谷委員。こちら4名の方がご協力いただけることになりました。

ありがとうございます、よろしくお願いいたします。

それから移動支援の問題の方のメンバーとしましては、但野委員、佐藤委員、小林委員、鬼久保委員の4名の方にご協力、立候補していただきました。

このメンバーで今後進めていただくことになります。よろしくお願いいたします。

すでにメンバーの方たちに少し協議していただいたと思うんですけども、そちらの報告を一層コーディネーターの佐藤さん、金山さんお願いします。

委員長：ありがとうございます。今 11 時 25 分過ぎたところなんですけども、この後グループワークが予定されているんですが、ご意見というよりちょっとこの私の感想なんですけれども、このタスクフォースで話し合った内容を見さしていただいて、非常に多くまとまっていますし、出席された皆様には本当に厚く御礼申し上げます。タスクフォースを作ってよかったなというふうに思っています。この内容をもとに、もう少し今日協議をしていただくって考えていいんですかね。

はい、ではその進め方についてお願いいたします。

事務局：そうしましたら、これからまたごみ問題と、移動支援の方に分かれてグループワークを行います。分かれてから今日話し合う内容につきましては、ご説明をさせていただきたいと思います。

グループワーク全体の進め方としましては、お手元資料 6 の通りで、毎回出させていただいてるものになります。グループごとに今分かれて、ご着席いただいておりますけれどもその中で司会と書記と発表者この三役をお決めください。

生活支援コーディネーターの方と、地域包括支援センターの職員がオブザーバーとして参加いたします。地域包括支援センターの職員がファシリテーターとなりますので、進行の補助をいたします。

それから司会者を中心としてですね、各テーブルの方に大きな A3 のシートがございますので、そちらの方活用していただければと思います。

最後にですけれどもグループワーク終了後各グループから 3 分程度で、また同じように発表を予定しております。

以上となります。

委員長：どうでしょう、35分ってことでしたが、20分ぐらい。

今日まとめていただいたタスクフォースの資料4と5というのが、とてもよくまとまっているので、これを見ながらですね、より具体化すべき点とか、ここを加えたらいいかっていうようなところで、資料を基に、やっていくと進めやすいんじゃないかなと思います。

そういう方向で一層コーディネーターの方ガイドをお願いできればというふうに思います。

ではよろしく願いいたします。

ウ協議（グループワーク）

① ごみ出し支援

タスクフォースでの報告事項に沿って、質問項目を決める

② 移動支援

タスクフォースでの報告事項に沿って、セミナーの開催内容等について具体的に協議する

以上についてグループに分かれて協議を行った。

委員長：皆さんお疲れ様でした。

時間が限られておりますので、最初にごみ出しの問題、それから移動支援、それぞれご発表をお願いします。「ごみ出し」は、環境衛生の方に来ていただいて説明したり、「移動」の方は、佐藤さん、但野さん発表があったと思いますし、全体的なところでどんなことが話し合われたかそれぞれコーディネーターの佐藤さんと松尾さんでお話しいただいた後に、各班で話し合われたことについてご発表いただきたいと思います。

グループ A（ごみ出し支援）の発表

委員：A チームでごみ出し支援問題について、発表させていただきます。

実情調査ということで、その中で、各民生委員さんが、特にひとり暮らし世帯、それから高齢者世帯、この情報はきちんと持ってます。

その情報もですね、昨年度までは 65 歳以上でやってたんですが、今年度から 70 歳以上という形になって、ある部分民生委員としては楽にはなってるんですが、じゃあ 70 歳になっていない困ってる人たちをどうするんだというような部分もあったんですが、その点については今まで通り、70 歳以下でもきちんと台帳登録しておくという形で、全体の統一がなされております。民生委員さんをお願いするにあたっては、各民生委員さんがお持ちの一人暮らし高齢者、それから高齢者世帯、この情報の中から、ごみ出し支援の内容で調査の検討をお願いするというような、まずきっちりとその部分を明確にすることで、受ける方の民生委員さんがアンケート調査に答えやすくすると、一番それが大切ではないかと、いうようなところから始まっております。

そのアンケートの中身なんですが、このタスクフォースでの協議事項の中で出ております内容ですね、これを中心に中身を間検討しようというところで、時間が来てしまったというのが実態でございます。

ですから、まず民生委員さんへのアンケート調査を行い、そして、それから民生委員さんへの聞き取り調査。これを行うときにですね、民生委員さんに聞き取り調査の調査項目、内容、これを事前にきちんとお願いしておくということで当日の混乱を避ける。それから民生委員さんがそんなこと聞かれてもというように混乱したり、そんなこと聞いてないよということで、嫌悪感に繋がらないように、きちんと事前の準備をしていくこと、一番大切なことではないかということで、今回の協議は終わってしまいました。以上です。

委員長：ありがとうございました。そうしましたら B グループの方ですね。お願いしてよろしいでしょうか。

グループ B（ごみ出し支援）の発表

委員：グループ B では、まず、グループ A でもお話があったように、今年の秋に高齢者の方に対する、実態調査を民生委員の方が行っていて、その調査である程度、地域の課題みたいなものは、民生委員の方は把握していると思うので、民生委員の方へのアンケートで、その実態調査の内容を市と共有できればいいなという意見が出ました。

民生委員の方への聞き取り調査では、モデル地区 3 つあると思うんですけど、このモデル地区の中でもそれぞれ地域差があるので、まず地域状況をそれぞれ把握した方がいいという意見が出ました。

地域状況の差に関連して、集積所までの距離など、地理的な条件も違うので、そういったところも、民生の方に聞き取りができればいいという意見が出ました。

また、対象者の方への聞き取り調査なんですけれど、これも個人の差が多分あると思うので、

まずごみの分別ができているかとか、ごみの曜日を把握しているかなど、その個人個人の状況をまず聞き、そのあと、ごみ出しについて困難がある方については、地域の方に今お願いできているかとかできていないとか、お願いしたいけどできていないという方がいるとすれば、これからどんな支援が欲しいか等の聞き取りができればいいという意見が出ました。

基本的にはこのタスクフォースの内容に沿って質問項目を作ればいいのかというふうな意見が出ました。以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。

そうしましたら移動支援の方ですね。では C グループお願いいたします。

事務局：ワークについて簡単に説明します。

移動グループの方では、セミナーの方を動いていくというところで、タスクフォースの方が中心にセミナーの内容等を詰めていくにあたって、既存の、もうすでに動かれてる団体であったり市民地域の方、それからこれから考えている団体市民の方に対してセミナーをやるにあたってどういうことを伝えれば、動機付け、行動変容に繋がって動きに繋がっていくかというところを、包括してグループワークをしていただいたというところであります。

グループ C（移動支援）の発表

委員：グループ C の方では基本的にアイデア出しと、こういった視点が必要じゃないかというところを中心に話をしています。

まずセミナーの目標としてはまず新しい団体をできるだけ立ち上げていきたいというところと、それだけじゃなくて、既存の利便性の向上を目指すという視点で検討をしています。

まず対象者なんですけれども、ここを少しちょっと明確にする必要があるのではないかと。ちょっと対象にならない方もいらっしゃるのかもしれないということと、こちら側の方で望ましい方っていうところを少し明確にして、いく必要があるかという話がありました。実際に乗る方なのか実際にそれを運営する方向けなのか、そこに応じたセミナーの組み方をしていく必要があるだろうという話をしています。

具体的な内容に関してなんですけれども、やはり、まずそれぞれ皆さんイメージが違うと思うので、イメージをつけていくためには啓発活動をし

っかりしていくことが大事じゃないかというところが上がっています。そのためには先進事例ですとか成功事例ですとか、そういったところを、しっかり伝えていきながら動機づけを高めていくと、あとはそういった仕掛け人みたいな方とこう繋がっていく、コーディネートをしていくっていうようなことも大事だろうというふうに話が出ています。

とりあえず啓発活動するだけだとなかなか広がっていかないところもあるので、その後の展開をどう考えていくのかっていうところで、できるだけ多くの方にその情報を届けていくっていうところがおそらく大事だろうと。

移動に関しては、どの地域でも結構共通の課題ではあったのかなと思うんですけども、ただその地域性っていうのはやはりあるのではないかなと。地域の状況に合った交通システムとか移動システムを考えていく必要があるだろうというところで、第一段階は少し啓発をして、認知度を高めていくということをした後にはその地域状況に合わせた交通システムを考えていくような、選択できるようなプロセスが必要だろうといった話が出ております。

ここから具体的にこれどうやって進めていくのというところで、結論は出なかったんですけども、3回程度がいいのかそれを継続していくのがいいのか。どのくらいのペースで方法とか、おそらく今後の検討事項で、もっとここで話したいよねっていうような意見が多く上がっています。

あと、進め方に関することなんですけれども、やはり一番大事なのはその困ってる方の声をどうやってピックアップするかというところなんですけれども、やはり困ってる方の声を聞き出して結果が難しさがあるというふうな話が出ています。

なので SC の方ですとか、あと地域ケア会議等でもおそらく上がってきていると思うのでそこをうまくタイムリーに情報を取り入れてそこに生かし

ていけるような形づくりも大切だろうというところがありました。

あともう一つの視点として今あるものを効率化していくというところで、例えばバスを利用している時にその中にサポートしてくれる車掌さんがいるとか。

そういったことで解決できることも多くあるんじゃないのかというところで、やはり少しく議論する場っていうところが、多く必要になるのではないのかなと思います。

最後にその対象、どういった方を見ていくかというところで、基本的にシニアの方とか移動困難者の、方だと思っんですけども、その障害ある方だったりとか、その対象範囲の方を少しちょっと明確にしておくのも必要だろうという意見がありました。

委員長：ありがとうございました。ではDグループをお願いいたします。

グループD（移動支援）の発表

委員：私たちのグループは、これから取り組みを考えている団体さんや地域に向けてどういうふうなことをしていこうかということについて話し合いをしてみました。

誰に対してというところで、移動支援をやってみたいとかちょっと興味あるっていう方々なら誰でもということ。その人たちに、やれるかもしれない、やれそうっていう意識を持ってもらえるように、実際の立ち上げの事例だったりとか、立ち上げまでの計画や手続きといった事例も含めて知ってもらう機会を作りたいと。

それから、立ち上げるにあたってやっぱり交通事故のこととかいろいろな不安が多いので、不安を取り除く方法、保険のことだったりとか、あと

資金元をどういうふうに確保していくのかっていった方法も伝えていきたい。

あとは実際に起きたトラブルについて、こんなふうに解決したんだよっていう事例も伝えていくことで安心して自分も参加できるんだっていうことを知ってもらいたいなというふうに考えています。

実際になぜそれを作っていかなきゃいけないのかっていうところで、やっぱり高齢化が進んできていて自力で移動できなくなっていく時期が来るんだよ、その時に自分でどうやって移動する手段を確保していくのっていうところを、考えてもらうきっかけにしたいっていうのと、高齢者ドライバーの大きな事故が増えているんだけども地域柄どうしても車が必要っていうところで、思い切って免許返納していく。その後どうするかっていうことも考えていくきっかけになったらいいんじゃないかなあというふうな話が出ています。

実際にじゃあ誰に対して伝えていくのっていうこと等も考えたんですけど、リタイアした時間に余裕があって、さらに車の運転は好きだよ得意だよとか、役に立ちたいなっていう車に興味がある団塊の世代とか、あとは子育てが終わって少し余裕が出てきた主婦の方、それからひきこもり閉じこもりで一般就労は難しいけどちょっと社会と繋がるためのステップとしての就労で引きこもっているようなちょっと 30 代、20 代、40 代、それぐらいの世代なんかもいいのかなっていう話が出ています。

実際にこれをどこでどうやって伝えていくかっていうことなんですけれども、ちっちゃい規模で出前講座とか自治会区会のレベルで座談会、話し合いついていった形の中で意見をまとめていって、次のステップへつないでいくっていうことを何度か繰り返していくのがいいのではないかなという意見に至っています。

以上です。

委員長：はい、皆さんどうもありがとうございました。今日ですね短い時間でしたですけども、話し合っていた内容ですね。これについてをまたタスクフォースの皆さんに資料として、参考にしていただいて、実際に進めていただくようにしていけたらと思います。

全員でこうやって、みんなで考えてそれを形にしていけるっていうのは、なかなかそういう委員会ってないと思いますので大変貴重だというふうに思っています。

それではこれでまとめていただきましたので、今日残っていることは次、今後の予定ですね、次回の会議とお知らせをお願いします。

事務局：次回のつくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議は2月を予定しております。

あとタスクフォースについて今後動きが発生してくるにあたって、打ち合わせ等が入ってくると思いますので、その点については改めて確認の上、ご連絡を差し上げたいと思います。

以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。

それでは以上で今日閉会とさせていただきますと思います。

ご協力ありがとうございました。

令和 4 年度
第 4 回つくば市地域ケア会議
第 4 回つくば市生活支援体制整備推進会議 次第

日時：令和 4 年(2022 年)12 月 15 日（木）午前 10 時から 12 時
場所：つくば市役所防災会議室（2）（3）

1 開会【10:00～10:05 5 分】

2 議事【10:05～11:50（1 時間 50 分）】

時 間	議 事	内 容	資 料 番 号
10:05-10:55 (50 分)	ア 報告事項 共有事項	(1) 副委員長指名 (2) 2 層 SC の活動報告及び地域課題に ついての発表 (3) 地域ケア会議の今後の方向性	No. 1 No. 2 No. 3
10:55-11:30 (35 分)	イ 報告事項	(1) タスクフォースでの協議内容に ついて報告 (2) グループワークの進め方	No. 4 No. 5 No. 6
	ウ 協 議 (グループワーク)	①ごみ出し支援 タスクフォースでの報告事項に沿って、 質問項目を決める協議をします	シート
		②移動支援 タスクフォースでの報告事項に沿って、 セミナーの開催内容等について具体的に協議 します	シート
11:30-11:45 (15 分)	エ 発 表	各グループでの協議内容を発表（3 分） 質疑応答	
11:45-11:50 (5 分)	オ 事務連絡	次回会議に向けて	
11:50-11:55 (5 分)	カ まとめ	(1) 今回の会議のまとめ (2) 次回会議までに行うことの確認	

3 その他【11:55～12:00（5 分）】

4 閉 会【12:00】

令和4年度第3回つくば市地域ケア会議及び第3回つくば市生活支援体制整備推進会議 議事要旨

会議の名称		令和4年度第3回つくば市地域ケア会議及び第3回つくば市生活支援体制整備推進会議
開催日時		令和4年10月20日（木）開会 午前10時00分 閉会 午後12時10分
開催場所		つくば市役所 会議室202、203
事務局（担当課）		福祉部地域包括支援課
出席者 (33名)	委員 (16名)	下村哲志、山中克夫、小林路江、大橋功、佐藤文信、堀越健一、但野恭一、椎名清代、水谷浩子、前田亮一、佐々木湧人、根本けい子、白石通 (オンラインでの出席) 成島淨、海老原良之、福井正人 (欠席) 飯田哲雄、北島正義、石塚一夫、今高哲夫
	その他 (10名)	つくば市社会福祉協議会 大竹統括係長（谷西） つくば市社会福祉協議会 2層SC 小川（桜）、益子（荃崎）、小倉（大穂） 筑波地域包括支援センター 戸塚保健師 大穂豊里地域包括支援センター 井ノ口センター長 谷田部西地域包括支援センター 平林センター長 谷田部東地域包括支援センター 鬼久保センター長 桜地域包括支援センター 寺田センター長 (以下オンラインでの出席) 荃崎地域包括支援センター 大塚センター長
	事務局 (7名)	地域包括支援課：会田課長、松尾社会福祉士、佐藤保健師、金山主任 CM、宮主事 高齢福祉課：石川係長、川上主事
	傍聴者	0名

～ 令和４年度第３回会議の審議事項 ～

検討・報告事項	協議事項、決定事項等
議題：グループに分かれ、「ごみ出し支援」「移動支援」の２つの地域課題の協議	<議題に、ついて協議したこと> 【各グループからの協議内容の発表】 <u>ゴミ出し支援</u> <u>グループA</u> ①今までのアンケートから集約した地図から、ごみ出し支援を検討している地域、やっている地域ではないが、対象者がたくさんいる地域がある。ある程度解決しており、制度をつくるところまで至っていない地域もある。しかし、実態を把握しないとわからない。 ②実態把握についての具体的案 場所：スマートシティ戦略課の実証実験地域として、小田と荃崎が選定されているため、この２地域を対象 地域の相手：区長、民生委員、地域包括支援センター、活動しているケアマネに一同にあつまってもらい、どのような問題があるのか調査する 調査の時期：１２月までに行う。地域の中に入って、地域の方に話を聞く。 <u>グループB</u> ①駅周辺の学園都市は独居高齢者の数が多いが、民生委員調査によって、支援が必要な方が少ない。実態の把握が行われていないのではないかと。南部は支援が必要な方の把握が行われ、支援が検討されていたり、行われている。荃崎はコミュニティ支援型が行われている。 ②実態把握についての具体案 学園地区を対象に、ゴミ出し支援についてアンケート調査を行う。地区の住民をすべて対象にする 戸建て、集合住宅の差の確認、若い方の意識付け

アンケートでは、CM の利用、ゴミ出し支援に対して関心があるかを聞きくことで実態が把握できる。

移動支援

グループC

①桜ニュータウン送迎システムでの人員確保について

人員募集のチラシを常においているが、集まらない。しかし団地は顔見知りのメリット、安心感がある

②協力者の確保は、長距離が問題なので、短くして、オンライン診療や移動販売を利用するのはどうか

学生の協力、主婦層の協力、通院乗降介助について、専門に相談するのはどうか

③好事例を横展開していくには、デイでドライバーを利用する、つくタク、バス、ウーバーの利用

7つの移動支援団体があるので、そこで相談して情報共有してはどうか

ボランティアの活用を検討し、休暇の利用や市のボランティア募集に乗せる

グループD

①イベントを一つの機会にするのではないのか

→誰に？高齢者同士、支援できる若者や女性に声をかける

→誰が？支援をしてくださる方の生の声、不安などの声を届ける

→何を？実際のところを伝える

→なぜ？担い手がいないと続けられないから

→How？区長、民生委員、勉強会やフォーラムで情報提供したらどうか

②立ち上げ支援の横展開

→どこで？市で集まって説明会が開かれていないのではないのか。困っている方がいて、8団体が活動していることのPRのために説明会。市全体、地域の支援者や利用者の生の声を集める。

会議のまとめ

【ごみ出し支援】

- ・地域限定でタスクフォースを作って、調査を試みる。(戸別収集のニーズも含め)
 - ・本人に訪問し、介護サービス、地域とのつながり、支援状況、仕組みについて確認
- 今日の会議で協議した内容を整理し、それを元に今後行っていく支援の具体的な方向性を決めていく。

【移動支援】

- ・タスクフォースを作って、講演会の実施を検討する。移動支援についての課題や困っている状況、移動支援を行っている8つの団体が市内で活動していることのPR等を含め、講演会を行う。
- 参加者の中で移動支援に協力したい方がいた場合、事例を紹介し、意見交換する場とする。
- ・その他の移動支援の形態
- 介護サービス車両関係（介護施設関係）、つくタク利用（医療関係、関係部局）、移動販売（関係委員など）、新しい支援や手段を検討する

令和4年度 上半期
第2層生活支援コーディネーター事業報告
(令和4年9月末現在)

(1) 小地域における支えあい活動の立ち上げ、運営支援

令和4年9月末現在で、29の地域の取り組みの支援を行っている。

※「令和4年度上半期第2層生活支援コーディネーター活動事例報告」参照

(2) 事業の周知、広報

① 2層生活支援コーディネーター Instagram アカウントの開設

→フォロワー数 139

② 広報紙「ささえあいつくば」の発行(7圏域×2回) / R4.5/17・8/1

③ 令和4年度版 事業周知リーフレットの作成

④ 事業周知用パネル資料の作成

(3) 「地域支えあい会議」(第2層協議体)の開催

→計7回 開催(各圏域1回ずつ実施)

(4) 「つくちゃん地域支えあい助成事業」の実施

令和4年度より「つくちゃん地域支えあい助成金」として、新規事業を社協が実施。新規活動の立ち上げ支援(5万円)、既に行われている活動の継続支援(3万円)、ミニふれあいサロン開催支援(9千円)として、団体からの個別の相談に応じ申請のあった団体に対して助成を行った。

→計9団体の申請あり

(5) 活動団体間のネットワークづくり

令和4年9月に、食事支援に関わる団体を対象とした研修会・情報交換会を実施。今後も様々なテーマで、活動者・団体がつながるきっかけとなる場づくりを行う。

(6) コーディネーターのスキルの向上

① 地域福祉アドバイザーによる助言

令和4年度より、つくば市社会福祉協議会として和秀俊准教授（田園調布学園大学准教授兼地域交流センター長）に「地域福祉アドバイザー」を依頼。社協の地域福祉事業全般にわたる指導・助言を頂いている。本事業においても SC の地域活動や各種会議等への同行・活動支援、会議のファシリテーション・運営スキルなどの指導も頂いている。

② 各種研修への参加

- ・ 6/23 令和4年度「生活支援体制整備事業 基礎研修」1名参加
- ・ 7/7 令和4年度「生活支援体制整備事業 ブロック別研修会（意見交換会）」1名参加
- ・ 8/26 令和4年度「生活支援体制整備事業 生活支援コーディネーター連絡会議」（以上 茨城県社会福祉協議会主催。Zoom による会議）
2名参加
- ・ 9/2、3 いきがい・助け合いサミット in 東京（さわやか福祉財団主催。於グランドプリンスホテル新高輪）3名参加

③ 2層生活支援コーディネーターミーティングの開催

➡ 12回実施（月2回実施）

(7) 関係機関との連携強化

① 1・2層生活支援コーディネーター情報交換会

➡ 11回実施

② 圏域ケア会議への参加

➡ 13回参加

③ 周辺市街地振興課との情報交換会

④ 都市計画課との情報交換会

⑤ 実習生対応（地域活動への同行）

- ➡ 筑波大学ソーシャルワーク実習Ⅱ（見学） 18名
- ➡ 土浦看護専門学校実習 20名
- ➡ 社会福祉士ソーシャルワーク実習（筑波大学学生） 2名

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

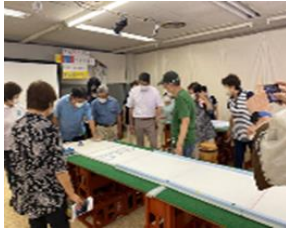
資料 No. 2

①		②		③		④	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
大曽根(大穂)	通いの場	大穂圏域	その他	吉沼(大穂)	その他	大山(豊里)	生活支援
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・蓮沼地区のふれあいサロン代表の方から、地域食堂を立ち上げたいとの相談があった。 ・大曽根地区の方たちを対象に、月1回程度の開催をしてみたいとのこと。		・大穂圏域の今後の会議方針等をざっくりばらんに話し合うための場が必要と考えていた。 ・そこで大穂圏域で様々な役職に就かれている方をメンバーとして集めての話し合いを開催することとした。		・今までの会議で出された意見の中で、地域で行われている事業が地域に周知されていないとの意見があった。地域に知ってもらえるためのきっかけとして、社会資源集の作成を提案したところ、吉沼小学校区で作成したいとの意見があがったため、取り掛かることとした。 ・まずは吉沼小学校区で作成することで、作成のモデルケースとし、他の小学校区で作成するときの参考としていく。		ゴミ出し問題等の困りごとを抱えている一人暮らしや高齢者世帯に対し、地域住民による助け合い活動・見守り活動を中心に活動する組織を作りたい。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「地域食堂活動継続のための支援」 ・4月からの開催を目標としていた大曽根みんなの食堂が、無事4月から開催することができた。運営が軌道に乗るまでチラシの作成等の事務手続きを継続して支援していく。 ・広報誌等で活動紹介をすることで、地域に周知していき、誰でも利用できる居場所となるよう支援していく。		「大穂圏域コアメンバー会議の立ち上げ」 ・8/18に第1回コアメンバー会議を開催、これまでの会議で出された意見を共有し、各メンバーから意見を出してもらった。シルバークラブ等の既存の活動が継続していけるような支援を行っていくべきとの意見が出た。 ・コアメンバー会議で出た意見から今後の大穂圏域の取り組みの方針案を8/23の地域支えあい会議で提示した。9/16に第2回コアメンバー会議で大穂圏域地域支えあい会議の反省等を行った。 ・継続してコアメンバー会議を開催していきたい意思を伝え、引き続き協力をしてもらうことの下承を得た。		「吉沼小学校区社会資源集の取り組み」 ・吉沼小学校区単位での会議を行い、作成メンバーや内容を決定する。メンバーを中心に話し合いを重ね、データ収集等も進めていく。 ・地域で行われている様々な活動を収集するために、区長や地域交流センターの協力もお願いしていく。		「地域住民による組織体制の立ち上げ」 昨年からの地域リーダー数名と話し合いを続けてきた成果として助け合いグループが立ち上がった。地域力を活かして「ほのぼのクラブ」と称し高齢者のちょっとした困りごとに対応する体制づくりができた。日頃から住民の声(要望)を聞き、対応するための活動をしている。	
							

令和４年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑤		⑥		⑦		⑧	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
豊里圏域	話し合いの場	豊里圏域第2層協議体	話し合いの場	酒丸（豊里）	通いの場	緑ヶ丘（谷田部西）	生活支援活動
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
以前に豊里圏域第2層協議体において、地域課題の共有化や情報交換・資源マップづくりをした経緯があった。しかしながら、それらを活かす手法が見つからないまま今日に至っている。何か利活用する方法がないのだろうか。		豊里圏域でどのような方向性を持って取り組んでいくべきかを検討するコアメンバー会議を設けた。コアメンバー会議において話し合いをした結果、課題として地域の情報がわからないことが多いのではないかと意見となった。		住民同士の活動でスポーツや茶話会をしているグループがある。それをサロン活動として登録できないか。		・高齢者が多くなり、民生委員やふれあい相談員に生活支援に関しての相談が多くなった。（ゴミ捨てなどのちょっとした困りごと） ・民生委員とふれあい相談員・地域の方からの「地域で支え合う仕組み」を作りたいの声が出ている	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「豊里圏域コアメンバー会議の立ち上げ」 地域性を考えると地域課題の解決に向けた話し合いを継続していくだけでなく、情報共有を図るとともに、具体的に何ができるか・どのような方向性を持って進めていくかを考えた場合、地域の主要メンバー数名の協力を得て、コアメンバーを選定し、中核的な立場から豊里圏域で何ができるかを考える機会を設けた。		「豊里圏域社会資源集の取り組み」 豊里圏域コアメンバー会議において情報の見える化を図るためには、社会資源集を発行することにより、地域住民に広く情報を知ることが出来るのではないかと考えた。その素案を基に第2層協議体においても了承を得ることができた。今後は計画的な発行に向けて進めていく。		「サロン活動の支援継続」 今年度「酒丸ふれあいサロン」として立ち上げ・登録することになった。今後は継続的な支援をしていく。		「新たな取り組み（ゴミ出し支援）仕組みづくりに向けた基盤作り」 ・「まずこの地域で何が必要か？何をしたいか？」について、民生委員とふれあい相談員・地域住民の声を聞いた。その結果、まず区会全体で実施ではなく、シルバークラブやふれあいサロン参加者を対象にお試して生活支援活動を行う方向となる。シルバークラブ会員は、担い手として支援を行うことになり、住民にアンケート調査を行いニーズ把握を実施予定。	

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑨		⑩		⑪		⑫	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
富士見ヶ丘（谷田部西）	話し合いの場	グリーンハイツ（谷田部西）	通いの場	谷田部（谷田部西）	通いの場	みずほ団地（谷田部西）	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増えてきた。 ・水害が心配。 ・支援が必要な人がどこにいるかを地域で情報共有しておく必要があるとの区長からの声 ・高齢者が気軽に交流できることに取り組みたい。		・「地域にふらっと集まれる場所やコーヒーが飲めておしゃべりできる気軽な場所がほしいね」の地域住民の声 ・サロンなどに参加していない人と仲良くなりたいけど、きっかけがない。だからふらっと寄れる場所をつくりたいとの高齢者の声		・住民同士のつながりの希薄化 ・わわわやたべや町民会議「伊賀七庵」での居場所を作りたい代表者の声		・団地内も高齢者世帯やひとり暮らし高齢者が増加し、また若い世代の入居者も増加し、多世代で交流できる場所を作りたい。との声が上がりました。 ・「地域にふらっと集まれる場所やコーヒーが飲めておしゃべりできる気軽な場所がほしいね」の地域住民の声	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「マップへの落とし込み（可視化）から支援が必要な高齢者への生活支援サービス」 ・65歳以上のひとり暮らし高齢者 ・65歳以上の高齢者世帯・支援が必要な世帯 ・回覧以外の世帯（回覧板）を地図に落とし込みをした。SCとして支え合いマップの基本的作成方法を説明した。 ・支援者（区長・民生委員・ふれあい相談員・シルバークラブ・ふれあいサロン関係者・区会防災委員や衛生委員}との情報共有を行う。今後は、活用について検討していく。また、支援が必要な高齢者等を対象に見守りや交流事業を実施することになった。		「さろん・ド・カフェ」 ・地域住民の声を聞いて、SCとして他圏域の取り組みや助成金情報を提供しアドバイスを行った。 ・あまり無理をせずできることから始めようと、「さろん・ド・カフェ・グリーンハイツ」をOPENした。回数を重ねるごとに参加者が増加したことにより、開催日を増やすことの検討をしている。団地以外の参加者がいる。あまり地域での活動に参加していない高齢者もカフェに参加している。時間の拘束もないため参加しやすいという声も多くある。		「伊賀七庵」（居場所） ・住民と一緒に、地域の現状・地域でできることを考える。まずは、ここに地域の居場所があることを地域住民に周知することが重要との声を聞き、イベントを開催した。地域コミュニティの必要性や大切さに気付いていたと話してくれた方が多くみられたため、継続的に居場所やイベントを行っていく。また、多世代が集まる場所にもなっている。		「みずほカフェ」 ・「谷田部西圏域第2層協議体支えあい会議」において、他団地での活動報告を聞いて、民生委員が中心となり、まずは月1回ペースでのカフェの取り組みが始まった。 ・「みずほカフェ」として高齢者だけでなく、子育て中のお母さんとお子さんも参加し、多世代での交流ができた。 ・SCとして、他のカフェ等での活動の状況や資金面についてのアドバイスを行った。その結果、みんなが主体的に参加できるように「催し物は少なく自由におしゃべりができる時間を確保」という工夫を取り入れた。	
							

令和４年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑬		⑭		⑮		⑯	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
高須賀（谷田部西）	通いの場	みどりの（谷田部西）	生活支援	富士見ヶ丘（谷田部西）	生活支援	春日、東平塚(谷田部東)	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・移動スーパーを利用する高齢者が増加 （移動スーパーが来る1時間前から、高齢者が集まって話をしている） →研修センターを開けてサロンのような居場所ができないか？の提案 ・新型コロナの影響により地域活動が中止 ・多世代交流ができないか？の提案		・高齢者が増加 ・住民の集まる拠点が無い ・社協にみどりのに住んでいる方から、カフェや居場所がないか問い合わせが多い。 ・気軽に参加できる「サロン」や地域のつながりを作るお手伝いをしたいと住民からお話がありました。 ・地域のつながりが必要		・高齢者が増加 ・地域支え合いマップを作成し、支援が必要な高齢者が見えてきた ・見守り・声掛けの強化 ・地域に食事作りに興味がある主婦がいる➡地域で何かできることはないか？ ・生活支援活動につなげる手法		・比較的高齢化率の低い春日地区だが、高齢者が増えてきた。また学生も多く居住している中で、住民の孤立が気になるとの民生委員の声。 ・地域には住民が集まれる会館のような場所がない。 ・「地域にある空き家や空き店舗を活用して、住民が気軽に集える場をつくりたい」との民生委員の声。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「移動スーパーの販売場所から始まった集いの場」（筑波大学生の協力とJAやたべの支援） ・SCは立ち上げから関わり、活動の核となる民生委員・ふれあい相談員などが中心になり、毎回区会を通してチラシを全戸回覧し参加を呼びかけを行い、また民生委員や相談員から気になる高齢者へ声をかけていただき開催している。開催するごとに参加者が増加し、今まで地域活動に参加しない高齢者も活動するようになっている。25名の集いの広場は、地域の住民以外に筑波大学の学生が参加し、高齢者との交流を楽しんでいる。参加している学生に対して、JAやたべが、農家であまった野菜を学生に食べてもらうために、毎回支援している。学生と農協関係者との交流の機会となっている		新たな取り組み「地域のつながりづくり」と「顔の見える関係づくりをきっかけ居場所づくり」（みどりのバオバブ） ・みどりの地域も高齢者が増加してきた。サロンや居場所が住民が集まる場所を作りたいと住民から連絡が入った。しかし拠点が無いため場所探しから始めた。この取り組みの活動の中心として「みどりのバオバブNET」を立ち上げた」。担い手募集や参加者にPRをするためチラシの作成を学生に依頼。現在は、月2回マンションを会場として「ふれあいサロンバオバブ」を開設している。主に「体操＆お茶べり」参加者の状況を見てみどりの駅前にも拠点を探し居場所やカフェの開設を目指している。また、最終目標としては、地域の助け合い活動の仕組みを作ることである。		新たな取り組み「見守り・声掛けの強化」のための手作りお弁当の配達（富士見ヶ丘つながりNET） ・富士見ヶ丘地区は、区会が中心となって支え合いマップを作成した。そのため支援が必要な住民を把握している。 そのため見守りや声掛けを強化することとして「何ができるかを住民が集まり作戦会議」を行った。その結果、手作り弁当を支援が必要な方に配布し、見守りのきっかけにすることになった。開始する前にコロナの状況もあるため「食品衛生講習会」を保健所を迎えて実施した。その際、つくば市内でこれから食事作りを考えている団体との情報交換会を行った。 10月から、見守り・声掛けを強化するためにお弁当配達を実施予定。		地域の憩いの場づくり支援「春日の森NET設立」と古民家改修プロジェクト ・住民の方のご厚意で、地域の中の空き店舗と古民家を、住民や活動団体が使えるような地域の拠点となるよう整備を行っている。この取り組みの活動主体として「春日の森NET」を設立。 ・SCは、拠点の整備にあたって利用できる制度等の情報提供、関係機関との連絡調整等のサポート、拠点の整備を関係する住民と一緒にやっている。 ・7月に古民家の裏庭を会場とした交流会を開催。11月には認知症声掛け訓練の実施に合わせ、再度交流の場づくりを実施する予定。	
						 	

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

⑰		⑱		⑲		⑳	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
研究学園(谷田部東)	話し合いの場	苅間(谷田部東)	話し合いの場	高野台(谷田部東)	生活支援	松代(谷田部東)	通いの場
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・研究学園地区が形成されて約15年。地域のつながりをこれから作っていく状況にあるが、区会がない地域も多く、どのようにつながりをつくればいいのか悩んでいる状況があった。 ・この地区には、地域を基盤に活動している団体が多数存在している。個々の活動は活発に行われているが、団体間のつながりはまだない。 →団体同士がつながることで、活動が広がったり、一緒に地域のことを考えていけるのではないかな？		・TX開通後、新しいまち(学園南等)ができ、人口が増えたが「地域が分断されてしまっている」「以前のような地域のつながりがなくなってしまった」との声。 ・サロンとは別の切り口で、「高齢者だけではなく、様々な世代や役割の人がつながり地域のことについて考える場が必要だ」との地域支えあいサポーターの声。		・地区内に高齢者が増え、区会の役員等ができない高齢者が増えてきている。今後、ちょっとしたことに困る高齢者が増えてくるのではないかと声。 ・「ささえあい・つくば」の生活支援活動について特集する号を見たシルバークラブ会員から民生委員に、「こういう活動をやりたい」との相談があったことを、NW会議の場で共有。		・団地内の独居高齢者、特に男性のみの世帯が気になっているとのふれあい相談員からの声。 ・男性からも、「集まりの場には女の人が多くて男性だけでは行きづらい」との意見。 ・住民同士個々につながりはあるが、コロナ禍もあり、個人宅への行き来がしづらい状況がある。 ・この地区では、2年前にミニサロンを立ち上げようとしたが、コロナウイルスの影響で立ち消えになってしまった経緯があった。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「活動団体交流会の実施と地域交流イベント開催」 ・研究学園地区で活動している団体間がつながり、情報を共有したり、課題と一緒に解決していけるような話し合いの場づくりを、実際に地域で活動している団体のメンバーが中心となり開催した。 ・SCは準備会の実施に向けた調整を行い、実際の会の運営は参加者が主体になって行っている。6月19日(金)10:00～ 第2回交流会を開催。 ・この時に「研究学園でやりたいこと」のアイデアとして出た「地域交流イベント」の開催に向け、現在準備中。10/30(日)に「けんがくハロウィン」として開催予定。		地域の支えあいについて考え、取り組む場の支援 「葛城地区つなぐ会」 ・地域のつながりをつくること、孤立・孤独を防ぐことを目的に、R3年10月に「葛城地区つなぐ会」が設立された。 ・6月に「防災ウォークラリー」の開催、7月には新しく建設された交流館でサロンを開始した。7月には支えあいマップ、作成し「ご近所さん☆ささえ合い隊」の活動の立ち上げに向けて準備を進めている。 ・SCと一緒に活動に参加し、運営のサポートを行っている。R4年度第1回の地域支えあい会議で事例報告も行った。		「シルバークラブと考える生活支援活動」 (高野台シルバーレインボークラブ) ・地域の中で困りごとを抱えた高齢者で希望する方に対して、シルバークラブが実働部隊として生活支援活動を行うことになった。まずは週2回の燃えるゴミの日、集積所までゴミを運ぶお手伝いを4月から始めた。 ・現状では支援を希望する住民は少ないが、活動を通して「有害ごみが出しづらいようだ」「車がなくなったら移動をどうするか？」など、他の福祉課題について考えるきっかけにもなった。		「空き地を活用した『青空サロン』の開催」 ・ふれあい相談員、見守り支援員と一緒に、団地内の空き地を活用して「青空サロン」を開催し、周辺地域の人ならだれでも気軽に立ち寄れるような集いの場づくりを進めている。 ・SCは活動の立ち上げに向けたサポートとして、各種相談や備品の貸出やチラシなどの広報物の作成なども行っている。 ・つくちゃん地域支えあい助成金(ミニふれあいサロン)を活用し、10月に2回、11月に1回開催が決まっている。	
 		 		 			

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

②①		②②		②③		②④	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
二の宮（谷田部東）	通いの場	春風台（桜）	通いの場	竹園（桜）	通いの場	栗原・栄（桜）	その他
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・高齢者世帯が増えている地域であるが、SC自身が見守りの推進に難しさを感じている地域である。 ・小学校区別見守りネットワーク会議の中で関係者同士で話をする中で民生委員自身も、地域や高齢者にかかわりを持つことに難しさを感じていることがわかった。		・春風台の民生委員から近所の高齢者が集まってお茶飲みをするサロンを始めたいと相談があった。 ・活動するための場所がなく、なかなか開催することができなかったが、春風台にあるレストラン「バーキン」を貸してもらえることになり、令和4年5月から開催することになった。		・竹園まちづくりの会という名称で、竹園で地域活動を行っている方や住民が集まって、竹園をより良いまちにしていこうための話し合いを行っている。その話し合いの中で、だれでも気軽に立ち寄れる居場所づくりを行うことが決まった。 ・子どもたちが放課後立ち寄りおしゃべりや勉強をしたり、外国人や子育てをしている方の相談ができる場所などを目指していく。生活支援コーディネーターも相談員として参加してほしいとの要望がある。		・桜川と隣接する2小学校区において、防災について考えてもらい、日頃からできる地域住民との関りや助け合いのしくみづくりなどを進めていく。 ・防災についての関心は高く、何かをしないとけないという意識のある方も多い。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「集いの場を通した、見守りの仕組みづくり」		「サロン活動の支援」		「通いの場の活動支援」		「防災をきっかけとした助け合いや見守りのしくみづくりの支援」	
・サロンなどの場に高齢者に来てもらうことで、その場で地域の見守りができるようになるのではないかと考えた。そのためにまず誰でも気軽に来れるような集いの場（サロン）づくりをしようと、地域の民生委員、ふれあい相談員と準備を進めている。 ・SCは活動の立ち上げに向けて、話し合いの場の調整や開始に向けた準備と一緒に進めている。 ・交流センターの改修工事等の関係で、開始は年明け頃を予定している。現在は参加者への声かけや、運営に関わってくれる仲間集めをみんなでやっている。		・活動のための資金として、助成金申請の支援を行った。 ・毎月第2火曜日10：00～11：30に開催。 ・参加者は春風台やその周辺に住んでいる方約10名が参加している。 ・筑波大学生のグループ「かざぐるま」に協力してもらい、オリエンテーションやモルック等を行った。 ・軌道にのるまで引き続き支援していく。		・令和4年5月から開始。 ・竹園交流センター和室にて毎月第2木曜日14：00～17：00に開催。 ・社協のつくちゃん助成金を活動資金としている。 ・現在は和室を開放しながら、子どもの権利に関する勉強会を行ったり、チラシやホームページ作成について打ち合わせを行っている。		・5/30に2小学校区合同で防災勉強会を開催した。 ・栄地区区長と栗原地区区長に話し合いを行いたいことを説明した。 ・10月から地区ごとに話し合いを行っていく予定。	
 		 		 			

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

㉔		㉕		㉖		㉗	
活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類	活動地区	取り組みの種類
桜園域	話し合いの場	梅ヶ丘(荃崎)	生活支援	荃崎園域第2層協議体	話し合いの場	あしび野(荃崎)	見守り・声かけ
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
・昨年度の桜園域地域支えあい会議で行ったアンケート調査結果をまとめたところ、5つの議題があげられていた。 ・地域見守りネットワーク会議において5つの議題について意見交換をしてもらった。「社会資源をリスト化する」という議題に対して、「社会資源をまとめたものがあると訪問の時に役立つ」、「団体同士の横の繋がりもできる」といった意見が出ていた。		・地域見守りネットワーク事業の会議の中で、梅ヶ丘団地のゴミ集積所は坂の上にあるため、坂下に住んでいる高齢者の中には、ゴミ集積所までゴミを出しに行くことが難しい方がいるという情報があった。 ・高齢者が多い地区のため、ゴミ出しが困難な方への助け合い活動への検討を始めた。		・過去に、2層協議体の会議で園域内の地域活動を社会資源マップとしてまとめたことがあり、荃崎には地域活動も多いことから、改めて荃崎版の社会資源集として冊子にまとめていく取り組みを行うことになった。 ・冊子にして活動を地域の方に情報提供することや園域内で不足している社会資源を把握し、そこを補っていく活動に繋げることを目的とする。		・見守り活動を担当しているふれあい相談員より、団地内の高齢化が進んでいるため、農園を通した見守り活動を始めたいと相談があった。 ・農園を憩いの場として交流を行ったり、農園で採れた野菜を閉じこもりがちな高齢者宅に届けることで、充実した見守り活動に繋げたい。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
「桜園域版社会資源集の作成チームの結成と作成に向けた打ち合わせ」 ・8/24(水)に行った桜園域地域支えあい会議において、社会資源のリスト化について意見交換をもらった結果、社会資源集を作成することになった。 ・会議員の中で、作成に向けた打ち合わせに参加してくれる方を募ったところ、10名の方が参加してくれることになった。 ・9/12に第1回目の打ち合わせを行った。 ・引き続き打ち合わせを継続していく。		「地区内でのゴミ出し支援活動の取り組み」 ・「ゴミ出し支援のアンケート」を地区内の全戸配布で実施し、希望者の調査を行った。 ・アンケートの結果を会議で共有し、地区内でゴミ出しの支援体制を作ることになった。 ・その後、実際にゴミ出し支援を依頼したい方とボランティアを募集。 ・地域で助け合い活動を行っている宝陽台志会に、活動を紹介してもらい参考にさせて頂いた。 ・現在支援方法について打ち合わせを行っている。		「荃崎版社会資源集の作成」 ・支えあい会議(2層協議体会議)で、どのような活動を掲載するかということや情報を記載する様式(データカード)を検討を行った。 ・荃崎の社会資源となる地域活動(シルバークラブ、ふれあいサロン、体操クラブ、地域の支え合い活動等)の活動団体に活動の詳細を記載してもらうデータカードを送り提出してもらった。 ・区会で把握している地域活動については、区長宛てに、データカードの様式を送り作成を依頼。 ・提出頂いたデータカードをカテゴリーごとに分け冊子にまとめた。 ・区長、民生委員、ふれあい相談員等、地域関係者に配付を行う。		「あしび野ふれあい農園」 ・ふれあい相談員の呼びかけにより、あしび野住民の方たちに協力頂き、農園の整備や野菜の種まきを行った。 ・SCは、農園を運営する活動資金に充てる助成金の情報提供を行う。 ・花植えやいちごの収穫に、地域の子ども達にも協力してもらう。 ・採れた野菜を高齢者等にお配りしながらお話を伺うことで、見守り活動を行っている。	
							

令和4年度上半期
生活支援コーディネーター活動事例報告(R4.10月現在)

②9	
活動地区	取組の種類
旧小田小学校区（筑波）	話し合いの場
【ニーズ・課題】	
・台風19号（2019年）において、一人暮らし高齢者が避難困難という課題が出てきた（民生委員） ・小田小交流プラザの開設によるまちづくり活性化の流れがある中で、「いくつになっても安心して生活し続けることができる地域」を目指し、生活支援体制整備事業を通じて見守りや防災活動について民生委員と話をする機会が増えていった。	
【実践・手法・成果】	【実践・手法・成果】
【小田地区いきいき全体会議（見守り部会）】 ・協働事務局と打合せを重ね、見守り活動の各区会の実践に向けた取り組み内容をまとめていった。全体会議は（6/29）開催。協議事項は下記のとおり。 1 小田地区いきいき会議とは（これまでの振り返り） 2 防災部会報告と今後の予定 3 見守りマップの更新と共有 4 小田地区いきいき会議の上半期予定 ・今回の全体会議には。地域福祉アドバイザーに出席いただき、「地域（区会）を超えた取り組みの大切さ」についてお話いただいた。地域福祉アドバイザーが第3者目線で関わってくれたことで、小田地区いきいき会議の重要性や取り組み内容の方向性が正しいことをメンバーで共有することができた。	【防災部会の立ち上げ】 ・防災部会の取り組み内容や方向性についても協働事務局と打合せを重ねていった。 ・第1回防災部会（5/30）では下記内容を実施。 1 防災勉強会①（講師：つくば市危機管理課） 2 防災部会のメンバー（区長、副区長、区会防災担当者等）と部会長の決定 →メンバーからは、「区長が1年交代のところも多いことから、すぐに防災マップづくりにとりかかるべき」という意見があがった。 ・地域防災マップに取り組むためのルールづくりを協働事務局で打ち合わせを重ね、「地域防災マップ（自主防災マップ）作成と活動の流れ」という手引きを作成した。 ・第2回防災部会（7/19）では下記内容を実施。 1 部会長あいさつ 2 地域防災マップづくりの手引きの説明と資料配付 →次回、第3回防災部会までに各区会取り組んでくることが決定した。 →第1回防災部会で見守りマップや防災マップに否定的であった地域も、第2回防災部会の前に全体会議で地域福祉アドバイザーの話を聞いたことや協働事務局の働きかけにより、取り組む方向性となった。



▲地域防災マップ掲載のアイコンシール

1 圏域別地域ケア会議の役割について

地域ケア会議は、個別ケースへの支援の検討を通して、個別ケースごとの課題解決を行うだけでなく、地域包括ケアシステム構築の課題と、地域課題を発見し、地域の実情や地域の特性に応じて必要となる地域作り、資源開発、連携のニーズを明らかにすると共に、政策形成に至ることを目指している。
今回、地域ケア会議の5つの機能について課題抽出を行ったので報告する。

<地域ケア会議の5つの機能について>

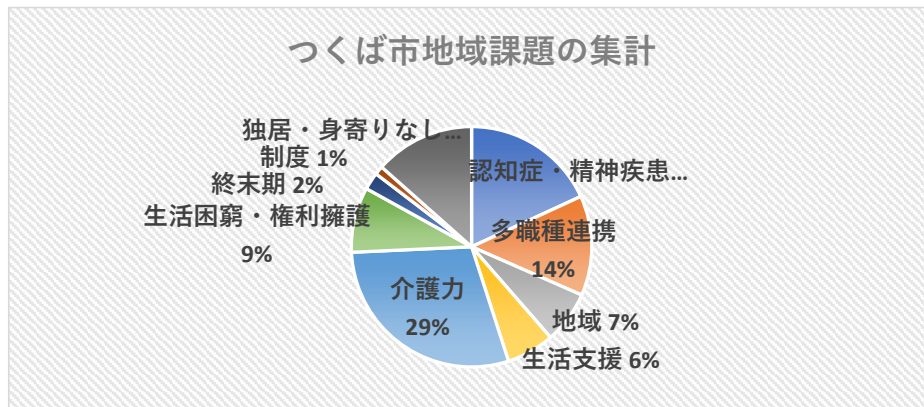
1 個別課題解決機能 2 多職種連携のネットワーク構築機能 3 地域課題抽出機能 4 地域作り資源開発機能
5 政策形成機能

2 課題抽出方法

圏域別地域ケア会議で取り上げた36事例から、課題分類表を用いて課題抽出を行い、全項目の中から特に重要と考えられる課題を5つまで選択。上位4件の課題を明記すると共に、現状のつくば市の取組状況を記載する。各圏域の課題については圏域ごとの集計表を参照。

3 地域課題として選択された上位4項目（合計171件）

- | | |
|---|-----|
| (1) 家族の介護力に関すること | 50件 |
| (地域からの孤立12件 家族関係が悪い12件 介護力の低い家族と同居 9件 老々・認々介護 6件 8050問題 5件 その他 6件) | |
| (2) 認知症・精神疾患への対応等に関すること | 31件 |
| (認知症高齢者への対応14件 精神疾患の対応 9件 認知症の理解不足 6件 その他 2件) | |
| (3) 多職種連携に関すること | 23件 |
| (多職種連携 6件 支援者の理解不足 6件 在宅医療支援 4件 介護支援専門員のアセスメント力 4件 その他 3件) | |
| (4) 独居・身寄りなし | 23件 |
| (健康管理10件 閉じこもり（サービス拒否） 7件 ゴミ屋敷 3件 日常の金銭管理 3件) | |



4 上記項目に関する現在のつくば市の取組と今後の方向性について

<家族の介護力に関すること>

- ・地域の見守り体制の強化や連携構築に関する問題は、インフォーマルサポート（民生委員や地域の見守りサポート、生活支援コーディネーターなど）と地域の関わり方に関して、つくば市地域ケア会議で議論、検討を行っている。
- ・市民に向けた在宅医療に関する啓発動画の配信を行っている。
- ・8050問題など家族の支援に関する相談窓口については、令和3年度つくば市在宅医療連携推進事業地域リーダー研修で、つくば市障害者の相談窓口である障害者地域支援室、茨城県ひきこもり相談支援センターの周知を行った。
- ・令和4年度は介護保険サービス利用に関する動画作成を予定している。
- ・家族が抱える介護力の問題については、令和4年度7月から家族介護教室を開催し、介護者にも学びの場を提供していく。

⇒地域の関係機関や社会資源と連携を取るしくみ作りが必要

<認知症・精神疾患への対応等に関すること>

- ・認知症の相談窓口を周知している。
- ・認知症の正しい理解や対応が地域に広まるよう、認知症サポーター養成講座の実施や、市民講座等を開催している。
- ・市民向けの認知症ケアパスを作成、配布を行っている。また、病院に受診する際のポイント、認知症の方への対応や活用できる制度の3つについて啓発動画を作成、配信を行っている。
- ・認知症初期集中支援チームを市内2カ所設置し、認知症サポート医と連携しながら認知症高齢者や家族支援を実施している。
- ・市内6カ所に認知症カフェを設置し、市民が参加しやすい体制を構築している。
- ・認知症地域推進員を各地域包括支援センターに配置し、認知症の方が地域で切れ続けられるよう、支援体制の構築に取り組んでいる。
- ・認知症高齢者等SOSネットワーク事業で、行方不明になる恐れがある認知症高齢者の情報を事前登録していただき、つくば警察署や地域包括支援センターと情報共有している。万が一行方不明になった場合には、捜査の一助となるよう、協力事業所に情報配信している。
- ・認知症支援メールで認知症に関する情報などを配信している。
- ・令和4年度は認知症声かけ訓練を小規模型訓練（区会やシルバークラブ等）として実施を予定
- ・令和3年度つくば市在宅医療連携推進事業地域リーダー研修で、障害者の相談窓口である障害者地域支援室や、茨城県ひきこもり相談支援センターの周知を行った。
- ・障害制度について理解を深めるため、障害者相談支援事業所と委託地域包括支援センターが意見交換会を実施予定。委託包括がケアマネジャー支援に繋げることができるようにする。

⇒認知症理解の促進、対応技術の向上に向けた取り組みの実施が求められる。

<多職種連携に関すること>

- ・令和3年度在宅医療介護連携推進事業地域リーダー研修会で、多職種連携に関する研修会を実施
- また、つくば市主任介護支援専門員研修会でつくば市地域包括ケアシステムに関する研修会を実施、つくば市としてのありたい姿やケアマネジャーの役割を確認した。
- ・地域の社会資源を把握、活用するためのガイドブックを作成を行い、活用可能な機関や制度の把握を行っている。（ミニ知識） →地域包括支援課ホームページにも掲載している。
- ・ハートページ、在宅医療と介護のサービスマップの作成を行い市民にも理解しやすい。
- ・コロナ禍でも連携が取りやすいICTを用いた連携ツールの周知を実施している。
- ・圏域別地域ケア会議に多職種が出席することで、圏域での連携体制の構築への取組を行っている。

⇒介護保険・高齢者福祉分野以外との支援連携作りが求められる

<独居・身寄りなしに関すること>

- ・民生委員や地域の見守りサポート、生活支援コーディネーターなど、インフォーマルサポートと連携構築や地域の見守り体制の強化については、つくば市地域ケア会議で検討課題として議論されている。
- ・日常生活自立支援事業、成年後見制度については、地域包括支援課・つくば成年後見センター（社会福祉協議会）が制度の周知や利用促進を図っている。また、令和3年度から、つくば成年後見センターで中核機関が開始となり利用促進計画に基づいて活動している。
- ・成年後見支援事業では、申し立ての支援、資力のない方への助成制度がある。
- ・KBDシステムから抽出した、支援の必要な高齢者等を把握し地域包括支援課保健師が訪問を実施。委託地域包括支援センターと連携し訪問を継続している。

⇒支援介入困難者への支援体制について、専門職間の連携だけでなく、民生委員や見守り支援など地域のインフォーマルサポートとの連携構築が必要である。

5 圏域別ケア会議から確認した社会資源情報

・居宅療養管理指導等で薬剤師が利用者宅を訪問した際、主治医へ服薬状況等の報告する手段として、トレーニングレポート（服薬情報提供書）を活用している。
薬剤師と医師の情報共有のための書類であるが、薬剤師とケアマネジャーはじめ多職種が連携することで、支援に関わる専門職や家族の薬の管理に関する負担軽減になり、利用者の治療効果を上げることに繋がる。また、薬剤師を通して利用者情報を主治医と共有することもできる。

・外国人の方の支援については、利用者が通院している病院や、つくば市役所内国際交流室で医療通訳の調整が可能である。茨城県で発行しているメディカルケアブックなど、支援に役立つリーフレットがある。
医療通訳利用の際は利用料金がかかる場合があるため確認が必要。
・モニタリング等通常のコミュニケーションには通訳アプリの活用も有効。

・筑波大学付属病院にアルコール低減外来が開設された。アルコールに関する相談ができる。
完全予約制となっており、病院の予約センターから予約をする。

【 地域課題解決に向けた整理表 】

※参考資料_2

a 地域とのつながりや見守りのチームづくり ⇒ 検討案件△

個別ケース 検討	・近隣の見守りが必要と思われるが、養護者が周囲との関わりを持とうとせず、必要以上の介入は拒否する ・独居だが、トラブルがあり近所との付き合いがない。親族とも疎遠 ・集合住宅で近所付き合いがない。区会もない ・近所の目を気にして、受診以外に外出の機会がない ・転倒の不安があり一人での外出を制限しているため、自宅で夜型の生活となってしまうが、生活のリズムを整えたい ・日本に移住してきた外国人の方の支援で、本人や家族とのコミュニケーションのとり方をどのようにしたらよいか ・キーパーソンが遠方のため、緊急時すぐに駆けつけることができない ・消費者被害等にあい、金銭管理ができなくなっているが、認知症の診断は受けていない
地域課題 の発見	・本人や家族が周囲との関わりを望まない、周囲の目を気にして近所とのつながりを持てない、近隣との関係が悪い世帯がある ・介護保険サービスと地域のつながりや支えあいがうまく連携できていない ・介護保険サービスに結びつくひとと安心と感じてしまい、ご近所とのつながりや支え合いが希薄になってしまう ・消費者被害等に繰り返しあってしまう方を地域で見守る必要がある
委員からの 意見	・砂川市では、市で独居や高齢者世帯を訪問し、生活弱者を把握し介入しているとのこと。地域性が違うので、つくば市が同じようにいくかどうかはわからないが、地域の力が試される課題なのではないか。 ・市民、専門職、地域活動をしている方などが見守りを実施している。地域活動をしている方が見守り実施し、結果どのようにつながったかのいい事例をほかの地域で展開できないかを検討してはどうか。 ・見守りネットワークが各地域でどれくらいの対象者がいるか。また、見守りの仕組みがなくても、自主的にサポートができていく地域がどのくらいあるか。市の訪問（サービス）などにより、変化が出てきているかなど、地域でどのくらいの高齢者が支援されているか確認できるとよいのではないか。
実施している 取組	・社会福祉協議会の見守りネットワーク事業による見守り活動 ・消費生活センターや地域住民との連携 ・介護予防把握事業による、介護予防訪問 ・地域での自主防災組織による見守り
提案に向けた 意見の集約	・社会福祉課からの要援護者名簿は民生委員に渡されている。要支援者が民生委員には教えてもいいが、区会には知らせるほしくないと希望する方もいる。地域の信頼関係を構築していくことが必要である。 ・桜ニュータウンでは、支援を希望する各世帯の個人情報、介護認定や内服薬などの情報を細かく確認している。区会で要支援者の人数を把握し、ふだんから緩やかな見守りを実施している。要支援者に2人の支援者が担当するサポーター制をとっている。ほかに年1回、自主防災組織の活動として、防災訓練を実施。令和2年度からは、社会福祉課の要援護者名簿を提供してもらっている。
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

b 火の不始末等による火事の不安や対応

個別ケース 検討	・アルツハイマー型認知症の方が家族の注意を聞かず、野焼き（ゴミを燃やす）をやめない ・喫煙を止められない
地域課題 の発見	・認知症のため火の始末ができない ・喫煙による火事の不安がある ⇒疾患が関係しているの、医療度の高い課題である。地域でどのような関りができるか。
提案に向けた 意見の集約	
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

c 緊急通報システムの活用

個別ケース 検討	緊急通報システムを設置している方 ・首からペンダントをかけない利用に対して、どのように説得すればよい ・ペンダントは寝室に置いたままで携帯していない
地域課題 の発見	・緊急時に通報ができない可能性があるが、ペンダントを身につけない
委員からの 意見	・必要性や重要性を十分理解していないと利用につながらない。携帯しないのは、認知症等の疾病が関係しているかもしれない。
提案に向けた 意見の集約	
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

d 医療が必要な人への十分な支援が整わない

個別ケース 検討	・コミュニケーションがとりづらく、理解力や判断能力も低い。不安定な関わりの知人を頼りにし、成年後見制度利用を拒否 ・地域での活動を積極的に行っていたが、うつ病の影響で自宅に閉じこもり気味になっている ・自己判断で内服治療を中断して体調不良を繰り返す、寝込むことが頻回になりADLの低下につながっている ・コロナ禍の外出自粛から精神症状が悪化し、心身機能低下と家族介護負担の増大につながっている
地域課題 の発見	・サービス担当者と知人のそれぞれが支援をしている状況で、方向性が一致していない ・これまであった地域の関わりを保つためにそれぞれの役割決めが必要 ・身近な相談できる医療職種がいなく、チームで関わり、各々の役割から自立した生活をサポートできる体制構築が必要 ・生活状況の変化が主治医に伝わっていないことで適切な治療が行えていなかったことから、情報連携体制の整備が必要
委員からの 意見	・疾患が関係しているので、医療度の高い課題 - 在宅医療・介護連携推進事業や認知症初期集中支援チーム（認知症サポート医と連携し、医療機関の受診や介護保険サービスの利用に関しての相談を受ける）で対応できるのではないかと。 ・健康診断の情報を共有し、早期発見、早期対応につなげ、連携を深める。
実施している 取組	・在宅医療・介護連携推進事業による、多職種連携のためのツール（病院専門職相談窓口一覧、連携タイム、訪問看護ステーション及び特別養護老人ホームの特徴一覧、退院前状況共有チェックリスト）の作成。 ・在宅医療・介護連携推進事業による、職種ごとの役割を認識するために多職種連携意見交換会を開催。また、地域相談を受ける地域包括支援センターと病院との連携構築のための意見交換会を実施。 ・認知症を疑うが診断のない市民に対する短期集中支援を行う認知症初期集中支援チーム（北部・南部）を整備。 ・認知症の段階に応じて、どのようなサービス等が活用できるかを示す「認知症ケアパス」を作成。 ・KDB（国保データベース）から未受診者を抽出し、受診勧奨通知を送付している。 ・KDB（国保データベース）から介護保険認定あり未利用かつ令和元年生活習慣病ありを抽出し、訪問トリアージを行い、各地域包括支援センター保健師による訪問を実施している。
提案に向けた 意見の集約	
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

e 必要なサービスの提案を拒否し、I ADL低下の起因となっている

個別ケース 検討	・リハビリの必要性はわかっているが他人との関わりに抵抗があり提案を受け入れない ・片付かない状況で転倒等のリスクがあることから環境整備の提案するも大丈夫と調整が進まない ・一人での入浴が楽しみで一人で入浴するが独居で転倒を繰り返している
地域課題 の発見	・身体機能に応じた過ごし方について専門職による評価を受けられていない状況。 ・顔見知りの民生委員や通い先の職員からの説明から導入につながっている。
提案に向けた 意見の集約	
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

f 複合的課題により世帯の生活に滞りが生じている

個別ケース 検討	・精神疾患のある50歳代長男と同居の認知症症状が出現し始めた80歳代女性について、今後の進行によって意思決定が困難な状況。 ・3世代世帯、長女と精神疾患のある孫と同居する90歳代男性の生活について、長女の症状への負担が大きく、家庭全体の生活に滞りが生じる状況。
地域課題 の発見	・団地内の交流が希薄で孤立しやすく身近な相談者がいない。 ・生活支援に係る支援者の情報共有の場が少ない。 ・複合的課題のある家庭が地域に埋もれていることから地域の見守り体制構築が必要。
提案に向けた 意見の集約	
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

令和4年度第4回つくば市地域ケア会議

(令和4年(2022年)12月15日開催)

つくば市地域ケア会議推進事業
(つくば市福祉部地域包括支援課)



地域ケア会議の機能整理表

規模	会議	目的	参加者	機能					
				個別課題 解 決	ネットワー ク 構 築	地域課題 発 見	地域づく り・資源開 発	政策形成	その他
市	つくば市 地域ケア会議	地域課題の整理、 課題優先順位決 定、方針検討・ 決定	保健・医療・福 祉・法律・学 者・市民団体・ 民間事業者・市 民	×	△	○	◎	◎	×
圏域 /個別	圏域別ケア会議	自立支援に資する ケアマネジメント 支援、フォーマ ル・インフォーマ ル等のニーズ抽出	市内の保健医療福 祉の関係機関・事 業所等	◎	◎	◎	×	×	×
個別	つくば市自立支 援型個別ケア会 議	①利用者のQOL の向上を目的に具 体的な取組等を検 討する ②利用者の自立支 援・重度化の観点 から、サービス内 容の是正を促す	医師、看護師、P T、OT、薬剤師、 管理栄養士、歯科 衛生士、主任介護 支援専門員等	◎	○	○	×	×	◎

○報告事項

地域ケア会議の今後の 方向性 等



1. つくば市地域ケア会議への地域課題提言の在り方

令和4年度第2回つくば市地域ケア会議において、令和3年度の圏域別ケア会議報告（参考資料_1）を行い、新たな視点での地域課題上位4項目があがりました。過去に提言した地域課題（参考資料_2）と同様な課題や新たな課題もあった。また、課題に対する支援等が実施されていても解決に至っていない課題もある。これらの課題について整理等を行う会議を検討。

この会議は、市担当者及び圏域別ケア会議開催主体の各地域包括支援センター職員により、よりタイムリーな地域課題等をつくば市地域ケア会議に提言するために開催することを検討。



2. 地域課題提言検討会議（仮称）のイメージ

つくば市地域ケア会議



地域課題提言！

地域課題提言検討会議（仮称）
※名称のアイディア募集します

未解決の
地域課題

地域課題

地域課題

地域課題

地域課題

集計課題

集計課題

集計課題

集計課題

集計課題

第1回ごみ問題タスクフォース【協議内容報告】

日時：令和4年11月28日（月）14時から16時

場所：ハイブリッド開催（ZOOM）

参加者：下村委員、水谷委員、白石委員

社会福祉協議会生活支援コーディネーター（筑波地区担当）：猪瀬

地域包括支援課：金山、佐藤、宮

1 前回の会議（10月20日）での協議事項

前回会議では、以下の課題について、グループワークをしました。

- 【課題1】ごみ出し支援体制を検討するうえで、参考となるモデル地区を選定しましょう。（GISマップを活用）
- 【課題2】ごみ出し支援の実態を把握するために、どんな情報を集める必要があるか、意見出しをしましょう。

その結果、下記の意見があがりました。

【課題1に対して】

3地区が選定されました。

研究学園、城山（荃崎地区）、小田（筑波地区）

【課題2に対して】

- ・地域住民、区長、民生委員、地域包括支援センター、活動しているケアマネジャーに対して、どのような問題があるのか調査する
- ・戸建て、集合住宅の差の確認などを行い、若い方の意識付けにつながる
- ・本人の生活の様子、介護サービスの利用状況、ゴミ出し支援に対して関心があるかを聞きくことで実態が把握できる

2 タスクフォースでの協議事項

上記を踏まえ、どのような方法でごみ出し支援問題の実態を把握していくか（対象者、質問事項等）について、別紙の表に沿って意見出しを行った。

別紙

目的 Why	選定された3地区の75歳以上の高齢者を対象に、健康・生活状況、ごみ出し困難な状況等の実態を把握する。
だれが Who	市とタスクフォースのメンバー
対象地域 対象者 Whom	【対象地域】 小田、城山、研究学園（四丁目、五丁目、六丁目） 【対象者】 ① 上記対象地域の<u>民生委員</u>（小田4人、城山2人、研究学園6人） ② 対象地域の民生委員から聞き取った<u>ごみ出し困難者</u> ③ ②の担当CMやヘルパー等の<u>支援者</u>
内容 What	- 健康状態、暮らしの状況、サービス状況、人間関係 - ごみ出しに対して支援を受けているか ① 現時点で受けている - 誰に支援してもらっているか (選択式：家族、近隣住民、CM、ヘルパーなど) CM選択した方には、CMに情報を聞いてもいいか - 誰に支援してもらいたいか - 支援を受けている理由 - 支援の内容 (選択式：区長へのアンケートを参照) ② 現時点では困難ではない - 困難者になったらどのような支援があるといいか - どうにかなっている方、ごみ出しについて支援を受けるとしたらどう？ (選択式：ごみ出し支援制度を利用したい、ヘルパーなどに依頼したい、近所の見知った方に依頼したいなど) - 他者のごみ出しに対する抵抗感はあるか。 - ごみ出しが困難な状況に対して、どんな体制があるといいのか - どの方にならごみ出しを依頼できるのか - 今の支援方法で満足しているか - フレイルチェックリスト

	・ 集積所までの距離 ・ 生活状況、周囲との関係、困難な理由 ・ その後の対応
時期 When	今年度中にできれば
場所 Where	上記の 3 地域
どうやって How	① 3 地区の民生委員にアンケート調査を行う。(対象者の洗い出し) 現在の困難者の洗い出し、将来的な困難者も含めるかは今後検討が必要 ② タスクフォース等が民生委員宅を訪問し、対象者についてのアンケートに回答してもらう。また、民生委員から対象者に同意書を得て、日程を伝えてもらう依頼をする。 ③ タスクフォース等が民生委員とともに、対象者宅に同行訪問し、ヒアリングを行う。(直接地域を見る) ④ 対象者の同意を得て、支援者(ケアマネジャーやヘルパー等)からヒアリングを行う。 ※家庭訪問は、市職員とタスクフォースのメンバーが 2 名体制で行う。
向かっていくべき方向	① 実態把握 → ごみ出し困難者の実態についてまとめることが成果物 ② ①から、課題やニーズの発掘を検討する。(住民主体助け合い) ③ すでに支援体制が構築されている地区を参考に、地域で体制構築するためのフロー図を検討(住民主体助け合い) ④ 個別収集の可能性について検討(行政への政策提言)

第1回移動支援タスクフォース 【協議内容報告】

日時：令和4年11月28日（月）9時30分～10時30分

参加者：但野委員、佐藤委員、小林委員、鬼久保センター長
地域包括支援課 松尾、金山、宮

1 前回の会議（10月20日）での協議事項

前回会議では、以下の2つの課題について、グループワークをしました。

- 【課題1】現在活動している団体の課題である、協力者の高齢化、人材確保の困難について、具体的な取り組みについて意見出ししましょう
- 【課題2】新規の立ち上げを支援するために好事例が横展開していくよう、またアドバイス体制が構築されるような、具体的取組について意見出ししましょう

その結果、下記の意見が挙がりました。

- ・講演会の実施

移動支援についての課題や困っている状況、移動支援を行っている8つの団体が市内で活動していることのPR等を含め、講演会を行う。

参加者の中で移動支援に協力したい方がいた場合、事例を紹介し、意見交換する場とする。

- ・その他の移動支援の形態

介護サービス車両関係（介護施設関係）、つくタク利用（医療関係、関係部局）、移動販売（関係委員など）、新しい支援や手段を検討する

2 タスクフォースでの協議事項

上記を踏まえ、「高齢者の移動支援セミナー（仮）」の開催に向け、具体的な内容（目的、規模、対象、内容、時期等）について協議をする。

別紙の検討事項に沿って、意見出しを行った。

別紙：移動支援タスクフォースでの検討事項

講演会タイトル	高齢者の移動支援セミナー（仮）
開催目的（Why）	・ 高齢者の移動支援について考えるきっかけづくり ・ 市内の移動支援の状況を周知する ・ 移動支援をやりたい方が参加でき、また新たな移動支援団体が発足するきっかけづくり ・ 移動支援関係者や希望者の横のつながりづくり
主催（Who）	地域包括支援課及び会議委員
対象者（Whom）	・ 移動支援に興味のある市民（区長、民生委員、ふれあい相談員、地域活動団体等に対してアナウンス）、ケアマネジャー等地域での支援者 ・ 移動支援の活動する8団体 ・ 各セミナーの規模を<u>要検討</u>（100人以上の規模か、数十人で顔の見える関係くらいにするか）
内容（What）	内容例： <u>第1回目</u> 目的：地域の移動支援に関する現状を市民と共有 内容：地域での移動支援の実情について（行政からの説明含む） NPO 法人全国移動サービスネットワーク等からの講演 <u>第2回目</u> 目的：地域での移動支援に関する課題や現状、情報を吸い上げる 内容：各圏域の会議等で、移動支援に対する地域住民の「生の声」を吸い上げを行う <u>第3回目</u> 目的：前回の会議を踏まえ、移動支援を実際にどのようにしていくか共有 内容：支援している側の報告 （例：友の会たすけあい、桜NT 高齢者等送迎システム「さくら」等） 地域で課題を持っている側の報告
日時（When）	令和5年度中
場所（Where）	例：市役所内会議室、市民ホールなど
どうやって（How）	他市での内容を参照 ・ 地域でつくる！高齢者の外出支援セミナーin 松戸 ・ 地域でつくる！高齢者の外出支援セミナーin 日田 ・ 令和4年度移動支援セミナー（四国厚生支局）

	・ 伊東市 高齢者移動支援セミナー （４回講座 全国移動サービスネットワークが講師） ①市町の高齢化の現状、移動サービスの現状、道路運送法等の制度 ②先進事例紹介、担い手を集める方法 ③各種保険制度、運営にあたっての留意事項、移動サービス創出のプロセス ④移動サービス実証実験の実施に向けて
--	---

移動タスクフォースで出た主な意見（R4.11.28）

開催目的について	・セミナー参加者は、ドライバーとしてやりたい方、主体としてやりたい方がいると思うので、主体としてやってもらえる方を増やすことが大事であり、モチベーションを上げられれば更に良いと思う。 ・地域の実状を知るのと、そのうえでどうしていくかの二段階が必要かと思う。 ・対象者に地域で生活している方を入れることや、ほかの地域に広げて閉じこもり防止や、仕事が無い方がドライバーをきっかけにする事例を他で聞いたことがある。 ・つくば市の考え（行政の考え）の説明が必要だと思う。その後に全国支援ネットワークからの話があり、市民の必要としている言葉や、支援したい側の意見を２回目等にし、開催は複数回にしてフォローアップにもつなげる。 ・財源として総合事業に絡めるとか、行政側からの支援の状況も言ったほうが、モチベーションが上がると思う。
開催時期について	・区長、民生委員が 12 月及び来年 4 月が変わると聞いているので、令和 5 年度度実施したほうがいい。
対象者について	・移動支援をやりたい、やってみたいが分からない方に参加していただきたい ・ケアマネジャーにも参加してもらいたい。
地域でのニーズについて	・地域ごとにどのくらいの方が移動支援を望んでいるのか、具体的に『こういったことで困っていて、こんなことをして欲しい』という生の声も必要ではないか。 ・住民自身がどうしたいかを考える機会があることが必要だと思うので、２層圏域の話し合いや情報の吸い上げをする。地域で課題も地域の事情も変わるので、アンケートではなく、生の声の方がよいと思う。
総合事業とのかかわりについて	・人員や財源の確保の参考事例として総合事業や他市の話ができると思う。 ・総合事業に関して、既存の団体に許可をするのであれば、既存の団体と話をすることも必要ではないか。
その他の移動形態	・少人数であれば乗り合いでタクシーなどの案を提示するのも必要だと思う。 ・介護車両での買い物であれば例えばイオンやイーアスやカスミさんに協力をお願いすれば多少はできるとは思う。 ・地区の方が周辺の方に声をかけて一緒に外出する移動支援の一つではあると思う。必要としている方の声と若い方でも月に 1、2 回なら協力できるという支援側の声が拾えると良い。 ・ドライバー側には事故の不安もあり、保険等で安心させてあげられるようにすればより協力してもらえる。

グループワークについて

1 グループワークの意義

- (1) 20 人の参加者が、限られた時間内に協議し、ある程度の合意形成や結論付けをしていくためには、小グループでの検討が効率的である。
- (2) 意見の集約がしやすくなり、会議の論点がまとめやすくなる。

2 グループ構成について

- (1) 5 人×4 グループを作り、司会、書記、発表者を決めてください。
4 グループのうち、「ごみ問題」について取り組むグループと、「移動支援」について取り組むグループを事前に分けさせていただいております。
- (2) 生活支援コーディネーター7名と、委託地域包括支援センター職員6名は、各グループのオブザーバーとして参加します。
- (3) 委託地域包括支援センター職員の1名が、ファシリテーターとなり、進行の補助をします。

3 グループワークの進め方について

- (1) グループワークのルールについて、最初に確認をしてください。
(4 グループワークのルール 参照)
- (2) 司会者を中心として、シートをもとに話し合いを進めてください。委託地域包括支援センター職員が、進行の補助をします。
- (3) グループワーク終了後、各グループの発表者は、3分程度で検討内容を発表し、他者から意見をもらいます。

4 グループワークのルール

- (1) 参加者を否定するような発言をしない
- (2) お互いの自主性を尊重する
- (3) 全員が発言する
- (4) 全員で協力して進める
- (5) 意見が変わった場合、意見を変えてもよい

(日本能率協会総合研究所資料より抜粋)

ゴミ出し支援タスクフォースで出た主な意見（R4.11.28）

調査についての意見	・訪問するなら最低限地元の民生委員が同行することが必要だと思う。また対象者もDSや医者や買い物や外出していることも考えられるので、民生委員を通してでも訪問の日時を伝えた方が良い。でなければ訪問は難しい。 ・もし民生委員に情報を聞いたら、先に市役所からこの情報（個人情報）は伝えてもよいと民生委員に伝えた方が良い。 ・民生委員から意見、情報をもらったら、次にご本人に了解を得ることが必要。 ・調査のやり方はいろいろあるが、訪問は直接地域を見ることができるメリットがある。 ・身体状況や家から収集所までの距離などは民生委員から、誰かにゴミを出してもらうことに抵抗が無いかなどは本人に聞くように分けておくとうい。 ・対象者が初対面の人に本心と言うかどうか疑問。支援が欲しいと聞かれれば欲しいけど…？のように身構えられると思っている。そのため、顔なじみの民生委員の同行は必要だと思う。民生委員がすべての住民と打ち解けているかというところとも限らないが、同じ地域に住んでいる方ではあるので、フォローはしていただけたらと思う。 ・対象者の実態調査の段階でリハ協に協力してもらうことはできるか。 ・上げていただいた対象者にCMが居たら、そちらからも情報を得られれば。
対象者	・現状把握は必要だと思うが、全部を把握するのは難しいと思う。ゴミ出し困難者から何名かを訪問程度で良いのでは。すでに支援を受けている方に聞き取る実態調査ではどうか。
対象地域	・二段階調査を提案し、SCからも地域を選出させてもらった。実態を知るためにどうしたらよいかということで、地域包括で年齢等のデータを参考に対象の5地区を候補とした。
方法	・まずは民生委員にアンケート、民生委員が困難者だと思う方へのアンケート（紙ではなく簡単な聞き取り）。サービスを受けているか、ゴミ出しは困難かくらいは民生委員にお願いしても良いのでは。そのあとに訪問で現地を見るといような流れはどうか。TFとしては実態調査をしてその中で現地調査が1件、2件やれたら。
その他	・福祉活動に個人情報の壁があるので、民生委員が情報を集めても大丈夫だという確認が必要。 ・訪問調査ということでTFの人数も限られているため、筑波大の学生さんに協力いただけないかと確認したところ、できるだけとのことだった。 ・11月末に民生委員が改選されるので、変わったところは情報の提供が難しいかも。筑波の対象地区で変わらないのは小田東部と北太田、下大島の3地区。 ・民生委員と訪問の日時をすり合わせがうまくいかない可能性があると思っていて、それなら定期的に訪問している民生委員に少し質問を託して聞いてもらうということは出来ないのか。 →現地を見ることで知れることはあるのでできれば訪問はしたい。ただ強制、絶対ではないのでそれは検討する。訪問することで地域との関係が拗れてしまうことのないように。

圏 域	地域課題
大穂圏域	・シルバークラブやふれあいサロン等の地域団体が減少傾向である。 ・働いている高齢者が多く、担い手探しが困難になってしまっている。 ・大穂圏域内でも、ゴミ捨て支援や買い物支援が必要であると感じている地域がある一方、そういった支援が必要ないと感じている地域もあり、地域差がある。 ・コロナ禍により地区の集会も行えておらず、新住民の区会未加入も多いため、地域間の関わりがなくなってしまう
豊里圏域	・将来的を見据えての地域でのゴミ出し支援システムの構築と外出することが難しい高齢者に対しての移動支援の立ち上げが必要であるとの意見 ・地域の助け合い活動、サロン等の新規立ち上げについてはリーダーになる担い手不足が課題 ・シルバークラブ会員数が減少気味ではあるが、増員するためにも活動の魅力を発信すること必要 ・昔からの地域内での組合組織・縁者や近親者が多い地域であるのですでにつながりはできている ・若い世代の居住が増えてきているので、地域との交流を含めた世代間交流に取り組むことが必要
谷田部西圏域	・昔からの地域・30年前につくられた団地・みどりののようなTX沿線沿いの地域では、地域で抱える課題は様々で、地域の状況に合わせて支援をしていくことが必要 ・TX沿線は、若い世代が増加しており、若い人たちに地域活動に関心を持ち、活動に参加していただくことが課題 ・昔からある地域は、高齢者が増加しているが、元気な高齢者も多いため元気な高齢者を地域活動に巻き込んでいくことが課題。 ・活動拠点がない。（特にTX沿線）
谷田部東圏域	・古くからある地域や、学園都市形成以降に発展した地域、TX開通後に発展した地域が圏域内に混在しており、それぞれ異なった地域状況、課題がある。それぞれの地域特性を捉えたうえで支援を進める必要がある。 ・地域で支えあいの仕組みを作るうえで基盤となりうる、区会の機能が弱い地域が多い。（区会自体がない、役員が輪番制で数年で交代してしまうなど） ・若い世代が増加しており、自分が住む地域に関心の高い世帯も多い。そういった世代をどう地域活動に巻き込んでいくかが課題。

圏 域	地域課題
桜圏域	・つくば駅周辺の中心部と農村地帯の周辺部と地域差があることが圏域の特徴としてあるため、桜圏域を一律に進めていくのは難しい。 ・桜川の氾濫によって水害のあった地域では防災への意識が高い人もいるが、防災に向けた取り組みはコロナ禍ということもあり、積極的に行われていないことが現状としてある。 ・土地開発が行われたり、マンションが増えたりと若い世代が増えてきているが、自治会に入らなかったり、コロナ禍で交流を控えていたり、関わりを持つことができていないという意見が多い。
筑波圏域	・筑波圏域は人口が著しく減少し、高齢化率が3割越えの地域である。農業従事者も多く、昔からの付き合いや助け合い等が残る地域である。また、村親戚も多い。そのためか、サービスとしての見守り等が普及しづらい状況がある。 ・通いの場や買い物等への移動手段の問題の意見があがることが多い。 ・地域の通いの場（ふれあいサロン）は、歴史あるサロンが多く、新規加入がしづらい状況があるのではないかといった意見があった。また、男性の参加者がほとんどいない。 ・区会加入者が減少傾向、区会に入らない（抜ける）世帯も出てきている。コロナで区会行事も無くなっている。 ・生活支援を行うことに対しての不安も聞かれた。いつまで続けなければいけないのか。 ・地域の担い手不足の問題もあるとの声も多かった。 ・ゴミ出し困難の話も専門職から相談を受けることがあった。
茎崎圏域	・約40年前にできた団地が高齢化を迎えており、独居高齢者や高齢者世帯を中心に生活に課題を抱える世帯が増えてきている。 ・若い世代にも地域活動に参加して頂けるような取り組みが必要。高齢者が多い地域のため、年齢層的に若い世代は少ないが、今後担い手となる人材のつながりも考えていく必要がある。 ・団地と地元の地域とでは、世帯構成や地域とのつながり方も違うため、それぞれの課題を把握し、地域に応じた取り組みを検討していくことが必要。

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称		令和 4 年度第 5 回つくば市地域ケア会議 第 5 回つくば市生活支援体制整備推進会議		
開催日時		令和 5 年 3 月 3 日（金） 開会 午前 10 時 00 分 閉会 午後 12 時 00 分		
開催場所		つくば市役所 会議室 203		
事務局（担当課）		福祉部地域包括支援課		
出席者	委 員	下村哲志、山中克夫、飯田哲雄、北島正義、石塚一夫、小林路江、今高哲夫、大橋功、佐藤文信、但野恭一、椎名清代、水谷浩子、前田亮一、白石通（オンラインでの出席）成島 浄、海老原良之、佐々木湧人		
	その他	つくば市社会福祉協議会 2 層 SC 小倉（大穂）、倉持（豊里）、荻生（谷東）、小川（桜）、猪瀬（筑波）、益子（荃崎） 筑波地域包括支援センター 戸塚保健師 大穂豊里地域包括支援センター 井ノ口センター長 谷田部西地域包括支援センター 平林センター長 桜地域包括支援センター 寺田センター長 荃崎地域包括支援センター 大塚センター長		
	事務局	地域包括支援課：会田課長、飯島課長補佐、松尾社会福祉士、佐藤保健師、金山主任 CM、宮主事 高齢福祉課：石川係長、川上主事		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議 題		ア報告事項 令和 4 年度の会議のまとめ及び次年度の会議予定 イ報告事項		

様式第 1 号

	(1) ごみ出し支援 ア:ごみ出し支援タスクフォースからの進捗報告及び見えてきた課題 イ:課題に対する意見交換(20分) (2) 移動支援 ア:移動支援タスクフォースからの進捗報告及び見えてきた課題 イ:課題に対する意見交換 ウ協議及びまとめ (1)と(2)から導き出された今後の方向性 エ事務連絡 次回会議に向けて オまとめ (1) 今回の会議のまとめ (2) 次回会議までに行うことの確認
--	--

<審議内容>

1 開会

課 長:定刻になりましたので、只今より「令和4年度 第5回つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議」を開会いたします。

私、本日の進行を務めますつくば市地域包括支援課の会田と申します。よろしく願いいたします。

また今回も、複数の委員の方がZ o o mによる参加となっております。それぞれの画面の所に名前が出ていると思いますので、ご確認ください。

なお会議録作成のため録画をさせていただいておりますので、ご了承い

様式第 1 号

ただきたいと思います。

では、議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

資料 2 につきましては修正がありますので、当日資料を配布しております。

資料につきまして、過不足等ございませんでしょうか。

それでは開催要項第 5 条第 1 項、第 6 条第 2 項の規定によりまして、議事進行を、山中委員長の方をお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：はい。よろしくお願いいたします。

オンラインで参加の皆様、聞こえてますでしょうか。

それでは、議事次第に基づきまして、最初に報告事項、今年度で今日会議が最後ですので、令和 4 年度の会議のまとめについて、一層コーディネーターの皆さんよろしくお願いいたします。

事務局：資料 1 をもとに説明

委員長：ありがとうございました。

今年度の振り返りをさせていただいたんですけれども、委員の皆さんから、何かここで確認しておきたいこと等ありましたら、お願いいたします。

1 点、私と但野副委員長とで確認させていただこうということになったんですが、タスクフォースっていうのは分科会ではないんですね。課題があつてそれを検討するグループなので、課題が達成されれば一旦そこで解散ということになります。

例えばゴミ出しのタスクフォースであれば、ゴミ出し支援の実態調査を今していただいているんですが、それが終われば、一旦そこで解散し、その役

をずっと負担をかけるっていうことではないです。

同じように移動支援の方も今、移動支援のセミナーの準備ということでやっていただく。これが課題になります。

そのように理解していただけたら良いかなと思っています。

ですので、来年度の予定、一応タスクフォースのところがありますが、これは必要に応じてということになっていくと思います。

大事なことはですね、タスクフォースでいろいろわかってきた事や考えたこと、準備されたことなどについて、この委員会で全体で討議して決定するのはこの委員会だということが大事なところです。

よろしくお願いいたします。

それでは無いようでしたら次のイの共有事項及び協議事項に移らせていただきたいと思います。

最初のごみ出し支援のタスクフォースに関する事柄ですけれども、今までグループに分かれてグループワークをしていただいて、それはすごくよかったと思います。

ですが時間的に、そのあとグループで話し合ったことの報告での時間が大半になってしまいました。先ほどお話したみんなで協議して、何かを決定するっていう時間がちょっとなかなか取れなかったものですから、今日はそうした協議の時間に、大半を割いていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それではまずごみ出し支援のタスクフォースの経過について、事務局、下村委員お願いいたします。

事務局

下村委員： 資料 2 をもとに説明

様式第1号

委員長：ありがとうございました。資料も見てくださいながら、今までの発表に対して委員の皆さん方で、質問或いは今後こうしてつたらいんじゃないとか、そういったようなことについて、広く意見を言っていただければと思いますので、どうぞ遠慮なくお願いいたします。

それではですね、ご専門とかいろいろですね支援が必要な方とか、ニーズのある方なんかに対して仕事をされてらっしゃる委員の方も多いので、私の方からお願いしていいでしょうか。

今高井委員いかがでしょうか。介護の仕事のお仕事とかですねいろいろされてらっしゃると思うんですが。

今高委員：つくば市特養連絡会の会長もやっています今高と申します。

今現在私は居宅、外ですね、在宅のケアの部分に関しましては、デイサービスとショートステイの方をよく見させていただく機会があるんですけど。要支援というような判定の方であれば、身体的には、やろうと思えばきっとできるのかなっていうようなレベルではないかなと思っています。

ただ、いつもできるかって言うと難しそうだし、この判定っていうのが、ずっと続いているというわけでもないんで、やっぱり誰か目が入っていないと難しいのかなというふうには思います。

ごみ問題でのボランティア精神というようなものって、我々の仕事のところで、できなくなった人ができなくなった人の役割で、そういったところの周りの人を育むというようなこともあるので、何でもお金出してやりますよというような形になると。甘えるっていうのができなくなることがあるので、でも両方の面で制度がないと本当に立ち行かない地域とかっていうのは発生するとは思いますが。

他の市町村でも、ふれあい回収とか、そういうような言葉の中でですね無

償で聞き取り調査に行った後、身体状況とかを確認して、このお宅には個別に訪問しますよとかっていう制度とかあると思うんですけど。

そちらもありながら、やっぱり今の形を継続していくっていうのが、大事なんじゃないかなっていうふうに思います。

委員長：ありがとうございます。

今副委員長の方から確認したいことがあるそうです。

副委員長：アンケート調査をやって、そこでこの辺の人たちが困ってるんじゃないか、或いは、ごみ出し支援を必要としてるんじゃないかって。

ヒアリングが4名いらっしゃるわけですけど。

この4名がセレクトされてきた経過を知りたいのと、あと実際、民生委員さんとしては、この4人なりが困ってるだろうというふうに判断したんだけど実際聞いてみたら、1人で何とかやれてるので、今すぐにごみ出し支援を必要としてるということではなかったというそういう調査結果だったんですかね。

そこをちょっと説明欲しいなと思いました。

下村委員：まずこの4名に至った経緯っていうのは、まずは、その地域にごみ出しを困難とされてる方っていますかっていうところから入ります。

それで、その方の詳細を教えてくださいっていうふうなところの次に、個別的な状況を確認させていただいた上で、さらにこの現地調査に行く際には、実際に困ってらっしゃる方でお話をお伺いできる方っていないかっていうふうなところで、そのお話を聞ける方に対して実際に行って、聞きました。実際に今回、現地調査でお話をされていた方、今おっしゃってくださったように、その方々は困ってらっしゃらなかったんですけど、

実際には困ってらっしゃる方のところに行けてないのが現状なんですよ
ね。

必ずしも今、この結果から、結果的には、ごみ出し困難者ってのはいなかったんだねっていうところではなく、そこまでの実態調査までは至らなかったってのが現状にあります。よろしいでしょうか。

委員長：はい。ありがとうございました。

その他いかがでしょうか。

飯田委員：飯田です。

今年ちょっと体調崩しまして参加できてなくてですね、皆さんに大変ご迷惑をおかけしたこと、まずお詫びしたいと思います。いろいろご調査ありがとうございました。

生活者の目線でちょっと発言させていただきますけれども、どうしてもやっぱり我々健常者目線でですね物事を見てしまうのかなと。

自分もちょっとこう病氣したというようなこともありますけれどもやはり要支援者の目線で物を見なくては、解決に近づけないのかなと今の発表聞いて感じました。

そんな中でですね補助具の導入とか、こういったこと行政の方でまた用意していただくような形になってくるのかなとは思いますが。

こういった道具に対する取り組みというものが本当に大切になるのかなと。

これがだから個人で使うのかそれとも地域で使うのかとかまたそういう管理の問題とかも出てくるかとは思いますが、予算の絡みとかもあると思いますし、どの辺までだったら用意できるのかとかっていう難しい問題も出てくるかと思うんです。

こういったことに対しての取り組み、ただ気持ちの上だけで手伝いすればいいとか持っていればいいのかそういうことじゃなくて具体的に解決に近づく一つの大切な方法になるのかなというふうにお聞きしておりました。

それから抽象的になりますけども、やはり隣近所で助け合うという、そういうもう一度、失われた人間関係ということを再構築していくことも必要になってくるのかなというふうに思います。

これはごみ出しだけではなくて防犯とか防災とかもですね、そういった面でもすごく大切なことになってくるのかなと。

一方ではプライベートとかプライバシーとかっていうようなそういう個人に属するような意識がすごく高まっているかとは思いますが。

今本当に異常な社会で、SNS とかですね、自分だけの世界で生きるというような、そういう人間がますます増設されてるのかなというふうに思います。

機械文明の一方の負の面だと思いますけれども、そういった面ですけれどもそういう人と人の繋がりというものをどういうふうに、もう一度再構築するのかというようなそういう啓蒙活動、取り組み、そういったものも大切になるのかなというふうに感じました。

本当に協力できなかったんですけど、深いところまでちょっと認識できなくて申し訳ないんですが、その辺のところ、感じた次第です。

ありがとうございます。

委員長は：ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

前田委員：市民委員で作業療法士の前田と申します。

ちょっと質問なんですけれども、今回のごみ出しに関しては実際に困

ってらっしゃる方がいて、おそらくサービスの提案を行って解決していくってところが、一つポイントになるのかなと思っています。一つ今回サンプルを取ったというところで、もともと地域差がおそらく一つ課題になるだろうと言われていたと思うんですけども、この地域差をちょっとどのように考えてらっしゃるかっていうところが一つ。

あともう一つのこの会議の目的としては、おそらく 2 層ですとか、地域ケア会議の中で実際もう困ってらっしゃる方はいらっしゃって、その方たちがどのくらいいて、今回の提案することでどのくらい解決していくのか、何かその辺の目安となるようなところがあればちょっと教えていただきたいと思います。

3 点目は、今回民生委員さんにお聞きをしたというところだと思うんですけども、やはりこの IADL とか、ADL が低下している方はおそらく介護保険使ってらっしゃる方で結構ケアマネジャーさんも、関わることが多いのかなと思っているんですけどもケアマネジャーさんとか介護保険事業所の方との連携等で考えていることがあれば教えていただきたいと思います。

委員長：それでは何か感じたことでも結構ですのでお願いいたします。

下村医院：ご指摘ありがとうございます。

まずやっぱり、すべて今回も地域を限定したっていうところなので、つくば市全体の問題提起にはならないのは重々承知しております。

今までは何をしようかっていうところが全く漠然としていなかったところで、おそらく考えられていたのは個別回収っていうのをやったらいいんじゃないかっていうのが他の地域からえられていた課題だったと思います。ただそれだけではなくて、先ほど申し上げたように補助具のご提供

ですとか、例えば訪問リハビリを導入するっていう一つのご提案にもなるでしょうし、あと先ほど申し上げた中でも挙げたように、環境面っていうところを変えるだけで、今まで大変言っていた方の変えの軽減、要は継続性っていうところにも繋がるんじゃないか。っていうところなんです。先ほどのご発言にもあったと思うんですが、できなくなったからそこにただ単に手を出すだけではなくて、継続的にできる方法を今回考えてもいいんじゃないか、それはおそらく今回の現地調査を行った地域だけではなくて、他にも十分活用できるんじゃないかなというふうな一つの答えに至った部分になります。

実際に今回民生委員さんを通して、実際に現地調査にも立ち会っていただいたんですけど、そこにはケアマネジャーさんに立ち合いしていただいてません。ただそこで、実際どんなサービスを使っているかの情報もいただきましたし、こちらが十分取りきれてない情報に関しては、再度、ご本人のご承諾をいただいた上で、ケアマネジャーさんともちょっと情報交換させてくださいねっていうところまでは至っております。

ただそれが実際のサービスまで繋がられてるかっていうところちょっと時間的にもなかったもので、実際にはできてない部分ではあります。

実際に私お伺いした時に、普段、座ってらっしゃる椅子が非常に低くて、いやそれは大変だよねというふうなところがありました。多分これだけでも、ゴミ出しそのものではなく、日常生活も少し楽になるんじゃないでしょうかっていうふうなご提案にも至った部分ありましたので、そういった情報が、本当、また今後のサービス導入とかにも繋がるばいいかなというふうには思います。

現地調査をすることによって、ゴミ出し以外のところでの生活支援というところにもつながられる可能性っていうのが見えてきたのが現状です。お答えになってますでしょうか。

委員長：すいませんありがとうございました。

先ほどの、今まで見えなかった視点っていうのが集積場の環境面、例えば段差があるとか、押戸になっていてそれは引き戸の方が良いとか、そういったようなことについて、何とか今のところやっていますっていうのが分かってきただけでも。皆さん各自治会の方が年をとってきますから、みんながこう使えるようにしてかなきゃいけませんよっていうような、そんな提案で、地域を変えていく、準備をしていくってことも出来るんじゃないかっていうお話ですよ。後で、市民委員の方に伺いたいんですけども、介護保険とかの絡みで、例えばゴミ出しとかそういうホームヘルプとか、そういったようなことが使えるかとか、今のところは使っていないようだったんですけどその辺の可能性もちょっと含めて委員の皆さんに、今日、ケアマネの協会の海老原委員いらっしゃいますので、教えていただけますか。

海老原委員：はい。

リモートで参加させていただいております、つくば市ケアマネジャー連絡会の海老原と申します。よろしくお願いいたします。

私の利用者さんでいたんですけれど、一番は分別ルールっていうところところが一つ壁になるかなと考えるところもあります。つくば市の中でも分別のルールがいろいろ地域によって違うところもあるので、そこが壁になるっていうところもありますし、あとは個別での回収というところはあると助かるなとは思っています。

先ほどアンケートの結果の方にもあったんですが、今後は善意だけでは対応できないというところがありまして、一応私たちケアマネジャーとしても、その方の支援のコーディネートをする際に、ゴミ出しが必要であ

れば、訪問介護、ホームヘルパーさんの方を導入して、ごみ出し支援をさせていただくんですけれども、その中で一つ大きな壁がありまして、やはり地域の中で前日からごみ出しをしても良い地区もあれば、当日の、例えば朝 5 時とか 6 時以降じゃないとごみ出しができない、ごみを集積所に入れてはいけないという地域もあって、朝 5 時から 8 時半までとか 9 時までの間って限定されてしまうと、ヘルパーさんを導入してもヘルパーさんの対応では、難しいっていう現実問題があります。

現実的に早急に今ある支援整備の中で、できることとしては、前日からごみ出し、ゴミの集積所にゴミを持っていくことを、ヘルパーさんを信じてもらうというか理解してもらって、前日からのごみ出しの方を許可していただけると、ヘルパーさんを利用してごみ出しの支援ができるんじゃないかなと考えます。以上です。

委員長：ご意見ありがとうございます。

そうしますと、ホームヘルプのサービスではゴミをまとめたり、お掃除したりとか後もゴミをまとめて、玄関とかまで置いたりっていうのは大丈夫っていうことなんですかね。

ゴミの集積所まで持っていくことも出来るけど、ルールっていうのが、少し緩和はしてもらったりとか、何かこう工夫をしていくと、随分違うってことですよね。そこは地域の中での話し合いで。

海老原委員：地域によって、前日からごみを出してもいい地域と、当日の早朝から集積車が来るまでの時間じゃないとごみを出してはいけないという地域がありまして、時間を限定されるとヘルパーさんを導入するのが難しい。そういう地域の方は、中にはヘルパーさんの事業所で善意でゴミを預かって、持ち帰るっていう、そういうすごい良心的なヘルパーさんという

様式第 1 号

か、事業所もあるので、そういうところには本当に申し訳ないなと思っています。前の日の夕方とか、午後からごみを出すっていうのを許可していただければ、ヘルパーさんを利用してのごみの回収というところの可能性も広がるんじゃないかなというふうに考えます。

委員長：地域密着型サービスとかで、巡回とかってありますけど、そういうのはゴミ出しは対象にならないんですかね。

下村委員：訪問ヘルパーのサービスで、おそらく生活支援っていう枠組みでサービスができるかなとは思いますが。

限度額内であれば、週 1 回とか、であれば、要支援 1 でも枠内に収まると思うんですが、そこは本当に必要性に応じてっていう形になります。

委員長：1 回とかだとやっぱりこうゴミ出して週に何回かあるので、ちょっと難しいということになるわけですね。

下村委員：そうですね。1 回か 2 回ぐらいは多分限度額内には収まるかなと思うんですが。

委員長：詳しく教えていただきましてありがとうございました。やっぱり介護保険は個人の契約のことなので、個人である意味コントロールしてやれる範囲の話にはなると思うんですね。

あとそれともう一つ、地域でそういうゴミ出しが難しい場合とか、環境面とあとルールとか、そういったようなことについての話し合いとかをしていくっていう二つ、今日ちょっと整理できたんじゃないかなって現地

様式第 1 号

調査をしていただいてですね、思ったんですが、その他の医療とか、身体面とかそういったこと全般について成島委員いらっしゃいますでしょうか。

成島委員：はい成島です。

先ほどから話聞かせていただいて、問題でも出てますように結局、ゴミを出すということに対しては、いわゆる身体的な問題があります。

あとそれから、やはり認知機能低下があって、いわゆるそういう機能的な問題が二つあると思うんですね。

それによって当然介入の仕方が変わってくると思うんですけど、先ほど、ケアマネジャーの代表で海老原さんのからお話が出ましたように、結局身体的な問題であればある程度、そういうヘルパーさんが入ることによって可能ですし、認知機能が落ちてる場合だとこれはまた別のアプローチも当然考えなくちゃならないだろうと思うんですね。

あと、介護認定を受けるわけですけど、その場合当然その中でサービスの優先順位があって例えばその人が、生活を維持するために必要な部分でそのゴミ出しをどこに位置するかっていうのも当然考えなきゃならないんで、すべてにゴミ出しに、介護認定の税、与えられた時間をおそらく費やすわけにいかないだろうと思うんですね。

ごみ出しができない方ってのは他にも、おそらく生活面でいっぱい問題あるはずなので、その時に優先順位が出てきちゃうので、インフォーマルのサービスを導入してかないと。現時点で介護審査委員の方でも関わってますと、若干介護認定でも少しずつ厳しくなってきていると。同じような身体的な問題認知機能の問題あっても介護認定が低く出るようになってまして。そうしますとやはり優先順位があるので、地域としてはごみ出して非常に重要な問題だと思うんですけど、その人が、生きていくって

いう部分に関していくとまたちょっと話が違ってきちゃうので、医学的な面から言うと、まずはその人の生命を維持しなくちゃならないんで、そのあたりは考慮していただきたいなと思います。

委員長：貴重なご意見ありがとうございました。大分整理されてきて、そういうサービスを使っていく介護とか、地域のルールとか、環境を変えていくってことがさらにもう一つ足りないところについて、インフォームなサービスどうしていくかっていう、分けてこう考えた方がいいっていうようなことが今日わかったんじゃないかなと思います。

これまたちょっとですね継続的に審議して、それで体制とか後、各自治体にどういうふうに考えていったらいいかっていうような提案につなげていければいいなというふうに思ってます。

大変申し訳ないんですが時間が押してきましたので、次の報告と協議に移らせていただきたいと思います。

次は移動支援のタスクフォースの結果、それからその話し合いに移っていきたいと思います。

佐藤委員よろしくお願いします。

佐藤委員：資料 3 をもとに説明

事務局：補足をさせていただきます。

佐藤委員からお話があった通り、大きくは一つ 7 月 29 日に開催するセミナーをどうするかという協議、それから実態調査についてというところで大きく二つの話をしているようなところになります。

一つ補足としては資料の中に高齢者施策との連携というところがあります。今スライド表示されているんですけども、7 月 29 日にこの高齢者

移動セミナーというのを開催し、そこで移動支援の課題を考え、新たな担い手が生まれるきっかけづくりで開催しようとしています。

そして、続けて 9 月の下旬なんですけれども、今度は高齢福祉課主催で、福祉有償運送運転者講習会をつくば市で初めて開催するという事で、こちらにご参加していただいて移動支援に取り組んでいく担い手を養成という目的で開きます。

このようなちょっとその開催に至ったようなところをお話をいただければと思います。

高齢福祉課：これ高齢福祉課の石川と申します。

今回高齢者の移送支援セミナーを実施していただくという動きで準備していただいていると思いますが、それと合わせましてこのセミナー自体を効果的なものにするために、高齢福祉課としても出来ることはないかというところで福祉有償運転者講習会を実施するという事なんですが、この福祉有償運送運転者講習会を受講する必要性っていうのは、佐藤委員の方でやってらっしゃる福祉有償運送という事業をやっていただく方の運転手さんがこれをこの講習を受けないといけないというものです。但野さんがやってらっしゃるようなボランティア輸送事業に関しては必須のものではないんですが、実際利用者さんを乗せて、それをプロのドライバーではない方が運転するってなった時に、こういった講習を受けた方がこういうサービスをしているという形をとることで、利用する方も安心ですし運転する方もそういう講習を受けた上で人を乗せるっていう流れができるんじゃないかというところです。セミナーが 7 月に開催されますので、そこで当然、関心のある方やってみようという方がいらっしゃると思うので、それとあわせて、市の方で講習会を主催しまして、この講習会自体は市内ではやっていなくてですね、遠方まで行かないといけ

なかったり、講習費用が数万円かかってしまったりだとか、そういった負担があるんですが、そういった費用も含めて、市の方で講習会を開催することによって、やってみたいという方が企業負担なく、挑戦できるような応援をしていきたいというふうに考えております。

補足は以上になります。

委員長：どうもありがとうございました。市内でこうした講習会ができるっていうのは非常に何かありがたいし画期的なことなんじゃないかなと思います。これも本当に市の市役所の皆さんとまたタスクフォースの皆さんの努力のおかげだと思っています。

それでは今のご報告に対して、ぜひ市民委員の皆さんも気になるところかと思しますので、ご発言いただけたらというふうに思いますがいかがでしょうか。

水谷委員いかがですかコメントでも何でも結構なんですけどはい。

水谷委員：こういった取り組みすごく大事だなと思います。やはり今、高齢者の方の事故とかそういうことも非常によくニュースに載っておりますので、免許返納をされている高齢者の方がその後移動するのにとてもお困りっていう時に、こういったサービスがあるっていうのは素晴らしいなと思って、聞いておりました。

一つだけ質問させていただきたいんですけど、この運転者講習会ということでこれを受けて、そして実施される方自体は、高齢者ではないですよ。年齢制限があるとかしないとやはり、そういった方が事故を起こすこの事業自体が、ちゃんとそういうことを考えてやってたんですかとか、そういうふうになってしまうので。

やはりそこは、お考えの上でだと思うんですけど。

委員長：貴重なご意見ありがとうございます、当然の心配だとは思いますが。

はい、佐藤委員お願いします。

佐藤委員：今実際に現場でやってる立場からちょっとお話させていただきますと、現実問題としてですね、全国的にいえることですが、老老介護じゃないんですけど、元気な高齢者が高齢者をサポートすると。そういうふうな時代に入ってると思います。特に地域ごとに違いはありますが、特に高齢者の方が多い地域ってのは、逆に言えば、若い人が少ない。若い人に、期待をしたいけども、皆さん現役でお仕事をされていて、そういう時間ってのはほとんど取れていないというのが実態です。

そういう意味では、むしろ元気な高齢者が不自由な高齢者をサポートするという仕組みをどう作っていくかということが現実的な解決策になって、高齢者が先ほど交通事故の問題がいろいろ社会的に提起されておりますけども、ちょっと言いますが、実は交通事故で一番事故を起こしてる若い人も多い。必ずしもその高齢者が多いというふうなことは、マスコミあまり取り上げてませんが、統計データの中ではです。

ただ、より注意深く運転していくっていう、先ほど福祉有償運送ではないですけども、そういった基本的な心構えなり、マナーなり、そういうことをきちんと把握した上でやっぱり運転注意深く運転するということが非常に大事なんだということを理解していただくのも大事なかなと思います。

おっしゃってたことは非常によく分かるんですけども、むしろそういうことを考えていかないと、高齢者だからそういうことやめたらどうですかっていうふうに、実際に、言われるので。例えば私の娘が、お父さんも 80 歳なんだからやめたらいいよと言います。今言ったそういう形で元気

様式第 1 号

な高齢者が社会活動にいろいろ入ってくると、制限されていくことが逆に懸念です。

私から見ればですね、そうならないようにサポートをどうするかということを考えていった方が現実的なのと思っております。

委員長：はい、ありがとうございます。それでは椎名委員いかがでしょう。

椎名委員：取り組み自体すごくいいことだなと思って、ここで話しているだけではなくて、高齢福祉課の方にも、広がっていったのがすごくいいなと感じました。

私が以前に住んでいたところでは、施設の送迎をやっている人たちが、施設の送迎の間の時間に、運転する人たちでグループを作って、その間に何か独自のサービスをするっていうことで、例えば墓参りに行きたいとか、お買い物に行きたいとか、そういう要望にこたえているグループがあったので、そんなふうになっていけばいいと思います。やっぱり施設の送迎をやっている人たちなので、どういうニーズがあるっていうことは、直接わかるわけですね。なかなかお出かけできない人たちが、生活の幅が広がるというか、楽しいこともできるようになっていったっていう事例を、以前に住んでいたところで、見てきたので、そういうふうになっていけばいいなと思いました。

委員長：はい、ありがとうございます。

それで石塚委員いかがでしょうかシルバークラブの立場から、一言いただければと思うんですけど。

石塚委員：シルバークラブの石塚委員です。先ほどからの移動支援についてお話を

ですけども、もちろんシルバークラブですから高齢者が多くて。普通の話
題の中で、免許証返納の話ってのはかなり出てるわけです。ただまだまだ
元気ですから、今の段階では移動支援は必要ないかもしれないんですけ
ども、結局免許がなくても、公共機関のバスなんかも、足腰丈夫な高齢者
が多いですから、使います。

ただ、あと2、3年したらほとんど移動支援を受けなくちゃならない人た
ちになるんじゃないかなと思います。

現に余談なっちゃうかもしれないんですけど、私、グランドゴルフやって
まして。荃崎なんですけど豊里の方で試合があるという場合に、載せてい
ってあげないといけないんですよ。というと、私なんかまだ一応元気な
方なもんですから、乗せていきたいんですけど、かなりの不安があるんです
よ。もし、何かあった場合もあるんで、要するにこの移動支援ってのはこ
ういった遊びに行くのに、要する高齢者の移動ってのはかなり大変なこ
とになるんじゃないかなと思います。

そしてセミナーの話ってありますけど、市役所で1ヶ所だけじゃちょっ
と集まりづらいんじゃないかと思うんですよ。だから各地区ごとにや
るとかそういった計画をしていただければありがたいなと思います。

それと余計なことなんですけど、私まだこの会議に書いて3回目の出席
で、この資料をいただいて、読んだんですけどわかんないんですよ。

冷静に考えてみると、このケア会議と生活支援会議で一緒にやってるの
は頭がこんがらがっちゃってるのかなっていう気もしないでもないけど
これ余計な話これ関係ないんですけど、気になってるところで、すいませ
ん。

委員長：ありがとうございます。そうなんです生活支援体制整備と地域ケア会議
て結構密接に関係してまして。本来は別々なんすけど密接に関係してる

様式第1号

ので、一緒にやってる分、ものすごい盛りだくさんなんです。

そういうこともあって、前回までの委員会の最後に、今度新しく入られる委員の方には、事前にオリエンテーションをしようみたいな感じまでやって一層のコーディネーターの方たちがやっていただいたりしています。

でもやっぱりわかりづらい点はあると思いますので、遠慮なくですわからないことは、もう質問していいと思います。よろしくお願いいたします。

それから市民委員の中では一番若いと思うんですけど、佐々木委員お願いします。

佐々木委員：はい。

高齢者の移動支援のためのセミナーを行うことで、移動支援をしたいという希望者に対して、増やすための取り組みを行っていくこともすごい大事だとは思いますが、それと同時に、実際にその支援を必要としている方への周知、移動支援を今つくば市が行おうとしているということを同時に伝えていくことも、必要だと感じていて、それは多分、この移動支援セミナーを行った次の段階の話だと思うんですけど。

せっかくその移動支援の体制ができているのに、実際移動支援を必要としている方に届いていないっていうふうにならないように、早いうちに、この移動支援を希望する方に対しても、こういった取り組みをしているということを周知していくことが必要なのかなと感じました。

以上です。

委員長：ありがとうございました周知ということですね。貴重なご意見ありがとうございます。

様式第1号

その他の委員の皆様はこちらの移動支援のことについて質問とかコメントとかを、ございませんでしょうか。

はい、お願いいたします。

下村委員：本当に高齢者施策との連携っていうところに至ったってのは本当に素晴らしい結果ではないかなと思いながら今お話お伺いしとりました。

最終的な目指すところってというのが、移動支援ってところで、新たな支援団体の発足っていうだと思うんですけど、これが何か市としても、何かこういったところを考えてらっしゃるのかそこが要は行き着く先ではないかなと思うんですけど、何かその辺りのお考えとか、今後のご予定とかありましたらぜひ聞かせていただいてよろしいでしょうか。

委員長：それは市の一層コーディネーターとそれとも高齢福祉課のどちらになりますでしょうか。両方。

これはどつくばらんにですね、ここでこう言っちゃったから、こうしなくちゃいけないという要望じゃないですよ。

はい、お願いいたします。

私たちがね考えていく材料になりますので何かアイデアがあったらということなんですけど。

高齢福祉課：まず、最初にこのセミナーをやっていただいて、さらにそのセミナーを受けた方が資格講習を受けることができるってことは当然新しい担い手が、横展開して行って、今回セミナーやっていただく方々に、ご協力いただいて新しく挑戦してやってみようという方もどんどん増やしていければいいなというところで考えています。

実際現状で福祉有償運送という事業に関しては市の方からも、補助金を

様式第1号

出している状況ですので、新しく発足されていくにあたって、そういった補助金を引き続き出すことによって、団体さんが維持しやすくなっていくようにだとか、その他ボランティア輸送に関しても何か応援できる方法ないかというのはちょっと模索してるところではあります。

いずれにしても、今は限定された地域で市がない状況があるのでそれが各地域でそれぞれのやり方でやってることを応援していく姿勢ではあります。

委員長：ありがとうございます。

多分下村委員のご発言っていうのは、例えば高齢福祉課がここまでこうやってくださってるので、そういう福祉計画とかそういったようなところなんかにも、一つ売りとして入れてくのかとか、そういうことなんかも考えているかどうかとかそういったようなことですかね。

佐藤委員：つくば市の方で、そういう形で組み込んでいただけるってのは、実は全国的にも珍しいです。非常に先駆的というか私どもが非常に高く評価させていただきたいと思ってるんですけど、全国的にはですね、社協さんなんかがある程度中心になって、そういうものを展開していただいとるところ多々あります。

やっぱ市がね、ある程度主体的に出てきてやっていただくっていうのは非常に稀なんで、そういう意味では非常に注目逆に集まるかなと思っております。

委員長：ありがとうございます。オンラインで参加の成島委員が今合併を挙げてらっしゃると思うんで、ご発言をお願いします。

成島委員：これから発熱外来で中座するんでその前にちょっと意見だけでお願いなんですけど。

今も出ましたように、高齢福祉課でもそういう動きがあり、高齢福祉計画も今やってますし、あとスーパーシティ構想って日本で大阪とつくばが始めたわけですけど、その中でも、いわゆる移動手段でいろんな最先端のものが動き始めてるという意味では、やはり移動ということに関して非常に人間が社会生活を営む上で非常に大事なことです。医療介護地域包括ケアっていう今考え方もあって地域で支えていくっていう時に、移動っておそらくメインは買い物と通院が多いんだろうと思います。それ以外に先ほども出ましたように、お墓掃除とかで、それ以外にもグランドゴルフで集まるのもあるかと思うんですけど、いろいろ移動ってのはあるかと思うんでその中で、既存のそういうサービスをうまく拡充すると同時に、やはりこれからも、さっきも言った高齢福祉課も関わってつくば市全体でもいろんな課が関わって、そことうまく整合性取ってでき上がった時に、今ここで話したことが、陳腐なものになってしまっちゃいけないと思うので、やはり横の連携も非常に大事なだろうなと思うんで、市の中でもうまくその辺り情報を、取り合いながらやっていければいいんじゃないかなと思います。

それで、あともう一つはやはり移動っていうことに関しては、確かに高齢者の移動をお手伝いするっていう考えと同時に、逆に高齢者に我々から近づいていく。例えば、買い物であれば、最近だと移動買物をいろんなスーパーとかコンビニが提供するような時代になってきてますし、医療に関しても実は動きとしては、いろんな大きな専門の診療科の病院がずっと通院補助を行うのではなくて、我々かかりつけの方に回すような形で年に何回かは専門病院の方に受診するけどそれ以外は近くに住んでいるかかりつけで対応できるような動きも進めてますのでそういうことも含

様式第 1 号

めて、移動に関しては、ひたすら高齢者を病院なり医療機関に運ぶとか買い物のところに運ぶということだけではなくて、逆にその近づいていくっていう方法の考え方も発想の転換も必要じゃないかなと思いました。以上です。

委員長：ありがとうございます。本当にそう言っていただくと、今日は移動販売のカスミさんもいらっしゃってるんですけど、医療の方もですね、従来の在宅医療だけではなくて何か出てくるといいなっていうふうに思ってますので、いろいろとご意見を継続的にいただければというふうに思っております。

その他いかがでしょうか。

それではですねこれで二つですねタスクフォースご発表いただいたわけですが、この後この二つの会議から出たことも踏まえて、今後の方向性について考えていきたいと思います。

一層の方で、先ほど来年度の方向性のマップを出されましたが、改めて何かご説明とかあったらお願いします。

事務局：資料 4 をもとに説明

委員長：確認なんですけど、今タスクごみ出しのタスクフォースの実態把握はこれで終わったと考えてるのでしょうか。

下村委員：今回ご報告させていただいたのが、今回の会議に間に合うようにっていうところで、ひとまず突貫工事的に 2 回やらしていただいたご報告になりますので、やはりつくば市全体までは行ってないのが現状だと思います。もうちょっと本当はやっていきたい。

それで、もう一度具体的な提言っていうところまでつなげていきたいってというのが、方向性としては考えております。

委員長：そしたらせつかくですので参加された白石委員、実際に参加してみて、この調査のニーズとか、そういったようなことなんかについてはいかがでしょうか。

白石委員：私今回、市民委員と同時にですね、実際に調査を受ける側、地域の民生委員として参加をさせていただきました。

そういう中で今回ごみ問題、これをどう扱うかっていうような流れの中です。先ほど地域をどう選んだかというご質問もあったかと思うんです。そこについてもですね、やはり現在つくば市だけでなく、日本全体で問題になっている特徴的な、地域というものをピックアップできたらいいよねという話の中で、一つは高齢化が進んでいる住宅団地、いわゆる作ってから 30 年 40 年経って、高齢化が進んでしまっている住宅団地。

これは全日本全国でも問題になってますよね。そしてもう一つは、いわゆる田舎の農村。農村というと、寂れた部分もあるんですが、高齢者と、それから若い人がまだ存在して、今後、継続を地域で頑張って、していきたいとやっている地域。

それから新しくまちづくりをしている地域、研究学園地区ですね、という三つの地域というのをきちんと取り上げて、代表的な 3 地域という形で、荃崎の宝陽台が、住宅団地、周辺地域として小田地区。新しく作っているところということで研究学園地区というような、そういう流れの中でやることによって、それぞれの課題も出るし、それからなるほど、そういうふうにやれば我が地域にも参考になるんだなっていうものというものも見つけ出せるなという部分がありました。

それと同時にですね、私地域の民生委員として地域活動やってる中で、一番大事にしてることは、地域の方が最後までその地域で、生活を続けそして最後に、その地域で力尽きてすぐ次のステージに行くこと。

その最後までですね、地域で生活できるような、そういう支援を含めた地域づくりという形の中で、当然のことながら今回のゴミ出し問題それから移動支援というものは、もうなくてはならないというものであるしという形。

それとあと、自分でやっていて一番大事にしてるって言ってますけども、やはりその対象者のが社会参加をしているということが、生きていくモチベーションにもなりますんで、その社会参加をしている部分を取り上げないという部分ですね。ですからごみ出しについても、アンケート調査をすれば、戸別収集してくれたらありがたい。

これ全員手あげちゃいます、当たり前ですからね。

でもそこで、ごみ出しって単に家からゴミを出すだけなのかっていうとそうではなくですね、ごみ集積所に持ってそこでご近所の人と行き会う、そういう中で、話したり、ご近所情報やそれから今こういうことで困ってるんだとか、そういう部分もあるんですよという部分をきっちりと、やはり考えていかないといけない。単に便利なだけですと、賃貸地のそれから精神的な部分というような気をつけなきゃならない部分がありますけれども、一番大事なやる気を削いでしまう。

生きていくための頑張りを超えてしまうようなことはなくさないといけないなという部分とか、いろいろ、実際にアンケート調査をしたり、そういう部分も改めて感じておりますので、そういう部分を大事にして、移動支援、ごみ出し支援というものの方向性をつくれたらいいなというふうに考えております。

自分の考えを一方的に発表してしまっって申し訳ないんですが、これから

様式第1号

も市民委員として努力していきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

ありがとうございました。

委員長：ありがとうございます。何かいろいろまとめていただいたような感じですね。

そうしますと、今タスクフォースには他の委員の皆さんにも関わっていただけてますけれども、今回実際に現地に行かれたってのはお2人とお伺いしてますので、タスクフォースはもう少し続けて実態把握をより深めていくということでしょうかね。今日は含まれてなかったんですけど、実際にごみ出しが本当に困難だっていう方だったり、前田委員の方からも地域差ありませんでしたかって話がありましたが、いくつかタイプが違う地域なんかも調査を続けていただいた上で、そういう方向で今年度前半があって、それから少し今日だけでも見えてきたこともございますし、タスクフォースの皆さんの意見、感じたことを受けながら、少し委員長の私とか副委員長、一層コーディネーターの皆さんとで少しこう、たたき台みたいのを作って行ってそれで全体で、来年度各地域にこういうふうなごみ出しの支援の体制づくりっていうのはありますよとか、考えられますよとかそういったものが出せるようになってくるといいかなと思ってます。

個人の介護保険も含め、それでやれる部分やれない部分と、あと地域について地域での皆さんでの柔軟な助け合いや、環境面とかそういったものも今日お話が出てきましたし、それから今まで出てきた環境省が出していたごみ出し支援のガイドっていうのは、あれは戸別収集に皆さん注意が集まったかもしれませんがいくつかタイプがあります。

でもそれは、補助金ありきの話なんですね補助金を講じて、こうやってい

様式第1号

くようなものですから。

補助金をもらう前の段階と、また補助金を講じて、何か支援を考えていく
ってというようなことで、ちょっとその辺も整理しながら今後、来年ですね
できるだけ早くそういう案のようなものを提示して皆さんに揉んでいた
だけのようにするのがいいのかなというふうに思ってます。

今ちょっとお話をまとめるとそういうことかなと思うんですけど。

どうでしょうか。

はい、北島委員お願いします。

北島委員：単純なことで申し訳ないんですけど、この一番最後に次年度以降の会議
の方向性について検討って書いてありますけど、この検討が、取れるの
は、目安としていつごろを予定してるんでしょうか。

動き出すようになるのは、そういったものが正式に活動できるようにな
るのは、目安はないんでしょうか。

いつまでもやってんだったら、いつ頃出るぐらいわかった方が、私として
はいいと思うんですけど。

委員長：ちょっと一つ確認させていただきたいんですけども、今一生懸命一層コー
ディネーターの皆さんがこうやってるんですけど、コーディネーターは
あくまでコーディネーターなので、委員を助けてくれてるもので、決める
のは私たちなので、いつまでに決めましょうよとか、そういうことは言っ
ていいんですよ。ただやっぱり作業をいろいろしてくれてるのは、一層
コーディネーター皆さんで、すごい負担というものもありますから。

北島委員：要するにいつまでも続くっていうことですね

様式第 1 号

委員長：続くわけではないですね。

事務局：いつまでも続くものでもなくて、やはりあるところで、結論を出すということの必要はあると思います。さっき委員長が言ってくださった通り、こちらから指示してここまでに何をやりましょうというところではなくて、やはり委員の皆様にお考えいただいて、それを議論していくというのがこの会議の場にはなるというところにはなります。

北島委員：わかりました。

私全くわかんないで質問してるもんですから、いつまで委員になってんのかなという感じもしたもんですから、単純な質問で申し訳ありません。ありがとうございます。

副委員長：一つだけ、ターゲットとして生活支援体制整備事業というのを我々進めてるわけですけど、これの大きなゴールが 2025 年なんですよ。団塊の世代がみんな後期高齢者になる。そこまでにいろんな必要とする生活支援の体制をみんなで協力して作っていきましょうと。そういう大きな目標があるので、一つ一つ成果を出していけばいいんだと思います。

北島委員：わかりました。確かに 2025 年ってのは、私もその前の資料で、見させてもらったんですけど、このままでは 2025 年にはどうかなと思ったもんですから、私、話させてもらいました。

委員長：皆さんにお伺いしたいんですけども、次回までにまたタスクフォースの皆さんが継続して調べていただきます。それをもとに、こういうのはどうだ

ろうっていう提案はもちろん私たちの方で協議はできるんですよ。
だから、それを例えば地域に、こういう支援っていうのが必要だし、こう
いうふうにやっていくっていうのが手がありますよっていうな、提示し
ていけるように、それが早い段階になるかを相談かなんかは、いつまでも
続くというよりは、この委員会のある意味責務なんですよ。
だから本当にこれは一人一人の委員の皆さんの協力なしにはできない。
ことなんです。
協力次第では早くなります。そういうふうに思っていたら、自分ご
とにね、自分の地域の将来なんだなっていうふうに思っていて。
そういうふうにやっていただければというふうに思うんですけども、お
願いいたします。

椎名委員：ゴミ出しがまだちょっと今回の実態調査は不十分であったということ
でもう少し広げてやりたいなっていうところなんですけど、皆さん日頃
地域で生活してらっしゃる中で、ここんところを調べたらいいんじゃないのとか、そういうところがあったら教えていただけるとすごくありが
たいと思います。
それから、一番最初、ごみの問題が出てきたのが、ケア会議のアンケート
の中からだったので、実際そのケア会議で、アンケートを取った方とい
うか、そこの方にもちょっとしっかり聞いて、これからやっていけたらいい
なと思いました。

佐藤委員：ゴミ問題もですね、ある程度高齢化で、いろいろ肉体にも精神的にもい
ろいろ出てくる。特に外に出かける、ゴミを持っていくってのは、特に足
が不自由になってくる。外に 50 メートル歩くのは何も持たずなら行ける
けどけど、ゴミを持っていくってほとんど不可能。そのために向けたツー

ルを活用ってのはあると思うんですね。

外出支援も全く同じなんですよ。僕は実はアンケート調査を昨年やったんですね。

つまりその友の会助け合いの約百名の要介護者支援で、自宅で1人で生活されてるとか、老夫婦ですとか、そういう人たちが最初にごみ問題について、どうされていました。

その中で一番多く出てきたのが、旦那が元気なんで、なんとか旦那がやっています。これは老夫婦、或いは家族がいれば大体書いてきちゃう。

ちゃんと一番深刻なのは、1人住まいの人。僕らのアンケートの結果もきちんと出てきたんですね。

いつも整形外科に行かれて、月に1回行くとかね、そういうことで足が不自由な方。やっぱりこういう人たちはもともと外出支援とごみの問題は同じような人たちが一緒になるだろう。

むしろごみを出せないという人の方が外出支援より人数的に多いのかもしれないなってふうに僕らちょっと思って。

結構皆さん本当に困っちゃって、それを出すサポートするのが、家族と、地域の本当に身近な人。

それから先ほど指摘された、ケアマネさんなり、ヘルパーさんが、生ごみを持っていけないけども、これを何とかご近所さんに少し応援してもらうように、声を掛けましょうというふうにやっていた。

だからきっと移動支援の問題で悩んでる人。これは必ずごみ問題と結びついてるので、やっぱそういうことでうまく連携しながらですね、やっていける課題かなと思います。もう少し地域のネットワークを作っていくとか、地域のコミュニティをですね、人を厚くしていくとか、そんなものに役立っていけば、ちょっとその先ほどお話されていた、自分の住んでる地域の中で安心して生活できるような体制づくりというところに向かっ

様式第1号

ていくんじゃないかなと思いますので、この二つの問題ってのは非常に重要で、ここから、いくらでも横展開できるようなものがありそうな気がしております。

委員長：ありがとうございます。

そのようにですね、二つの問題ってのはかなり密接に関係してますのでそのような意識で取り組んでいただけたらというふうに思います。

重ねて申し上げますが、生活支援体制整備は、この委員会が主体になって取り組んでいく場ですので、やっぱり問題解決に委員の皆さん一人一人の協力が不可欠です。

ですので、各自治会にお伝えするようないろんなガイドとかそういったようなものも、一人一人の皆さんの努力ででき上がってくるものですので、2025年に向けてですね、より良いものを作っていくようにしていけたらというふうに思っています。その意味で一層コーディネーターの皆さんも二層コーディネーターの皆さんも今日お越しになっている地域包括支援センターの皆さんも頑張ってますので、そういうふうに取り組んでいただければと思います。

ロードマップは細かいところまでいきませんでした方向性っていうことでは、ちょっとここ、今お話しいいに出せたんじゃないかなと思いますのでこのようなことで、また来年度の最初の会議では改めて記入したロードマップを見せながら、っていうことでいかがですかね。

はい、どうぞ。水谷委員。

水谷委員：すいません来年度の話になったのでちょっと意見言わしてください。

私この推進会議でいろいろなことをこれから取り組んでいかなければいけない事っていうのはたくさんあるなと思ったんですけども、これか

らの高齢化社会で、やはりボランティアさんとか、NPO さんのお力って
いうのはとても大事だと思っております。

それと同時に、これはもうしっかり企業化していくことも、成り立つんでは
ないかと思っていて、今回の高齢福祉課さんも一緒に加わってくださ
ってるんですけど来年度はぜひ、例えばスタートアップ推進課とか、そう
いったところで、これは企業で成り立つんじゃないか、資金調達もこうや
ればできるんじゃないかと、そういったよく知ってる方も入ってもらっ
て、また例えば、今回、ゴミのところってのやはり高齢者の方が多いとこ
ろに、っていうのはちょうど今、周辺市街地が取り組んでる R8 に重なる
部分もあるんですね、そういったところで活動している方とか、そういっ
た横の繋がりってつくば市にまだまだたくさんこれから可能性あると思
うので、ぜひ横の繋がり、さっきのスーパーサイエンスシティもそうで
すけれども、つくば市全体が良くなればこれからの高齢化社会が、つくば
市楽しくなっていくんじゃないかなと思っております。

よろしくお願いいたします。

委員長：はい。ありがとうございます。ずっと自分も何期かかわらせていただい
て委員の皆さんからですね、横の連携っていうのが、たびたび出てたと思
います。そういう意味で地域包括支援センターっていうのはそれをなく
すとかワンストップサービスっていうことでできた部署ではあるんです
けども、そこから横の繋がりなかなか難しかったんですが、今日そういう
意味ではですね移動支援でね、高齢福祉課と連携ができたっていうのは
非常に素晴らしいことですし、それをもっともっと拡充していくって
いうことでよろしいんですよね。

それはある意味私たち委員ではちょっと難しいことですので、市の皆さん
にぜひお願いできればというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

します。

せっかくですので、今ちょっとお話あったんですけども、ずっと聞いてるのも大変だと思うので、2 層コーディネーターの皆さんとか、オンラインで聞いてらっしゃる、また今日お越しになってる地域包括の皆さんから何かございましたらコメントとか、いただけますか。

お願いします。

荻生 S C：谷田部東圏域の生活支援コーディネーターの荻生です。

私以前にゴミ出しのグループワークに入らせていただいていたことをちょっと思い出しながら話してるんですけども。

地域でゴミ出しが課題だっていうふうに感じて、すでに活動されている方ともやりとりがあったりするので、そこら辺の状況を伝えしますと、支援する側とそれを必要としている側がうまく繋がっていないケースがあるなっていうことを感じています。

地域でも、例えばコーディネーターが関わる中で生まれた地域、高野台、緑が丘、梅ヶ丘あります。あとそれより前から地域の助け合いの中でゴミ出し支援をしている地域もあります。

小白裕のグリーンハイツですとか、赤塚東山、宝陽台さんもそうだと思います。そういったところでも地域ですでにたくさん活動している団体さんがいらっしゃるというような状況があります。

私は高野台の活動に関わっているんですけども、高野台はシルバークラブと民生委員さんが窓口になって、地域でゴミ出し支援を必要としている人に呼びかけて 1 回 50 円で、燃えるごみのごみ出しをお手伝いするっていう取り組みを昨年からはじめました。

すごくいい取り組みだと思っているんですけども、利用者が今のところ 1 件しかいないっていう現状なんですね。すごくもったいないなと思

いまして。

それをや東包括さんにも相談させていただいて、そのケアマネさんにも、こういう活動があるんだよっていうことを呼びかけていただいて、例えば高野台の利用者さんを持ってるケアマネさんとかにも、こういうサービスがあるっていうのを知ってもらえるようにしようって話とかもしています。

そういうふうに、すでにごみ出しを課題ととらえて取り組んでいる地域ってというのがたくさんあるのでそこをどう支えていけるかっていうこともタスクフォースの中なんかで、一緒に話せたらいいのかなと思いました。先ほど椎名委員のお話の中で、アンケートとか調査の中で聞いた方がいいことありますかっていうふうにあったと思うんですけども。

例えばそういうふうにもうすでに活動している団体に話を聞いてみるっていうのもありかと思います。団体だったら、支援を必要としている側の課題もある程度把握していると思いますし支援する側の課題っていうのもお話しただけかと思うので、そういったところもちょっといいのかなというふうに思いました。

委員長：ありがとうございます。

そうですね。区長会へのアンケートではなかなか出てこなかったことでも、やっぱコーディネーターの皆さんとか地域包括の皆さんとか、また自治体の委員の皆さんからモデルになるような事例ってのもあると思うので、ぜひそういうのを提供していただいて、早い段階で、少しガイドのようなものができるといいなというふうに思います。ありがとうございました。

地域包括で代表、どなたでも結構なんですけど、今の連動した話でも結構なんですけどどうでしょうか。

事務局：あくまでも意見というところなんですけど、今までのお話、成嶋先生からのお話もありましたし海老原さんからあったところなんですけど、地域ケア会議というところは、地域の課題を抽出したものを、検討して施策につなげるっていうところで、ケアの部分から上がってきている話が多かったりはします。ただ、今生活支援体制整備と一体的っていうところで、地域づくりというところで合致してるのでやってるところではありますが、ただ、ケアの部分も大のおろそかになってはいけなくて、それからそれだけでなく認知症であったり、医療の部分であったりっていう課題も抽出されてます。

実際に今年度の圏域別ケア会議やった中で医療職からの事例提供というのがあったんですが、まだちゃんと抽出しきれておりませんが、介護と医療の連携っていう部分で、やはりうまくネットワーク作りが築けてないっていうところが見えてきたりとか、そういうところもあります。なので生活支援体制整備だけと連携っていうところはちょっと限界があるのかなというところは考えていて、なので他の事業との連携、この生活支援との連携もそうですが、他の事業との連携っていうところを考えると、のケア会議のあり方っていうところはちょっと見直しというところが必要かなというふうには感じております。

以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。

海老原さん、どうぞ。

海老原委員：すいません、終わるところで。私今つくば市ケアマネジャー連絡会に在籍してるんですけども、ケアマネジャー連絡会の中でも、定例会とし

て、月 1 回、ケアマネジャーが集まっての定例会を開催しています。その中で、例えばごみ出し支援とか移動支援で、現場の生の声を、ちょっとアンケートではないんですけども、他のケアマネジャーさんとかにも打診をして確認をして、今現在、こういう制度こういうものを利用して、うまくいってるっていうケースから、あとはこういうものがあつたらいいなっていうところを、生の声を吸い上げられるような、ちょっと打診というか、そういう方向性でも皆さんでケアマネジャー 1 度でも検討していければなというふうに考えております。

また、そこら辺で何かあれば報告させていただければと思います。

委員長：ぜひお願いいたします。

今日聞いただけでもたくさんね、来年度の前半のやることっていうのが出てきたと思いますので。

タスクフォースだけではなくて海老原さんのケアマネの調査もありますし、それからいろんなモデルになりそうな事例とか集めていって、それで少しガイドの骨格みたいのもできてくるといいなというふうに思いますので、大体これで少し見通しのようなものができてきたんじゃないかというふうに思います。ありがとうございます。

それでは長時間に渡りまして皆さんの協議ありがとうございました。閉じる前にですね今日ですね二つのタスクフォースの発表、大変だったと思います。下村委員、それから佐藤委員ありがとうございました。

今日は本当にありがとうございました。

それでは次回の会議日程とその他につきまして、これは事務局の方にお返ししたいと思います。

事務局：次回の会議に関しては、まだ日は未定なんですけど、5月から6月に第1回

様式第 1 号

会議を予定しております。

皆様には事前にまたメールや通知でお伝えしたいと思いますのでご協力
よろしくお願いいたします。以上です。

事務局：その他ございませんでしょうか。

では本日、お忙しいところお集まりいただきまして、ご審議ありがとうございます
ございました。来年度以降の予定につきましては、またこちらの方からご案内
させていただければと思います。

以上で、本日の会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。

令和 4 年度
第 5 回つくば市地域ケア会議
第 5 回つくば市生活支援体制整備推進会議 次第

日時：令和 5 年(2023 年) 3 月 3 日（金）午前 10 時から 12 時
場所：つくば市役所 203 会議室

1 開会【10:00～10:05 5 分】

2 議事【10:05～11:50（1 時間 45 分）】

時 間	議 事	内 容	資 料 番 号
10:05-10:20 (15 分)	ア 報告事項	令和 4 年度の会議のまとめ及び次年度の会議 予定	No. 1
10:20-11:10 (50 分)	イ 共有事項 及び協議	(1) ごみ出し支援 ア：ごみ出し支援タスクフォースからの進 捗報告及び見えてきた課題（5 分） イ：課題に対する意見交換（20 分）	No. 2
		(2) 移動支援 ア：移動支援タスクフォースからの進捗報 告及び見えてきた課題（5 分） イ：課題に対する意見交換（20 分）	No. 3
11:10-11:30 (20 分)	ウ 協議 及びまとめ	(1) と (2) から導き出された今後の方向性	No. 4
11:30-11:35 (5 分)	エ 事務連絡	次回会議に向けて	
11:35-11:50 (15 分)	オ まとめ	(1) 今回の会議のまとめ (2) 次回会議までに行うことの確認	

3 その他【11:50～11:55（5 分）】

4 閉 会【11:55～12:00（5 分）】

つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議
会議員（委員）名簿

任期：令和４年(2022年) 7月１日から
令和６年(2024年) 3月31日まで

No.	所 属 団 体 等	役 職	氏 名	分 野	グループ
1	つくば市医師会	副会長	成島 淨	医 療	移動 C
2	つくば市理学療法士会	副会長兼事務局長	下村 哲志	医 療	ごみ A
3	筑波大学	筑波大学人間系 (障害科学域) 准教授	山中 克夫	学識経験者	ごみ B
4	つくば市区会連合会	会長	飯田 哲雄	住民団体	ごみ A
5	つくば市民生委員児童委員連絡協議会	荻崎地区会長	北島 正義	住民団体	ごみ B
6	つくば市シルバークラブ連合会	副会長	石塚 一夫	住民団体	ごみ A
7	つくば市ケアマネジャー連絡会	副会長	海老原 良之	介 護	移動 C
8	茨城県看護協会	管理者	小林 路江	介 護	移動 D
9	つくば市特別養護老人ホーム連絡会	会長	今高 哲生	福 祉	移動 D
10	つくば市社会福祉協議会	地域福祉推進室長	大橋 功	福 祉	ごみ A
11	NPO法人	NPO法人友の会たすけあい 理事長	佐藤 文信	NPO法人	移動 D
12	一般企業	株式会社カスミ ビジネス変革本部	堀越 健一	企業	移動 D
13	地域活動実践者		但野 恭一	地域活動実践者	移動 C
14	地域活動実践者		椎名 清代	地域活動実践者	ごみ B
15	市民委員		水谷 浩子	市 民	ごみ B
16	市民委員		前田 亮一	市 民	移動 C
17	市民委員		佐々木 湧人	市 民	ごみ B
18	市民委員		根本 けい子	市 民	移動 D
19	市民委員		福井 正人	市 民	移動 C
20	市民委員		白石 通	市 民	ごみ A

つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議参加者名簿
(地域包括支援センター、第2層コーディネーター、事務局)

21	筑波地域包括支援センター	保健師	戸塚 啓子	ごみ A
22	大穂豊里地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	井ノ口 美樹子	ごみ A
23	桜地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	寺田 隆則	移動 D
24	谷田部東地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	鬼久保 しのぶ	移動 D
25	谷田部西地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	平林 康行	ごみ B
26	荃崎地域包括支援センター	センター長 社会福祉士	大塚 俊実	移動 C
27	つくば市社会福祉協議会 第2層コーディネーター	統括係長 谷田部西圏域担当	大竹 佳代子	移動 C
28	つくば市社会福祉協議会 第2層コーディネーター	大穂圏域担当	小倉 貴之	ごみ B
29	つくば市社会福祉協議会 第2層コーディネーター	豊里圏域担当	倉持 弘	移動 D
30	つくば市社会福祉協議会 第2層コーディネーター	谷田部東圏域担当	荻生 奈苗	ごみ B
31	つくば市社会福祉協議会 第2層コーディネーター	桜圏域担当	小川 奈々世	移動 D
32	つくば市社会福祉協議会 第2層コーディネーター	筑波圏域担当	猪瀬 翔南	ごみ A
33	つくば市社会福祉協議会 第2層コーディネーター	荃崎圏域担当	益子 奈津子	ごみ A
34	事務局	地域包括支援課 課長	会田 延男	
35	事務局	地域包括支援課 課長補佐	飯島 良弘	
36	事務局	地域包括支援課 社会福祉士	松尾 智美	
37	事務局	地域包括支援課 保健師	佐藤 美保	
38	事務局	地域包括支援課 主任介護支援専門員	金山 昇平	
39	事務局	地域包括支援課 主事	宮 亜弓	
40	事務局	高齢福祉課 係長	石川 寛央	
41	事務局	高齢福祉課 主事	川上 由利子	

令和４年度第４回つくば市地域ケア会議及び第４回つくば市生活支援体制整備推進会議 議事要旨

会議の名称		令和４年度第４回つくば市地域ケア会議及び第４回つくば市生活支援体制整備推進会議
開催日時		令和４年１２月１５日（木）開会 午前１０時００分 閉会 午後１２時１０分
開催場所		つくば市役所 防災会議室２、３
事務局（担当課）		福祉部地域包括支援課
出席者 (33名)	委員 (16名)	下村哲志、山中克夫、北島正義、石塚一夫、大橋功、佐藤文信、但野恭一、椎名清代、前田亮一、佐々木湧人、白石通（オンラインでの出席）成島淨、海老原良之、小林路江、今高哲生、福井正人
	その他 (10名)	つくば市社会福祉協議会 大竹統括係長（谷西） つくば市社会福祉協議会 ２層 SC 小川（桜）、猪瀬（筑波）、小倉（大穂） 筑波地域包括支援センター 戸塚保健師 大穂豊里地域包括支援センター 井ノ口センター長 谷田部西地域包括支援センター 平林センター長 谷田部東地域包括支援センター 鬼久保センター長 桜地域包括支援センター 寺田センター長 荃崎地域包括支援センター 大塚センター長
	事務局 (7名)	地域包括支援課：会田課長、飯島課長補佐、佐藤保健師、金山主任 CM、宮主事 高齢福祉課：石川係長、川上主事
	傍聴者	0名

～ 令和４年度第４回会議の審議事項 ～

検討・報告事項	協議事項、決定事項等
全体共通事項	【副委員長の選任】 ・開催要項第５条第３項の規定に基づき、山中委員長から副委員長の指名を行い、但野委員が選任された。 【各２層圏域での社会資源集作成の予算について】 ・委員より、２層協議体で検討されている社会資源集作成へ助成の要望が出された。 →今後の継続審議となった。 【タスクフォースメンバーの紹介】 ・ごみ出し支援タスクフォース：白石委員、下村委員、椎名委員、水谷委員 ・移動支援タスクフォース：但野委員、佐藤委員、小林委員、鬼久保センター長
議題：グループに分かれ、 「ごみ出し支援」の地域課題の協議	【各グループからの協議内容の発表】 ゴミ出し支援：ごみ出し問題の実態把握に必要な情報について、意見出しをしましょう。 <u>グループＡ</u> ①民生委員へ独居高齢者、高齢者世帯に調査の検討を依頼する、民生委員がアンケート調査に答えやすくする。 ②民生委員への調査は、事前に項目や内容を伝えることが大切。 <u>グループＢ</u> ①民生委員は秋の実態調査で状況を把握しているので、民生委員へのアンケートでその実態を共有したい。 ②３つの対象地区は地域差があるので、集積所までの距離、地理的条件などの地域状況を把握する。 ③調査では個人の状況を聞き、その後地域の方にお問い合わせできているか、どのような支援が必要かを聞く。基本的にはタスクフォースの内容に沿って質問項目を作成する。

議題：グループに分かれ、「移動支援」の地域課題の協議	移動支援：高齢者の移動支援セミナーについて、参加者の動機づけとなるにはどのような内容が良いか <u>グループC</u> ・ 誰に伝えるか ⇒立上げを考えている人。地域で移動支援に困っている人。 ⇒地域の移動支援の現状の把握は、2層会議や圏域別ケア会議の場を活用して抽出してはどうか。 ・ 何を伝えたいか ⇒成功事例及び先進事例の紹介、展開できる参考事例に地域自らが繋がれるとよい。 ⇒単発の紹介だけでなく、啓発活動、情報発信も必要。 ・ 伝える人（演者）はだれが良いか ⇒タスクフォースメンバー以外にも、高齢福祉課等の行政も共催が良い。 <u>グループD</u> ・ 誰に伝えるか伝えたいか ⇒移動支援の立上げに興味のある人、退職後の方、団塊世代の方、子育て後の主婦等 ・ 何を伝えたいか ⇒立上事例（計画、手続き等）、実際にあったトラブルと対応方法について紹介するのもよい。 ・ 何故伝えたいか ⇒移動は日本中での課題。高齢者の自主返納への動機づけにつなげたい。 ・ どうやって（どこで含む） ⇒出前講座形式や座談会形式。自治会、区会単位で開催。
-----------------------------------	---

会議のまとめ	<u>【ごみ出し支援】</u> ・ 民生委員の高齢者台帳訪問対象者である一人暮らし高齢者及び高齢世帯に焦点を絞る。 ・ 民生委員へのアンケート調査前に、丁寧な説明を心がけることで介入を始める。 ・ グループ A/B とも、おおむね TF で検討された下記の項目に沿って検討を深めていくという方向性となった。 <u>【移動支援】</u> ・ 高齢者の移動支援セミナーの内容について、具体的な意見出しが行われた。 ・ 今後はタスクフォースで上記意見を集約し、内容を詰めていく。
---------------	---

つくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議 令和4年度まとめ

地域課題	令和4年度								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	第2回 7月15日		第3回 10月20日			第4回 12月15日			第5回 3月3日
ごみ出し支援	【第2回協議内容】 実施可能な「取組み内容」について事例集を参考にして協議 【結果】 各地域の特性を活かしコミュニティ支援型と直接支援型を進めるやり方を検討		【第3回協議内容】 ・環境衛生課からの情報提供 ・ごみ問題の実態について把握する方法について考える 【結果】 ・タスクフォースを作り、地域限定した実態調査を行う			【第4回協議内容】 ・タスクフォースの報告事項に沿って、質問項目を決める 【結果】 ・民生委員へ調査に入り、次に高齢者及び高齢世帯に焦点を当て次段階の調査を行う。		【第5回協議内容】 今年度の振り返り 次年度以降の方向性	
タスクフォース					【11/28第1回TF】 ・ゴミ出し支援の実態調査方法について検討 ・民生委員向けアンケート調査の項目検討	【1/13第2回TF】 ・アンケート内容、スケジュールについて具体的に検討	【アンケート説明】 (1/24,25,31) ・3地域の民生委員に対し、アンケート説明	【2/15第3回TF】 ・アンケート集計を見て、困難者に対する個別ヒアリング調査項目検討	【ヒアリング】 (2/22,28) ・高齢者を対象としたヒアリング&現地調査
移動支援	【第2回協議内容】 既存のサービスに頼らないもの、既存のサービスを拡大する具体的取組みを協議 【結果】 移送支援の課題、サポート体制の検討、モデル事業の横展開とアドバイス体制の構築		【第3回協議内容】 ・佐藤委員、但野委員からの活動報告 ・移動支援団体の課題に対する具体的な取組み、好事例が横展開する取組み 【結果】 ・講演会を開催し、移動支援の実態や活動のPR等を行う			【第4回協議内容】 ・タスクフォースでの報告事項に沿ってセミナー開催内容について具体的に協議 【結果】 ・セミナー参加者の動機付けになるよう具体的な内容について検討した		【第5回協議内容】 今年度の振り返り 次年度以降の方向性	
タスクフォース					【11/28第1回TF】 ・「高齢者の移動支援セミナー（仮）」の開催に向け、具体的な内容（目的、規模、対象、内容、時期等）について協議		【2/1第2回TF】 ・7月29日（土）にセミナー開催決定 ・並行して実態調査が必要と協議。	【2/14第3回TF】 ・実態調査について、年度前半に団体に対する移動支援の実態調査、後半にアンケート調査との案	

【ごみ出し支援】 タスクフォースの動き

3地区
ごみ出し問題の
実態を把握する!

メンバー

委員：下村(リーダー)・白石・椎名・水谷

経過報告

第1回打合せ(11/28)

- ・ 3地区(城山・研究学園・小田)民生委員向けアンケート調査項目の検討

第2回打合せ(1/13)

- ・ 民生委員向けアンケート調査の具体的方法について検討

1 民生委員向けアンケート調査の実施

- ・ 城山(1/24)・研究学園(1/25)・小田(1/31)

第3回打合せ(2/15)

- ・ アンケート結果の検討
- ・ ごみ出し困難者に対する個別ヒアリング調査項目の検討

2 ヒアリング調査

- ・ 小田地区2名(2/22)
- ・ 城山地区2名(2/28)

2/10
×切

Ⅰ 民生委員向けアンケート調査の実施

- 民生委員 城山地区2名、研究学園地区4名、小田地区2名
- 回収率100%
- 民生委員の皆様には、各地区の交流センター等にお集まりいただき、
アンケートの趣旨についてご説明し、ご協力を得ました。
- アンケートは、次ページ参照

民生委員向けアンケート①

民生委員の皆様

ごみ出し支援実態調査アンケート

1 担当地域のごみ集積所についてお尋ねします。

No	質 問	答 え
1	ごみ集積所の管理は誰が行っていますか。	住民 ・ 管理組合 ・ その他（ ）
2	1の質問で、ごみ集積所の管理を住民が行っている場合、それは当番制ですか。	はい ・ いいえ ・ その他（ ）
3	2の質問で、当番制である場合、その仕事内容はどのようなものがありますか。	掃除 ・ 施設管理（鍵やナンバーロックなど） ・ ごみの分別 ・ 残ったごみの回収 その他（ ）
4	2の質問で、当番制である場合、当番の任務が実施できない場合、ごみ集積所の利用ができなくなることがありますか。	はい ・ いいえ
5	区会に加入していない住民は、ごみ集積所の利用ができませんか。	はい ・ いいえ
6	ごみ集積所までの距離が一番遠い方で、どのくらいの距離がありますか。	約 m もしくは 徒歩 分

民生委員向けアンケート②

2 担当地域の住民のゴミ出し問題についてお尋ねします。

No	質 問	答 え
1	現在、ゴミ出しが困難な方がいらっしゃいますか。	はい ・ いいえ ↓
2	1の質問で、「はい」と答えた場合、何人くらいいらっしゃいますか。	人
3	その方々に対して、誰が支援していますか。 (複数回答可)	家族・近所の人・ヘルパー・ケアマネジャー ボランティア・その他（ ）
4	ゴミ出しにおいて、地域で支える仕組み（体制）がありますか。	ある ・ ない
5	どのような仕組み(体制)があるとよいと思いますか。	行政主体の仕組み・民間主体の仕組み 行政からの委託事業・住民主体の仕組み その他（ ）
6	利用料についてはどうお考えですか。	無料が良い ・ 有料が良い(1回_____円くらい)
7	担当地域で、将来的(10年以内)に、ゴミ出しが問題となると考えますか。	はい ・ いいえ
8	7の質問で、「はい」の場合、何人くらいが該当となりそうですか。	人

民生委員向けアンケート③

3 ゴミ出し困難者の実際についてお尋ねします。お一人ずつお答えください。

【1人目】

No	質 問	答 え
1	世帯について教えてください。	独居 ・ 高齢世帯 ・ 障害者 ・ その他（ ）
2	ごみ出しのどのようなことが困難ですか。 （複数回答可）	集積所まで歩けない ・ ごみの分別ができない 日にちを忘れてしまう ・ ごみ袋を持つ力が無い その他（ ）
3	ごみ出しが困難になってしまった理由は何ですか。（複数回答可）	身体が弱ってしまった 認知症が進んだ その他 （ ）
4	その方に対して、実際にごみ出しの支援をしてくださる方はいますか。	はい ・ いいえ ↓
5	4の質問で、「はい」の場合、それは、どのような方ですか？	家族・近所の人・ヘルパー・ケアマネジャー ボランティア・その他（ ）
6	その方に直接具体的なお話を聞かせていただけそうですか。	はい ・ いいえ

民生委員向けアンケート結果から把握したこと

- どの地区も、ごみ問題への認識はあるが、地域で対応している地区は少ないが、近所の方の支援が得られ、何とかなっているところが多い。→今後は善意だけでは対応できない。
- マンションは、問題が見えにくい特徴はある。
- 道路などの交通問題についても調査が必要である。
- ごみ出しは、歩く+持つが必要。補助具の提供も救済処置になる。
- 身体機能の低下でIADLが落ちていることが分かった。リハ職を活用できないか。
→ 身体的フレイル、社会的フレイル、心理的フレイルを総合的にヒアリングする。
- 本人の残存機能、意欲などを大切にし、何があればできるのか?にも焦点を当てる。
- 「人の世話になりたくない」人が、自分でできる方法を共に探し提案していくことも必要。

民生委員向けアンケートまとめ

1 新たな視点

「本人ができる方法を見つける。」

(補助具か?リハ職な件なのか?住民同士の体制構築なのか?の検討材料になる)

2 今までの視点

「困難者に直接ごみを回収しに行くシステムの構築検討。」

2 ヒアリング調査

ごみ問題個別ヒアリング項目 実施日 地区名: 小田・城山 氏名: 様

		聞き取り項目	記入欄	担当者	
民生委員への聞き取り					
1 健康状態		(1)健康状態(病状等、傷病情報等) ※よくすり手帳がある場合は確認させてもらう。 ※病状記載欄			
		(2)高血圧情報(かかりつけ病院等)			
2 フレイルチェック		(3)健康状態	① よい ②まあよい ③ふつう ④あまりよくない ⑤よくない		
		(4)これらの現在の健康状態はいかがですか			
		(5)毎日の生活に満足していますか	①満足 ②やや満足 ③やや不満 ④不満		
		(6)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(7)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(8)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(9)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(10)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(11)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(12)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(13)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(14)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(15)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(16)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(17)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(18)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(19)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
		(20)1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ		
	3 サービス		(21)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数	
			(22)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数	
		(23)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(24)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(25)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(26)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(27)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(28)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(29)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(30)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
4 その他		(31)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(32)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(33)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(34)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(35)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(36)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(37)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(38)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(39)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		
		(40)サービス状況(利用状況、利用回数、利用回数、利用回数)	①利用回数 ②利用回数 ③利用回数		

個別ヒアリングの状況①

- 小田地区

〈Aさん〉 80歳代女性独居

（身体状況） 要支援 2、膝痛と腕の痛みあり、デイサービス週2回利用

（社会交流） 杖やシルバーカーを利用して毎日外出、近所づきあい良好

（家 族） 別居家族の見守りあり

（ごみ出し） 台車に乗せて集積所までもっていく。

（ごみ出しの大変なところ） 集積所の当番で、水汲みが大変(貯水池を2往復)

集積所の扉が押戸なので大変→引き戸がよい

【ごみ出しに対する思い】 一人でできるうちは自分でやりたい。

無料による戸別収集はとても良いと考えている。

個別ヒアリングの状況②

- 小田地区

〈Bさん〉 70歳代男性独居

（身体状況） 要支援 1、ヘルパー利用予定

視力左 0、右 0.06、人工透析週3日（送迎）

（社会交流） 自転車やタクシーで活動的に外出している

（家 族） 別居家族ありも疎遠

（ごみ出し） 自転車の荷台に乗せて集積所までもっていく。

（ごみ出しの大変なところ） 集積所までの道中に段差があり、危ない。

【ごみ出しに対する思い】 一人でできるうちは自分でやりたい。

目が今以上悪くなったら、施設入所と考えている。

戸別収集はよいと思う。

個別ヒアリングの状況③

- 研究学園地区

- ・ 戸建て地区エリア

集積所が等間隔に整備されており、問題は顕在化していない。

- ・ マンションエリア

古紙回収のみ、区会が率先して活動している。ボランティアが回収対象者は、高齢者などのゴミ出し困難者向け。

この体制を整備することで、つくば市からの援助（※）を受けて区会の収入にしている。※ 資源物集団回収奨励金

個別ヒアリングの状況④

- 城山地区

〈Cさん〉 70歳代男性、妻と二人暮らし

（身体状況） 要介護2、訪問看護、福祉用具貸与、住宅改修
在宅酸素導入中

（社会交流） 外出は通院のみ。

労作時呼吸苦あるため、地域の交流に参加せず、閉じこもり傾向

（家族） 妻と二人で生活。子供の家族がたまに自宅を訪問する

（ごみ出し） 燃えるゴミは本人が回収して指定ゴミ袋に入れる

ゴミ出し（集積所まで約30m内）は妻が行う

（ごみ出しの大変なところ） 妻が担っているため、今のところはおみ出しできる

【ごみ出しに対する思い】 家の生活のゴミのことは、地域の人には頼みにくい。

できるだけ自分たちでやりたい。

個別ヒアリングの結果から把握したこと

- ・タスクフォースメンバーが感じたこと

- 近所付き合いが良好であれば、どうにかなる。
- 自力でごみを持たない場合、
台車や自転車の荷台など何らかの道具を使用していることが分かった。
- 集積所や集積所までの環境的な問題への対策を考える必要がある。
- リハビリテーションの活用により、身体機能の維持や動線確認の必要が期待できる。
- 集積所の当番など、管理に関する問題点を、
区会でどのように考えているのか知る必要がある。
(個人同士のやり取りは、気兼ねしやすい)
- 戸別収集への期待は大きい。

今後の方向性の検討

皆様のご意見はいかがでしょうか。

民生委員向けアンケートまとめ

1 新たな視点

「本人ができる方法を見つける。」

(補助具か?リハ職な件なのか?住民同士の体制構築なのか?の検討材料になる)

2 今までの視点

「困難者に直接ごみを回収しに行くシステムの構築検討。」

① 事例をとおしてどのような体制や制度が必要か。

(本人ができること、支援が必要なこと、今後必要なこと)

② 戸別収集の実現可能性について

③ 補助具(杖やリヤカー等)、ロボットの活用の可能性について

A background collage of various lifestyle and activity icons including a bicycle, a soccer ball, a tent, a hot air balloon, a red balloon, a violin, a dog, a red apron, a green plant, and hands. Each icon is connected to the main title by a thin black line.

【移動支援】 タスクフォースの動き

【メンバー4名】

★リーダー佐藤委員

但野委員、小林委員、鬼久保センター長

高齢者の移動支援
セミナーを実施!

経過報告

11/28 第1回会議



2/1 第2回会議



2/14 第3回会議

- ・「高齢者の移動支援セミナー」の具体的内容（目的、規模、内容、時期）等を協議

- ・ 7月29日（土）にセミナー開催決定
- ・ 実態調査の必要性について協議

- ・ 実態調査について、年度前半で団体に対する調査、後半にアンケート調査と協議



高齢者の移動支援セミナーについて①

目的：

- ①移動支援の現状を共有し、「高齢者の移動支援」について考えるきっかけづくり
- ②移動支援をやりたい方が参加でき、また新たな移動支援団体が発足する、横のつながりができるきっかけづくり

対象者：

- ①移動支援に関心のある市民
 - 1) 移動支援に関する取組みを考えている方や団体
担い手を希望されるボランティア、高齢者主婦、学生等
 - 2) 地域で移動に困っている方
- ②移動支援の活動をしている団体



高齢者の移動支援セミナーについて②

日程：令和5年7月29日（土）午前中

場所：市役所 会議室201（定員180名）

内容：

詳細は
別紙参照

- 1 基調講演 全国移動サービスネットワーク
国内の高齢化と移動サービスの現状、
道路運送法等の制度、先進事例紹介、
移動サービス創出のプロセスと留意点など
- 2 つくば市の移動支援に対する考え方
- 3 つくば市内での活動団体について（事例報告）
- 4 講習会の案内（背景、メリット、できること等）



高齢者施策との連携

7月29日
セミナー

- ・ 高齢者の移動支援セミナーで、「移動支援」の課題を考え、新たな担い手が生まれるきっかけづくり

9月下旬
講習会

- ・ 高齢福祉課主催「福祉有償運送運転者講習会」をつくば市内で初開催
- ・ 移動支援に取り組んでいく担い手を養成



移動支援希望者の実態把握について

(1) 地域活動団体等へ移動支援に関する 生の声を聴く

- ・年度の前半で、サロン、シルバークラブ、ケアマネ会、地域支えあい会議等で、移動支援へのニーズや移動支援に関する困りごと、工夫などについて、生の声を聴く機会を持つ。

(2) 調査後の流れ

- ・調査から見えてきたことを7月のセミナーで報告
- ・アンケート調査は令和5年秋を目指して再度検討する。



今後の方向性の検討

①高齢者の移動支援セミナーの内容

タスクフォースで協議した内容についてご意見を
お願いします

②育成された担い手の方が地域で活動する ためには？

担い手として活躍できるような具体的方法について
ご意見をお願いします



別紙：移動支援タスクフォースで検討されたセミナーの詳細

講演会タイトル	高齢者の移動支援セミナー（仮）
開催目的（Why）	・高齢者の移動支援について考えるきっかけづくり ・市内の移動支援の状況を周知する ・移動支援をやりたい方が参加でき、新たな移動支援団体が発足するきっかけづくり ・移動支援関係者や希望者の横のつながりづくり
主催（Who）	地域包括支援課及び会議委員、共催庁内他課（検討中）
対象者（Whom）	・移動支援に興味のある市民 ①移動支援に関する取組みを考えている方や団体 担い手になり得る退職者、団塊の世代、主婦、学生等 ②地域で移動に困っている方 ・移動支援の活動をしている団体
内容（What）	目的：地域の移動支援に関する現状を共有し、新たな担い手づくりにつなげる 内容：「高齢者の移動支援セミナー（仮）」を開催 1 基調講演 全国移動サービスネットワーク 市の高齢化の現状、移動サービスの現状、道路運送法等の制度、先進事例紹介、移動サービス創出のプロセスなど 2 つくば市の移動支援に対する考え方 3 つくば市での活動団体の紹介 4 福祉有償運送運転者講習会の案内（背景、メリット等）
日時（When）	候補日 7月 29 日（土） 午前中
場所（Where）	つくば市役所会議室 201（定員 180 名）
どうやって（How）	○周知方法： ①広報つくば ②チラシの配布：地域支えあい会議、地域交流センター、区会回覧、ふれあいサロン登録団体、シルバークラブ、ふれあい相談員、区長会長会、民協、憩いの広場登録団体、など ③SNS：市長ツイッターや Facebook での周知、市HP、つくば市民活動のひろば Facebook

つくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議 令和5年度の方針

地域課題	令和5年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		第1回会議				第2回会議				第3回会議		
ごみ出し支援		【第1回協議内容】				【第2回協議内容】				【第3回会議】 ・令和4～5年度地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議のまとめ ・次年度以降の会議の方向性について検討		
タスクフォース												
移動支援		【第1回協議内容】 高齢者の移動支援セミナー開催について 詳細協議				【第2回協議内容】 ・セミナー報告、振り返り ・移動支援課題の今後の取組み協議						
タスクフォース	【第4回TF】 ・実態調査について協議、調査の実施（4～5月） ・セミナー詳細検討		【第5回TF】 ・調査集計 ・セミナー開催事前調整	7/29 「高齢者の移動支援セミナー」開催		9月下旬 高齢福祉課による「福祉有償運送運転者講習会」開催		11月下旬 ・事業の評価 ・高齢者等に対するアンケート調査実施				